

新型コロナウイルス感染症拡大期における  
受診意識調査

報告書

令和3年2月  
健康保険組合連合会

# 目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法と内容	1
第2章 回答者の属性	4
1. 性別・年齢	4
2. 居住地域	5
3. 同居家族	6
4. 職業	7
5. 加入している医療保険	7
第3章 新型コロナウイルス感染拡大期における受診状況	8
1. 「持病あり」群の通院頻度の変化	8
2. 「持病あり」群の外来受診の手段	15
3. 「持病あり」群の通院の抑制による体調変化	16
4. 「持病なし・体調不良あり」群の外来受診状況	19
5. 「持病なし・体調不良あり」群の受診の抑制による体調変化	22
6. 入院・手術の受療状況	25
7. 同居する14歳以下のこどもの受診状況	29
8. 同居する65歳以上の高齢者の受診状況と体調変化	33
9. 受診控えの理由	38
10. 今後の新型コロナウイルスの感染状況に応じた通院・受診に関する考え	41
第4章 オンライン診療に関する意識	44
1. オンライン診療の受診経験の有無	44
2. オンライン診療の受診の背景・診療種類	46
3. オンライン診療の受診に対する感想、考え	47
4. 初診時のオンライン診療に対する希望	49
5. 再診時のオンライン診療に対する希望	52
第5章 医療機関等のかかりかたに関する意識	55
1. 病気になるといつも相談し診察を受ける医師・医療機関（かかりつけ）の有無	55
2. 医療機関のかかりかたに関する考え方	59
3. 薬局の利用状況	63
第6章 その他	66
1. 新型コロナウイルス感染拡大下における健康診断の延期やその理由	66
2. 健康診断時に受けたいと思うコロナウイルス関連の検査	68
3. 新型コロナウイルスの感染拡大防止のために特に必要と感じている対策	69
4. 新型コロナウイルスの感染拡大を契機とした病気や健康への意識の変化	70
5. 新型コロナウイルス感染症の治療費の負担に関する認識とあるべき姿	71
参考資料 新型コロナウイルス感染症拡大期における受診意識調査 調査内容	



# 第1章 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査「新型コロナウイルス感染症拡大期における受診意識調査」は、2020年に生じた新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の感染拡大期において、国民の医療機関へのかかり方や、現在の医療や医療保険制度に対する考えに、どのような変化があったのかを広く把握し、今後の医療政策の検討に資する基礎資料を整備することを目的に、web アンケート方式による意識調査を実施したものである。

## 2. 調査の方法と内容

### (1) 調査方法、調査対象

○実施方式： インターネット調査

○実施時期： 令和2年9月

○回収数・抽出方法：

楽天インサイト株式会社に登録した全国のモニターのうち、「疾患」サブパネルの登録モニター(本人・家族の罹患経験や通院・投薬状況、家族の要介護度等に関する同社のアンケートの回答者で構成、パネル数約528,300人)から、下記の手順で抽出した計4,623人(「持病あり」群=3,500人、「持病なし・体調不良あり」群=1,123人)を本調査の対象とした。

#### <回答者の抽出手順>

##### ① 2群の定義の設定

本調査で設定する2群を、下記のように定義づけた。

「持病あり」群	2019年12月(国内で新型コロナウイルス感染者が確認される前)の状況として、持病(けがを除く)の治療(経過観察を含む)のために、医療機関に定期的に通院していた者
「持病なし・体調不良あり」群	「持病あり」群に該当せず、かつ2020年2月以降(国内で新型コロナウイルス感染者が確認され、さらに感染者数が増加して以降)に、医療機関の受診を検討するような体調不良を経験したことがあった者(実際には受診したか否かは問わず)

##### ② 出現率調査

「④の本調査において、①の両群それぞれで1000人程度以上の回収を得る」、「③の予備調査の回収数を、全国の性別×10歳階級別の人口比と等しくなるよう設定する」、及び「性別×10歳階級別の各区分の回収数を、実際に回収が可能な範囲内に収める」ために必要なデータを得る目的で、「出現率調査」を実施し、①の両群それぞれの該当者割合を、性別×10歳階級(20歳代～70歳代)別に把握した。

##### ③ 予備調査(スクリーニング調査)

回答者が、上記①の各群に該当するか否かを問う予備調査(スクリーニング調査)を実施した。

これにあたっては、上記②の出現率調査の結果をもとに、「各性・年齢階級別について回収可能」で、かつ「(出現率がより低い)「持病なし・体調不良あり」群の回収を 1,000 人程度以上見込める」数として、予備調査の回収数を 21,546 人に設定した。また、この回収数 21,546 人を、全国の人口比に応じて性別×10 歳階級別に按分した。

#### ④ 本調査

上記③の予備調査において、②に示す「持病あり」群または「持病なし・体調不良あり」群に該当した者を対象に、本調査を実施した。うち、「持病あり」群については 3,500 人(※)の回収を得た段階で本調査を終了し、「持病なし・体調不良あり」群については、該当者全員(1,123 人)を回答対象とした。

※:3,500 人という回収数を、さらに性別×10 歳階級別に割り付ける形で設定した。各区分の割付数は、性別×10 歳階級別ごとの、「人口 × 「持病あり」群の出現率」に応じて按分した数とした。

## (2) 調査内容

区分	調査内容
(モニター情報からの収集)	◇性別 ◇年齢 ◇居住都道府県
予備調査	◇2019 年 12 月における持病の治療のための定期的な通院の有無 ◇2020 年 2 月以降における医療機関の受診を検討するような体調不良の有無
回答者属性	◇職業 ◇加入している医療保険
外来受診の状況 (「持病あり」群)	◇定期的な通院の原因疾患 ◇定期的な通院の開始時期 ◇外来受診回数(2020 年 1 月、4 月、6 月) ◇新型コロナウイルス感染拡大前の通院日の決め方 ◇新型コロナウイルス感染拡大後の通院頻度の変化、通院頻度を減らした理由、通院方法 ◇通院頻度を減らしていたことにより感じる体調の変化 ◇国全体の新型コロナウイルスの感染状況に応じた通院頻度の希望 ◇新型コロナウイルスや持病に対する不安
外来受診の状況 (「持病なし・体調不良あり」群)	◇医療機関の受診を検討するような体調不良の時期 ◇受診を検討した診療科 ◇体調不良に伴う受診の有無、受診しなかった理由 ◇受診しなかったことにより感じる体調の変化 ◇国全体の新型コロナウイルスの感染状況に応じた通院頻度の希望
入院・手術の状況	◇緊急事態宣言発令期(2020 年 4～5 月頃)における入院・転院の有無 ◇新型コロナウイルス感染拡大を理由とした入院、手術の延期・中止の有無 ◇入院、手術の延期・中止により感じる体調の変化
同居者(14 歳以下の児童、65 歳)	◇同居者の有無(年齢階級別) ◇同居者の 2019 年 12 月における持病の治療のための定期的な通院の有無

以上の高齢者)の受診等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇同居者の2020年2月以降における医療機関の受診を検討するような体調不良の有無</li> <li>◇定期的な通院履歴や体調不良があった同居者の受診の有無、受診しなかった理由</li> <li>◇緊急事態宣言発令期(2020年4~5月頃)における同居者の入院・転院の有無</li> <li>◇新型コロナウイルス感染拡大を理由とした同居者の入院、手術の延期・中止の有無</li> <li>◇受診しなかったこと、入院、手術の延期・中止により感じる体調の変化</li> </ul>
健康診断の受診状況、健康・医療に対する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇新型コロナウイルス感染拡大下における健康診断の予定や受診の有無</li> <li>◇健康診断の時期を遅らせた理由</li> <li>◇健康診断時に受けたいと思うコロナウイルス関連の検査</li> <li>◇新型コロナウイルスの感染拡大防止のために特に必要と感じている対策</li> <li>◇新型コロナウイルスの感染拡大を契機として病気や健康にかかわる回答者自身の意識がどのように変わると思うか</li> <li>◇新型コロナウイルス感染症の治療にかかる治療費の負担者に関する認識の有無、負担のあるべき姿</li> </ul>
オンライン診療に関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇オンライン診療の経験の有無</li> <li>◇オンライン診療を受けた経緯</li> <li>◇オンライン診療を受けた感想</li> <li>◇オンライン診療に対する考え</li> <li>◇オンライン診療の利用希望の有無(初診・再診別)</li> </ul>
ふだんからの医療機関のかかりかたに関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇かかりつけ医師・医療機関の有無・決め方・医療機関種別</li> <li>◇かかりつけ医師・医療機関を持たない理由</li> <li>◇かかりつけ医師・医療機関に期待するもの</li> <li>◇医療機関へのフリーアクセスに関する意識</li> </ul>
医薬品や薬局の利用状況に関する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇かかりつけ薬局・薬剤師の有無・決め方</li> <li>◇薬局・薬剤師に期待するもの</li> </ul>

### (3) 調査結果の記載に関する留意点

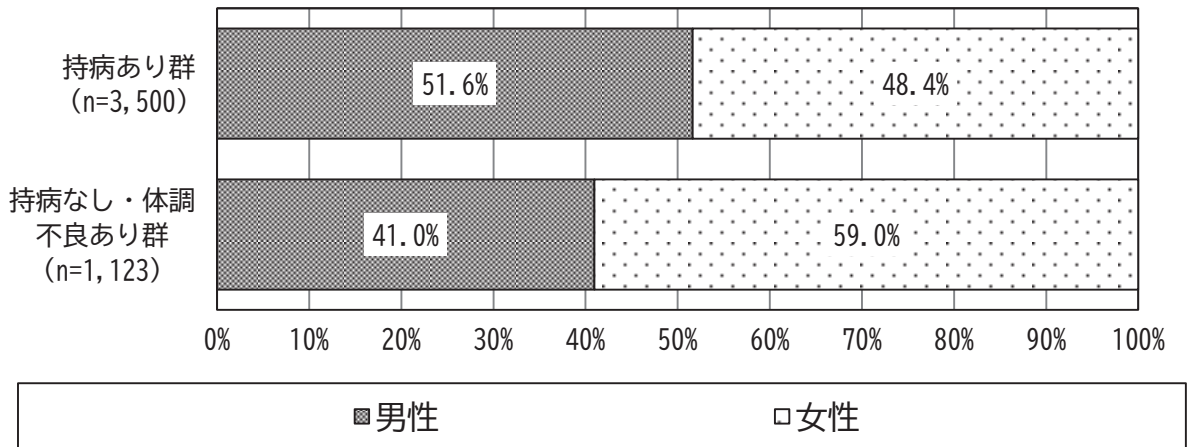
第2章以降に掲載の調査結果では、図表中において各選択肢の回答割合を記載し、本文中において複数の選択肢の回答割合の合算値を記載した部分がある。端数処理の関係上、本文中の回答割合の合算値が、図表中の各選択肢の回答割合の合計と一致しない場合がある。

## 第2章 回答者の属性

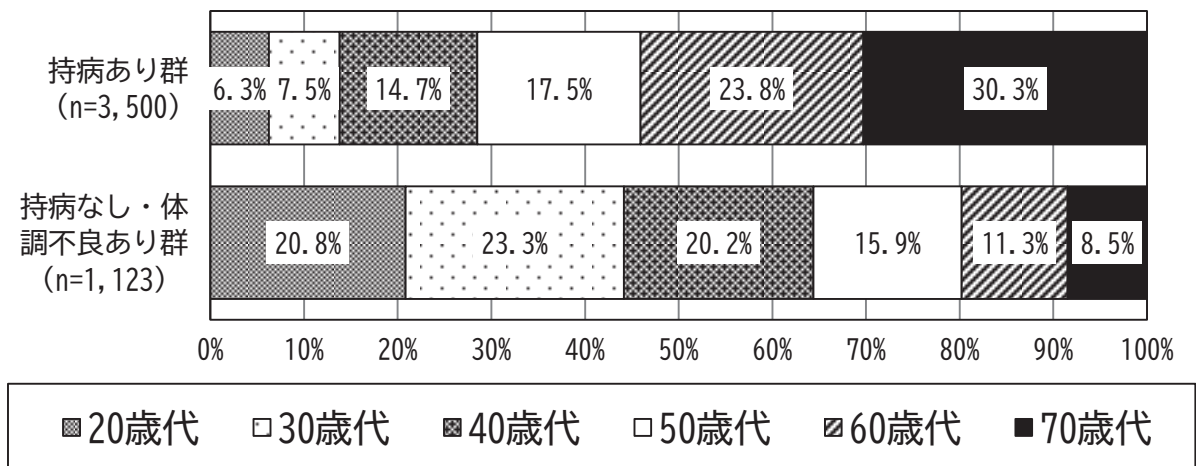
### 1. 性別・年齢

「持病あり」群と「持病なし・体調不良あり」群とでは、後者の方が女性の割合が高く、また年齢階層が低い傾向にある（図表1・図表2）。

図表 1 回答者の性別



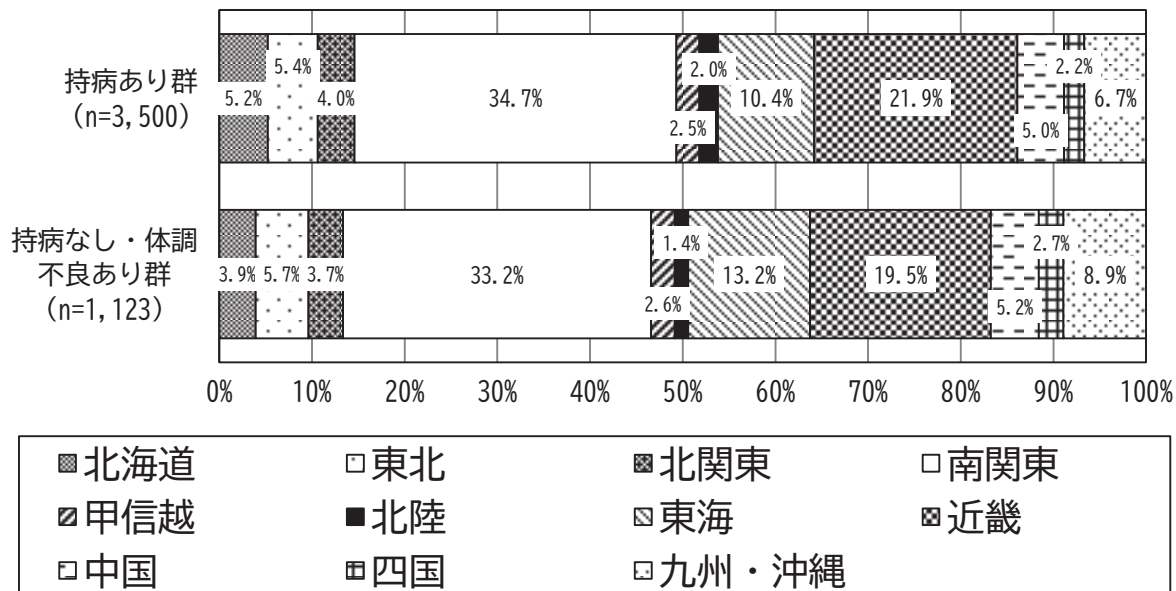
図表 2 回答者の年齢構成



## 2. 居住地域

回答者の居住地域の構成は、図表3のとおりである。

図表3 回答者の居住地域



＜地域と都道府県との対応＞

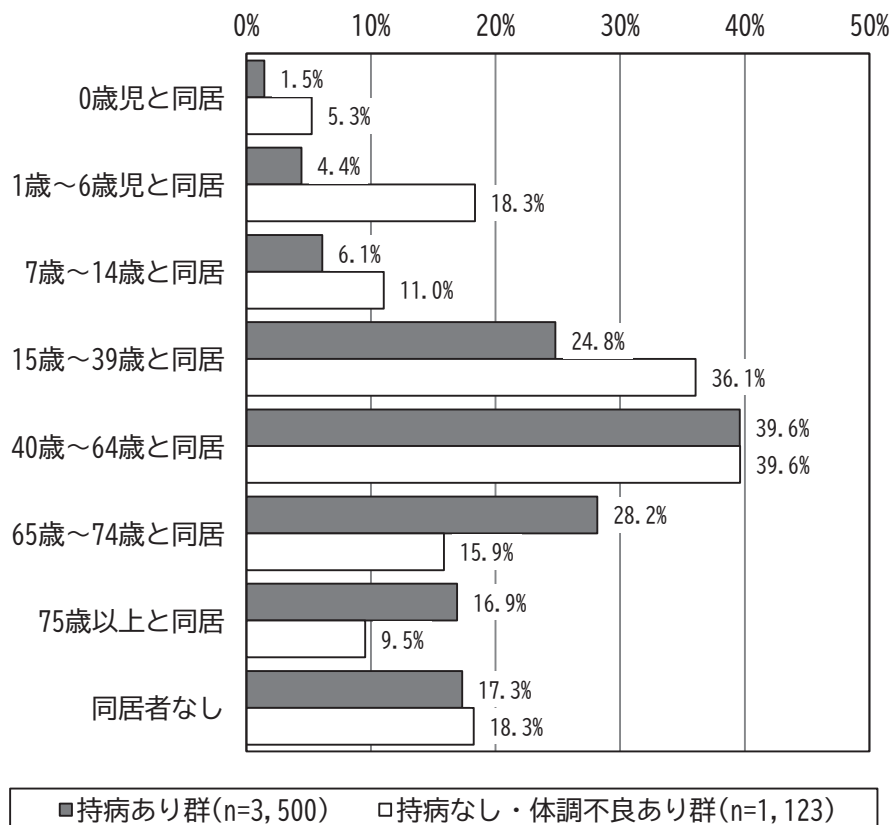
◇北海道	…北海道
◇東北	…青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
◇北関東	…茨城県・栃木県・群馬県
◇南関東	…埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県
◇甲信越	…新潟県・山梨県・長野県
◇北陸	…富山県・石川県・福井県
◇東海	…岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
◇近畿	…滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
◇中国	…鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県
◇四国	…徳島県・香川県・愛媛県・高知県
◇九州・沖縄	…福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県



### 3. 同居家族

「持病あり」群と「持病なし・体調不良あり」群とでは、年齢階層が高い傾向にある「持病あり」群の方が高齢者との同居率が高く、年齢階層が低い傾向にある「持病なし・体調不良あり」群の方が39歳以下との同居率が高い傾向にある（図表4）。

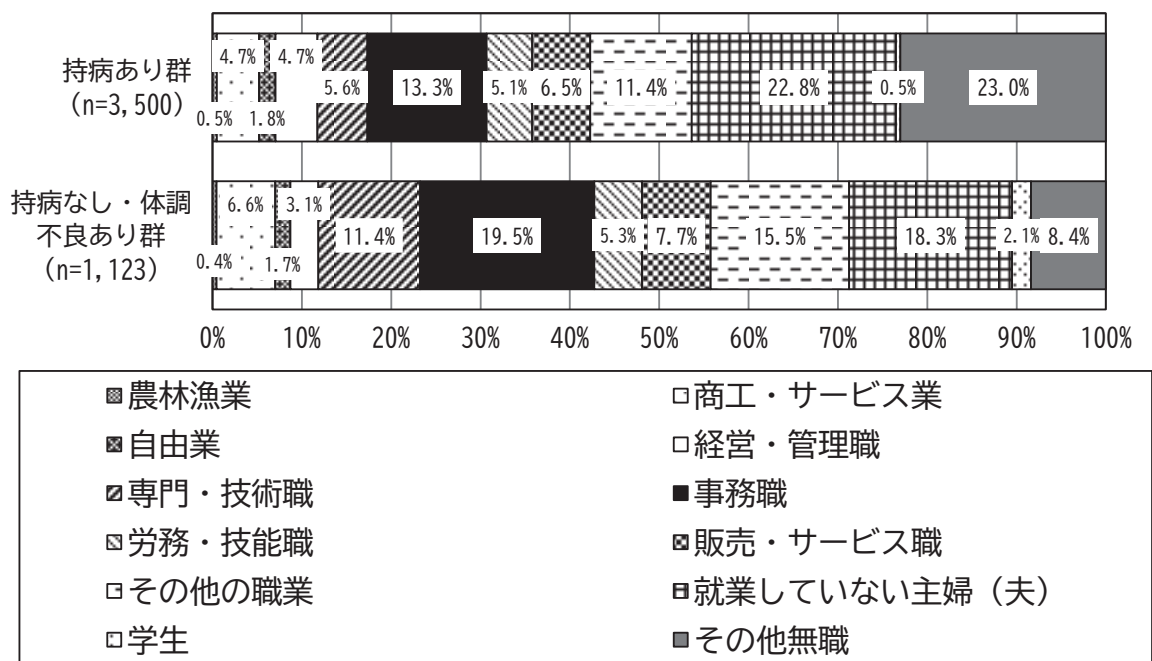
図表 4 回答者の同居家族の有無・年齢【複数回答】



#### 4. 職業

「持病あり」群と「持病なし・体調不良あり」群とでは、年齢階層が高い傾向にある「持病あり」群の方が、「就業していない主婦(夫)」や「その他無職」の割合が高い傾向にある（図表5）。

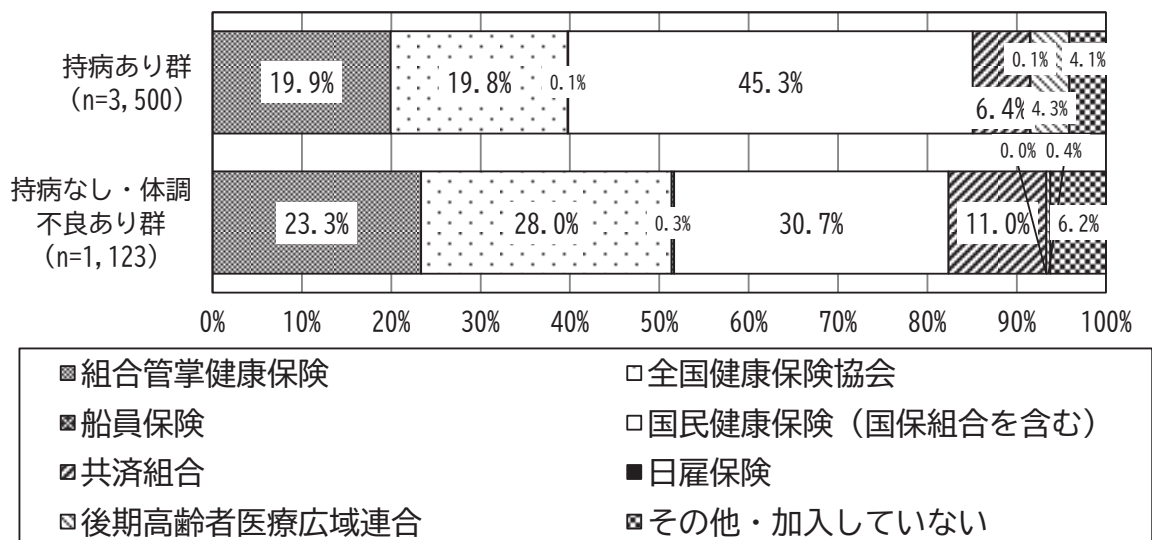
図表 5 回答者の職業



#### 5. 加入している医療保険

「持病あり」群と「持病なし・体調不良あり」群とでは、「就業していない主婦(夫)」や「その他無職」の割合が高い傾向にある「持病あり」群の方が、「国民健康保険(国保組合を含む)」の割合が高い傾向にある（図表6）。

図表 6 加入している医療保険



## 第3章 新型コロナウイルス感染拡大期における受診状況

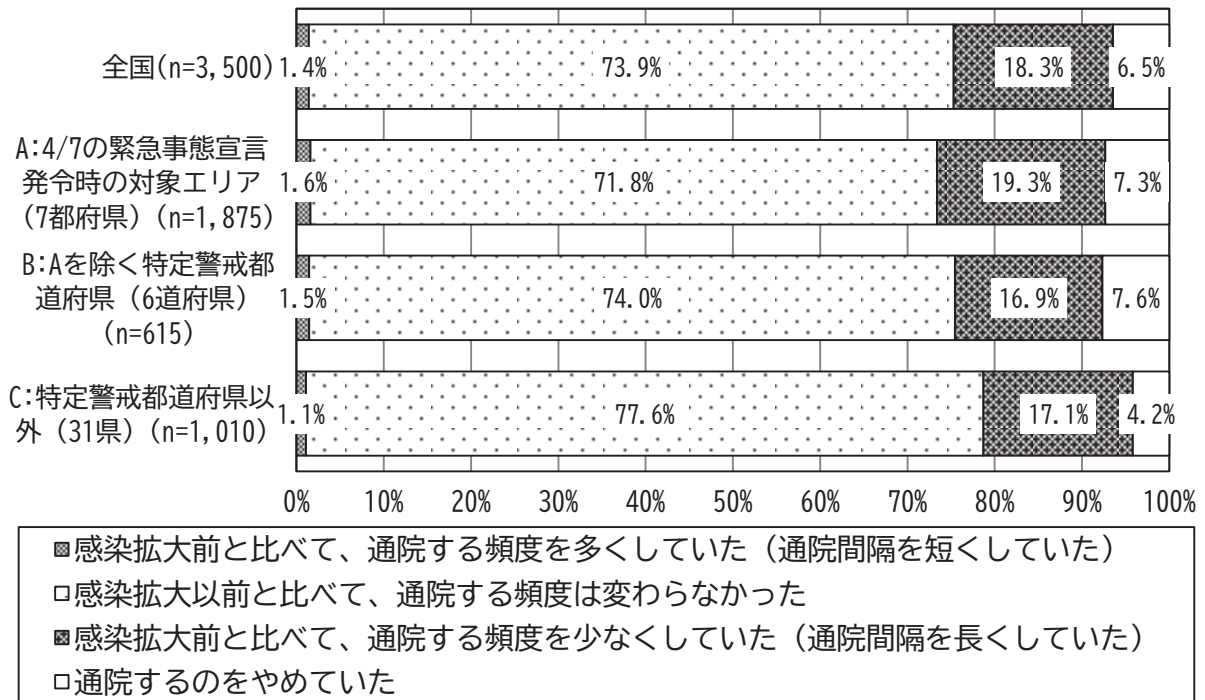
### 1. 「持病あり」群の通院頻度の変化

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4~5月頃)において、感染拡大以前と比べて通院の頻度に変化があったかについて、「持病あり」群のうち73.9%は、「通院する頻度は変わらなかった」と回答した。一方、「通院する頻度を少なくしていた」との回答割合は18.3%、「通院するのをやめていた」との回答割合は6.5%であり、「持病あり」群の24.7%が、緊急事態宣言下において、通院を抑制していた。

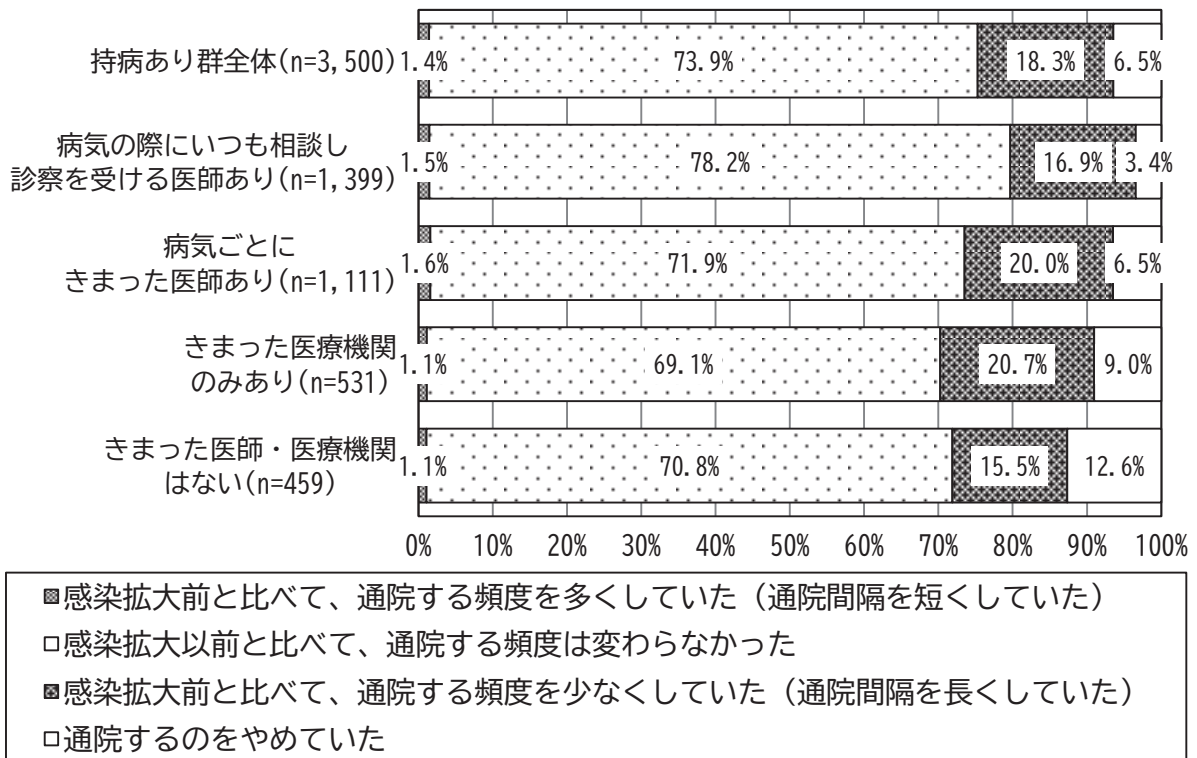
通院を抑制(頻度減+通院とりやめ)していた「持病あり」群の割合を地域別にみると、特定警戒都道府県に含まれていなかった31県では21.3%だったのに対し、4月7日の緊急事態宣言の発令当初に特定警戒都道府県に指定された7都府県(埼玉・千葉・東京・神奈川・大阪・兵庫・福岡)では26.6%、7都府県以外で、その後特定警戒都道府県に追加指定された6府県(北海道・茨城・石川・岐阜・愛知・京都)では24.4%と、その割合が高かった(図表7)。

通院を抑制(同)していた「持病あり」群の割合をかかりつけ医の有無別にみると、「病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいる」回答者では20.3%であり、「持病あり」群全体に比べて割合が低かった(図表8)。

図表 7 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における「持病あり」群の通院頻度の変化（地域別）



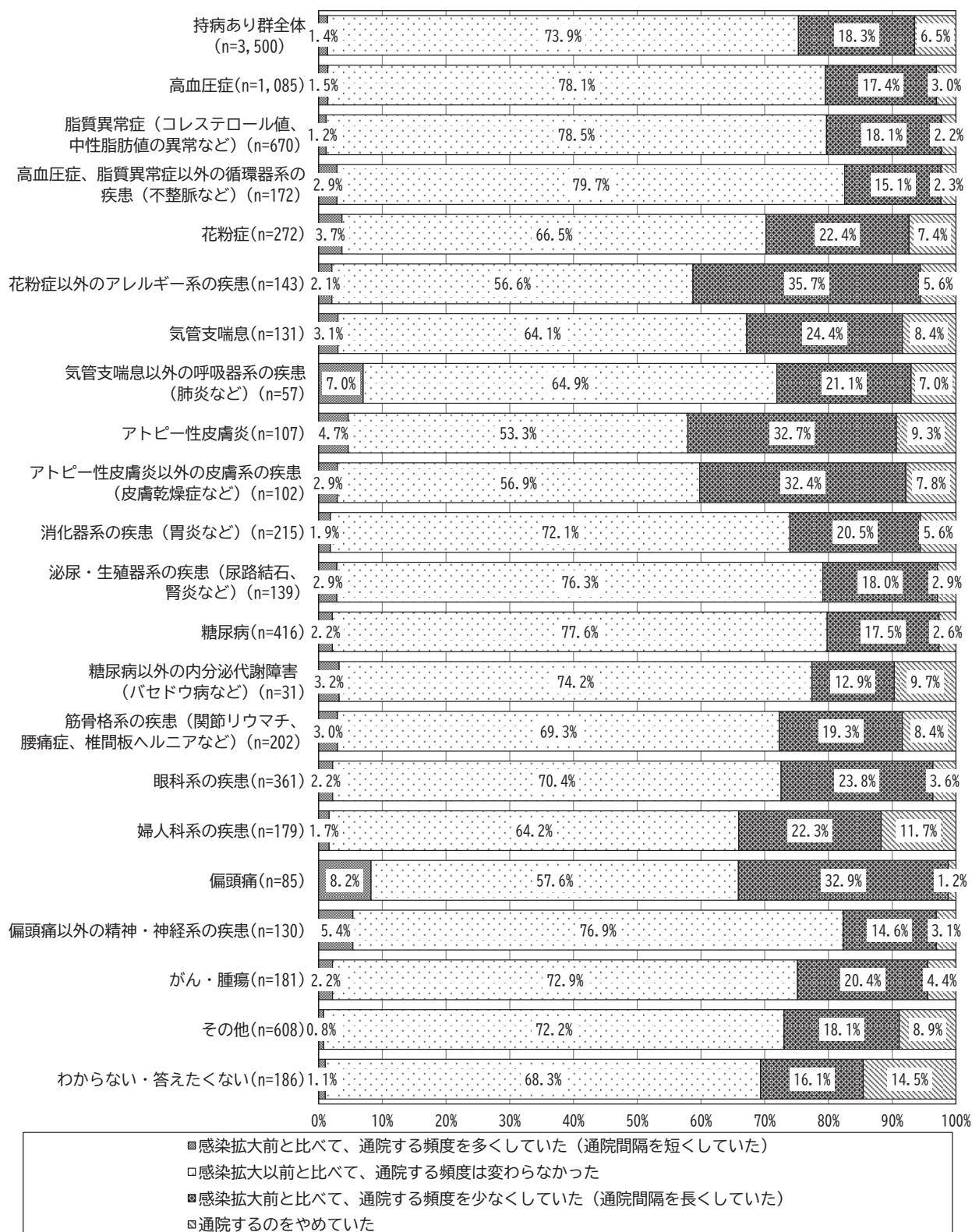
図表 8 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における「持病あり」群の通院頻度の変化（かかりつけ医の有無別）



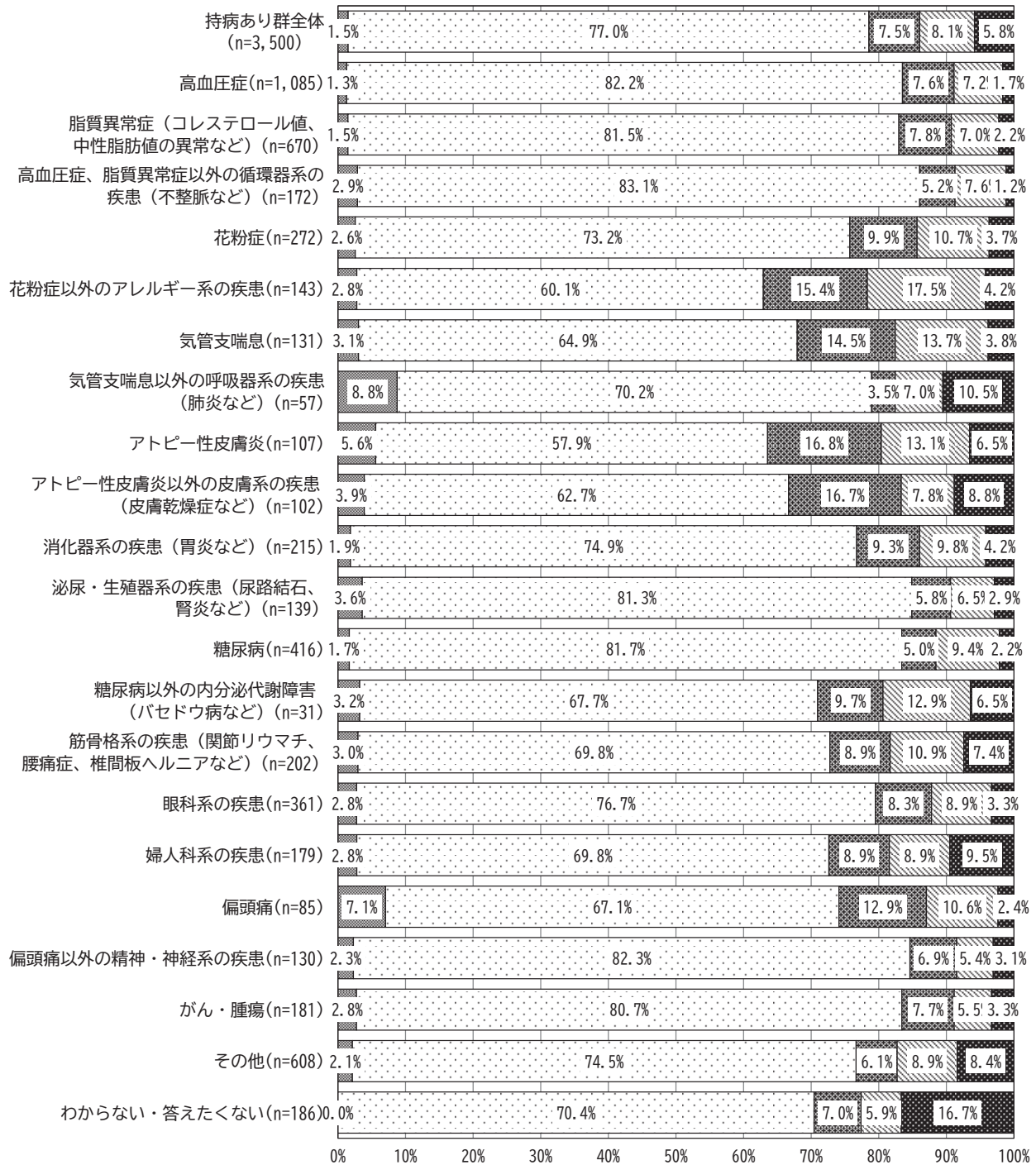
新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4~5月頃)において、通院を抑制(頻度減+通院とりやめ)していた「持病あり」群の割合を、定期的な通院を行っていた原因疾患の種類(複数回答)別にみると、「アトピー性皮膚炎」(42.1%)、「花粉症以外のアレルギー系の疾患」(41.3%)、「アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患」(40.2%)において割合が40%超と高く、「高血圧症、脂質異常症以外の循環器系の疾患」(17.4%)、「偏頭痛以外の精神・神経系の疾患」(17.7%)において割合が20%未満と低かった(図表9)。

緊急事態宣言が解除された後(2020年6月頃)において、通院を抑制(同)していた「持病あり」群の割合を、定期的な通院を行っていた原因疾患の種類(複数回答)別にみると、大半の疾患について、2020年4~5月頃よりも割合は下がっており、「花粉症以外のアレルギー系の疾患」(37.1%)、「アトピー性皮膚炎」(36.4%)、「アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患」(33.3%)における割合は、いずれも30%台となっていた(図表10)。

図表 9 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における「持病あり」群の通院頻度の変化（定期的な通院を行っている原因疾患別）



図表 10 緊急事態宣言が解除された後（2020年6月頃）における「持病あり」群の通院頻度の変化（定期的な通院を行っている原因疾患別）



感染拡大以前と比べて、通院する頻度を多くしていた  
 感染拡大以前と比べて、通院する頻度は変わらなかった  
 感染拡大前よりも通院する頻度は少ないが、緊急事態宣言中に比べれば頻度は戻った  
 感染拡大前よりも通院する頻度を少なくしたまま、緊急事態宣言解除後も戻らなかった  
 通院するのをやめていた

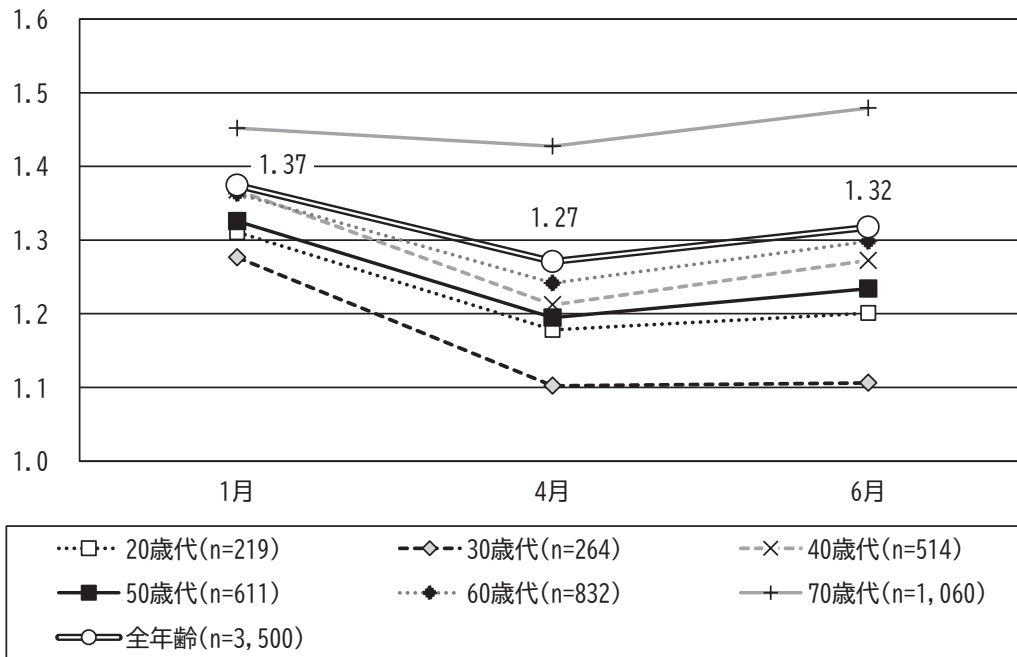


「持病あり」群の2020年1月、4月、6月の通院回数は、それぞれ平均で1.37回(最小0回、最大20回)、1.27回(最小0回、最大20回)、1.32回(最小0回、最大24回)であった(図表11)。

通院回数について、5%水準で有意な変化があったかについてみると、全年齢では、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた2020年4月には、対1月比で通院回数が有意に減少した。一方、緊急事態宣言が解除された後(2020年6月頃)には、対4月比では有意に増加(回復)したが、対1月比においては有意に少ないままであった。

これを年齢10歳階級別にみた場合は、1月→4月では、70歳代を除く全年齢階級について、通院回数が有意に減少した。また、60歳代については、2020年6月の通院回数が、対4月比においては有意に増加(回復)したが、対1月比においては有意に少ないままであった。30歳代と50歳代については、2020年6月の通院回数が、対4月比において、有意な増加(回復)はみられず、対1月比においても有意に少ないままであった(図表12)。

図表 11 緊急事態宣言の前・期間中・後(2020年1月・4月・6月)における「持病あり」群の1ヶ月の通院回数の推移(年齢階級別、数字は全年齢の値)



図表 12 緊急事態宣言の前・期間中・後(2020年1月・4月・6月)における「持病あり」群の1ヶ月の通院回数の変化(年齢階級別、縦棒は95%信頼区間)

年齢階級	回答者数	外来受診回数(回)			外来受診回数の変化(回)								
		1月	4月	6月	1月→4月			4月→6月			1月→6月		
		平均値	平均値	平均値	変化の平均	t統計量	有意水準	変化の平均	t統計量	有意水準	変化の平均	t統計量	有意水準
20歳代	219	1.31	1.18	1.20	-0.13	-1.982	2.44% *	0.02	0.430	33.40%	-0.11	-1.541	6.24% †
30歳代	264	1.28	1.10	1.11	-0.17	-2.427	0.80% **	0.00	0.067	47.35%	-0.17	-2.209	1.40% *
40歳代	514	1.37	1.21	1.27	-0.16	-3.761	0.01% ***	0.06	1.139	12.76%	-0.10	-1.628	5.21% †
50歳代	611	1.33	1.19	1.23	-0.13	-4.082	0.00% ***	0.04	1.484	6.91% †	-0.09	-2.531	0.58% **
60歳代	832	1.36	1.24	1.30	-0.12	-3.933	0.00% ***	0.06	1.933	2.68% *	-0.06	-1.747	4.05% *
70歳代	1,060	1.45	1.43	1.48	-0.02	-0.683	24.75%	0.05	1.440	7.51% †	0.03	0.610	27.10%
全年齢	3,500	1.37	1.27	1.32	-0.10	-6.097	0.00% ***	0.05	2.791	0.26% **	-0.06	-2.740	0.31% **

凡例 \*\*\*:有意水準0.1%未満 \*\* :有意水準1%未満 \* :有意水準5%未満 † :有意水準10%未満



新型コロナウイルス感染拡大前(2020年1月頃)において、「持病あり」群が通院する日を決定していた理由としては、54.3%が「医師に受診するように指示された日(定期的な通院を含む)」、47.1%が「処方された薬がなくなりそう、またはなくなった時」との回答が多かった。これを疾患別にみると、「医師に受診するように指示された日(定期的な通院を含む)」の回答が相対的に多かったのは、「がん・腫瘍」(87.3%)や「筋骨格系の疾患」(74.8%)であり、「処方された薬がなくなりそう、またはなくなった時」との回答が対的に多かったのは、「花粉症以外のアレルギー系の疾患」(71.3%)や「アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患」(70.6%)だった(図表13)。

図表 13 新型コロナウイルス感染拡大の前(2020年1月頃)において「持病あり」群が通院する日を決定していた理由【複数回答】

	回答者数	通院する日を決定していた理由(どのような時に通院していたか)					
		医師に受診するように指示された日(定期的な通院を含む)	処方された薬がなくなりそう、またはなくなった時	病状・体調が悪い日	病状・体調がよい日	都合がつく日	その他
持病あり群全体	3,500	54.3%	47.1%	5.4%	0.7%	10.5%	0.3%
高血圧症	1,085	47.5%	58.3%	4.4%	0.5%	7.4%	0.1%
脂質異常症(コレステロール値、中性脂肪値の異常など)	670	47.0%	62.2%	4.2%	0.9%	5.5%	0.1%
高血圧症、脂質異常症以外の循環器系の疾患(不整脈など)	172	61.0%	53.5%	9.3%	2.3%	4.7%	0.0%
花粉症	272	43.4%	60.7%	12.1%	1.8%	12.9%	0.4%
花粉症以外のアレルギー系の疾患	143	40.6%	71.3%	16.1%	4.9%	13.3%	0.0%
気管支喘息	131	48.9%	56.5%	12.2%	2.3%	13.7%	0.0%
気管支喘息以外の呼吸器系の疾患(肺炎など)	57	73.7%	29.8%	21.1%	3.5%	10.5%	0.0%
アトピー性皮膚炎	107	34.6%	57.0%	11.2%	2.8%	18.7%	0.0%
アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患(皮膚乾燥症など)	102	41.2%	70.6%	11.8%	2.0%	13.7%	0.0%
消化器系の疾患(胃炎など)	215	55.3%	55.3%	11.2%	1.9%	12.1%	0.0%
泌尿・生殖器系の疾患(尿路結石、腎炎など)	139	63.3%	47.5%	7.9%	0.7%	11.5%	0.7%
糖尿病	416	64.7%	41.8%	4.1%	1.0%	7.2%	0.0%
糖尿病以外の内分泌代謝障害(パセドウ病など)	31	61.3%	35.5%	9.7%	3.2%	22.6%	0.0%
筋骨格系の疾患(関節リウマチ、腰痛症、椎間板ヘルニアなど)	202	74.8%	40.1%	10.4%	1.5%	13.9%	0.0%
眼科系の疾患	361	66.2%	48.2%	8.9%	1.1%	10.2%	0.0%
婦人科系の疾患	179	62.0%	43.0%	10.1%	1.7%	16.2%	0.0%
偏頭痛	85	50.6%	56.5%	22.4%	1.2%	18.8%	0.0%
偏頭痛以外の精神・神経系の疾患	130	66.9%	39.2%	11.5%	0.8%	15.4%	0.0%
がん・腫瘍	181	87.3%	21.0%	6.1%	0.6%	6.6%	0.0%
その他	608	66.3%	37.2%	4.8%	0.3%	11.2%	1.0%
わからない・答えたくない	186	53.8%	30.6%	2.2%	2.2%	20.4%	0.5%

## 2. 「持病あり」群の外来受診の手段

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4~5月頃)における通院方法については、「持病あり」群のうち6.8%が、「ふだんとは異なる医療機関に通院していた」と回答した。また、「電話を利用して、医師の診療を受けた」との回答は6.6%、「インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療を受けた」との回答は1.9%だった。

通院方法を、定期的な通院を行っていた原因疾患の種類(複数回答)別にみると、「ふだんとは異なる医療機関に通院していた」は、「偏頭痛」(14.1%)が最も高く、「アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患」「消化器系の疾患」(9.8%)、「糖尿病以外の内分泌代謝障害」(9.7%)の順に高かった。また、「電話を利用して、医師の診察を受けた」は、「気管支喘息以外の呼吸器系の疾患」(14.0%)、「気管支喘息」(13.7%)、「偏頭痛以外の精神・神経系の疾患」(12.3%)—などとなった。さらに、「インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療を受けた」では、「偏頭痛」(9.4%)、「アトピー性皮膚炎」(7.5%)、「花粉症」(7.4%)が高かった(図表14)。

図表 14 緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4~5月頃)における「持病あり」群の外来受診の手段(定期的な通院を行っている原因疾患別)【複数回答】

	回答者数	通院方法			
		た医電 師話 のを 診利 療用 をし 受て け	けでしテイ た医てレン 師、ピタ のオ電！ 診ン話ネ 療ラをツ をイ利ト 受ン用や	い療普 た機段 関とは には 通異 院なる して医	らい な ず い れ も 当 て は ま
「持病あり」群全体	3,500	6.6%	1.9%	6.8%	85.3%
高血圧症	1,085	7.2%	1.5%	6.7%	85.1%
脂質異常症(コレステロール値、中性脂肪値の異常など)	670	6.1%	2.1%	8.2%	84.2%
高血圧症、脂質異常症以外の循環器系の疾患(不整脈など)	172	5.8%	4.1%	8.7%	84.3%
花粉症	272	11.8%	7.4%	9.2%	72.8%
花粉症以外のアレルギー系の疾患	143	9.8%	7.0%	9.1%	79.0%
気管支喘息	131	13.7%	3.8%	6.1%	80.2%
気管支喘息以外の呼吸器系の疾患(肺炎など)	57	14.0%	7.0%	8.8%	77.2%
アトピー性皮膚炎	107	9.3%	7.5%	8.4%	77.6%
アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患(皮膚乾燥症など)	102	9.8%	4.9%	9.8%	80.4%
消化器系の疾患(胃炎など)	215	9.3%	2.3%	9.8%	80.9%
泌尿・生殖器系の疾患(尿路結石、腎炎など)	139	3.6%	2.9%	6.5%	88.5%
糖尿病	416	7.0%	1.2%	6.7%	86.3%
糖尿病以外の内分泌代謝障害(バセドウ病など)	31	9.7%	3.2%	9.7%	83.9%
筋骨格系の疾患(関節リウマチ、腰痛症、椎間板ヘルニアなど)	202	7.4%	2.0%	7.4%	84.2%
眼科系の疾患	361	5.8%	1.9%	3.0%	89.8%
婦人科系の疾患	179	5.0%	2.8%	6.1%	87.7%
偏頭痛	85	10.6%	9.4%	14.1%	70.6%
偏頭痛以外の精神・神経系の疾患	130	12.3%	3.8%	7.7%	78.5%
がん・腫瘍	181	7.2%	1.1%	5.0%	88.4%
その他の疾病	608	5.9%	1.0%	4.8%	89.0%
わからない・答えたくない	186	8.1%	1.6%	7.5%	83.9%

### 3. 「持病あり」群の通院の抑制による体調変化

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が解除された後(2020年6月頃)において、通院を抑制(頻度減+通院とりやめ)していた「持病あり」群のうち、7.3%が「通院しない、あるいは頻度を少なくしても体調が回復した」、69.4%が「特に体調が悪くなったとは感じない」と回答した。一方、「体調が(少し+とても)悪くなったと感じる」との回答は12.1%だった。

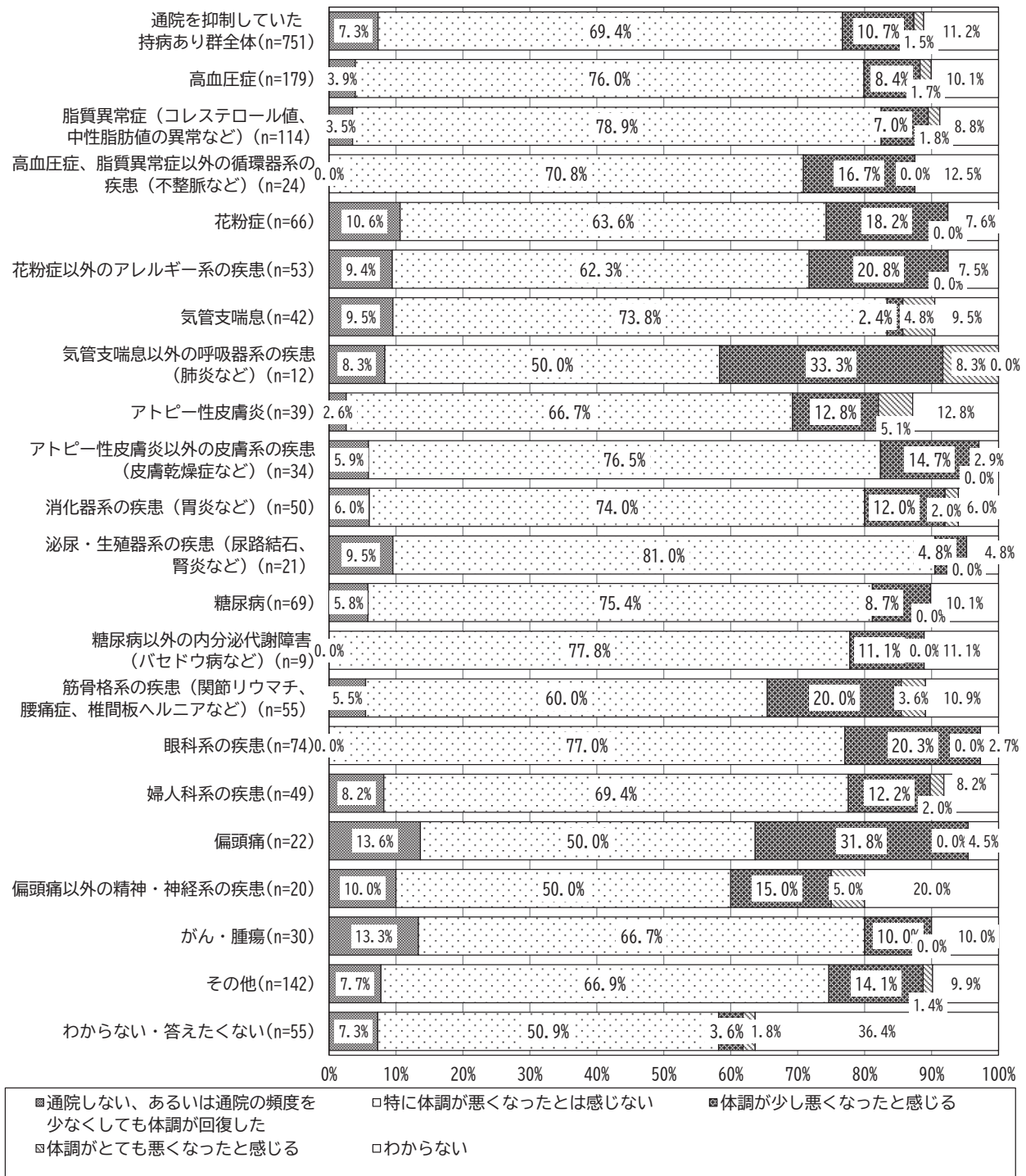
30人以上の回答があった疾患のうち、「通院しない、あるいは頻度を少なくしても体調が回復した」との回答割合が高かった疾患は、「がん・腫瘍」(13.3%)、「花粉症」(10.6%)、「気管支喘息」(9.5%)の順に高かった。また、「特に体調が悪くなったとは感じない」では、「脂質異常症」(78.9%)、「眼科系の疾患」(77.0%)、「アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患」(76.5%)—などとなった。一方で、「体調が(少し+とても)悪くなったと感じる」疾患は、「筋骨格系の疾患」(23.6%)、「花粉症以外のアレルギー疾患」(20.8%)、「眼科系の疾患」(20.3%)の順に高かった(図表15)。

通院を抑制(同)していた「持病あり」群の体調の変化について、通院を抑制していた理由別(30人以上の回答があった理由)にみると、体調の変化について「通院しない、あるいは頻度を少なくしても体調が回復した」と回答した割合が全体(7.3%)よりも高かったのは、通院を抑制していた理由が「病状・体調が回復したから」(32.7%)、「自身の体調管理により、通院する必要性を感じなくなった、あるいは頻度を減らしてもよいと感じたから」(12.0%)だった。

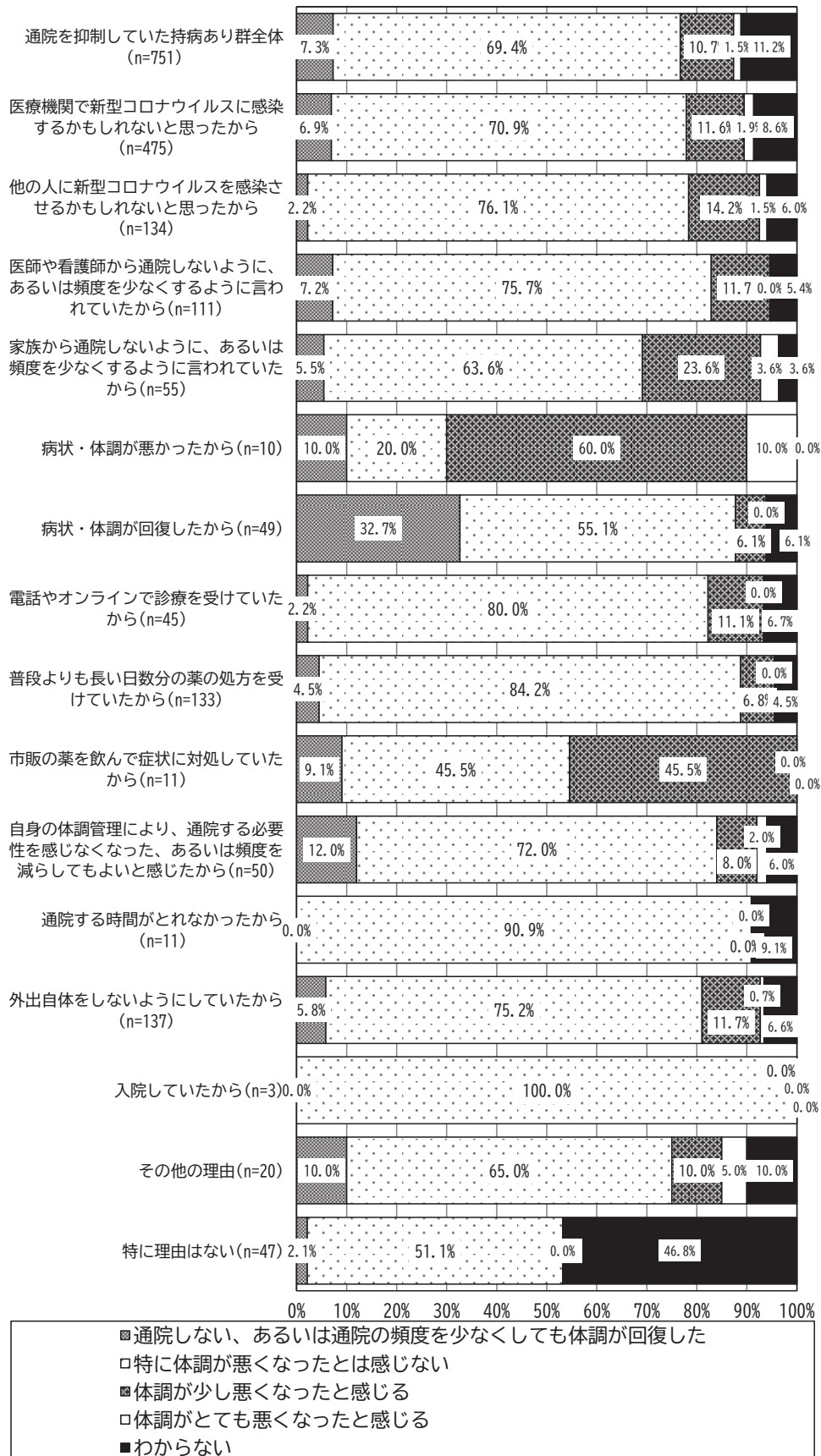
また、体調の変化について「特に体調が悪くなったとは感じない」と回答した割合が全体(69.4%)よりも高かったのは、通院を抑制していた理由が「普段よりも長い日数分の薬の処方を受けていたから」(84.2%)、「電話やオンラインで診療を受けていたから」(80.0%)、「他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから」(76.1%)のほか、「自身の体調管理により、通院する必要性を感じなくなった、あるいは頻度を減らしてもよいと感じたから」(72.0%)などとなった。

一方、体調の変化について「体調が(少し+とても)悪くなったと感じる」と回答した割合が全体(12.1%)よりも高かったのは、通院を抑制していた理由が「家族から通院しないように、あるいは頻度を少なくするように言われていたから」(27.3%)、「他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから」(15.7%)、「医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから」(13.5%)などとなった(図表16)。

図表 15 緊急事態宣言が解除された後（2020年6月頃）において、緊急事態宣言前よりも通院を抑制していた「持病あり」群のうち、通院の抑制に伴って感じる体調の変化（定期的な通院を行っている原因疾患【複数回答】別）



図表 16 緊急事態宣言が解除された後（2020年6月頃）において、緊急事態宣言前よりも通院を抑制していた「持病あり」群のうち、通院の抑制に伴って感じる体調の変化（抑制していた理由【複数回答】別）





#### 4. 「持病なし・体調不良あり」群の外来受診状況

新型コロナウイルスの感染拡大以降(2020年2月以降)における、「医療機関の受診を検討するような体調不良」の際の外来受診の状況について、「持病なし・体調不良あり」群のうち61.8%が、「ふだん受診することが多い医療機関を、外来で受診した」と回答した。一方、「ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関を、外来で受診した」との回答は25.8%、「電話を利用して、医師の診療を受けた」との回答は1.2%、「インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療を受けた」との回答は0.3%、「外来での受診はしなかった」との回答は14.2%だった(図表17)。

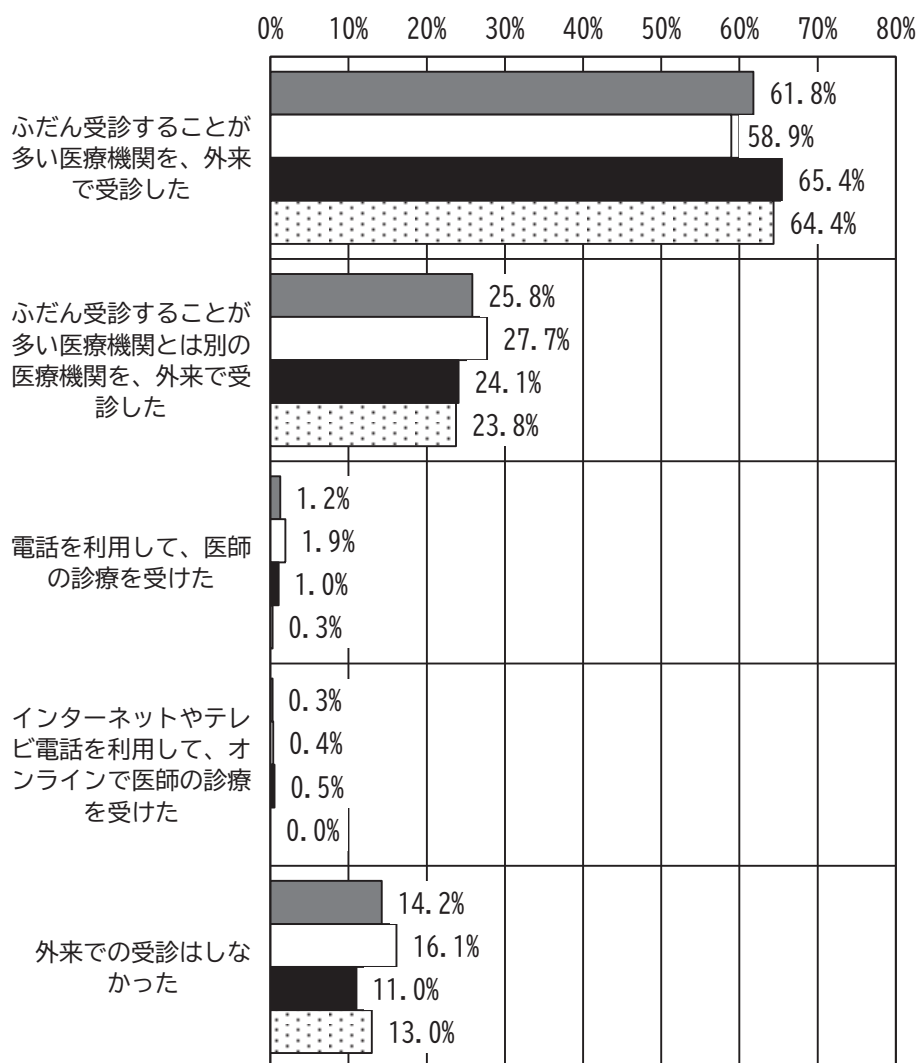
これを地域別にみると、4月7日の緊急事態宣言の発令当初の対象エリアの7都府県(埼玉・千葉・東京・神奈川・大阪・兵庫・福岡)では、「ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関を、外来で受診した」との回答が27.7%、「外来での受診はしなかった」との回答が16.1%であり、それぞれ全国平均よりも割合が高かった(図表18)。

かかりつけ医の有無別にみると、「病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいる」回答者に比べ、「いつもかかる医療機関はあるが、診察を受ける医師は決まっていない」「そのような医師・医療機関はない」回答者では、ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関の受診や、無受診の割合が高かった(図表19)。

図表 17 新型コロナウイルスの感染拡大以降(2020年2月以降)における  
「持病なし・体調不良あり」群の外来受診の状況  
(受診を検討した診療科別)【複数回答】

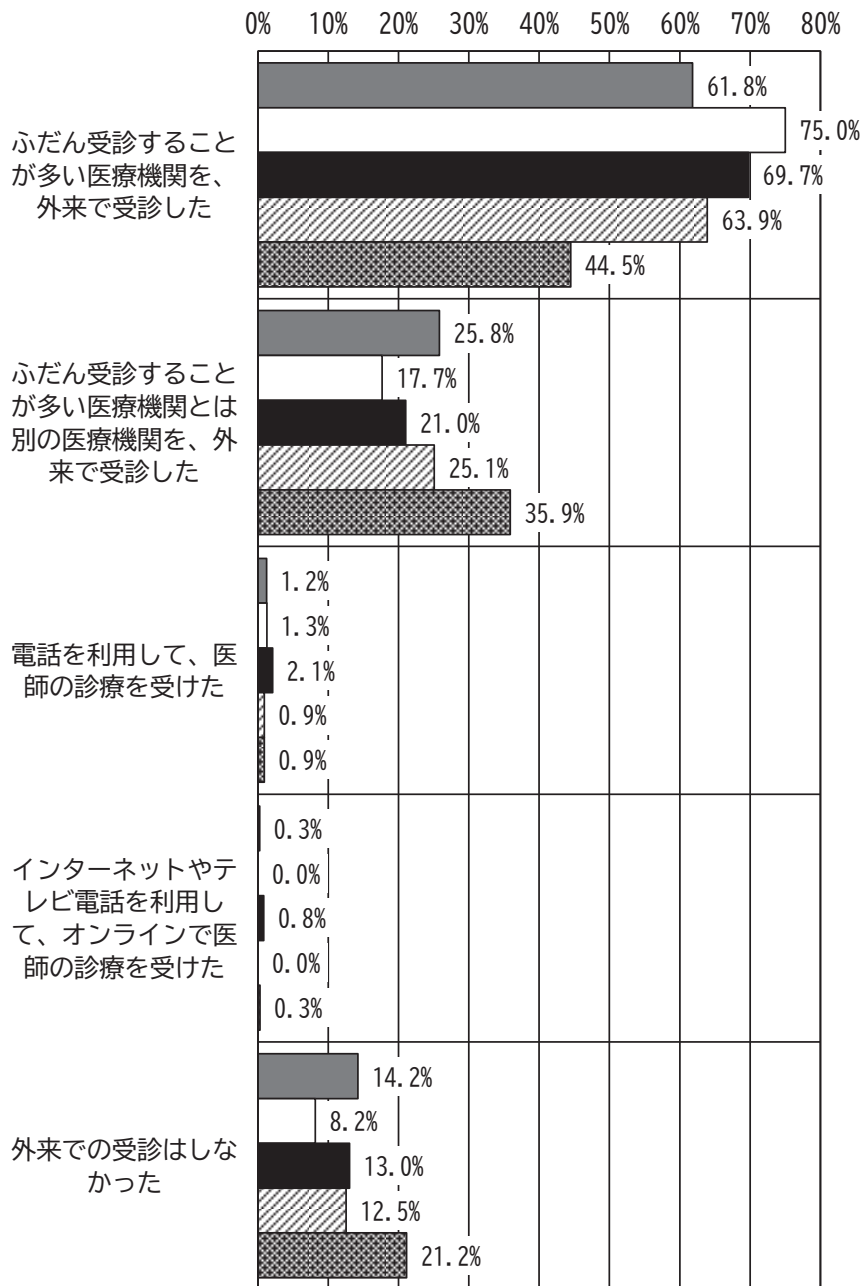
	回答者数	外来受診の有無、方法					
		ふだん受診することが多い医療機関を、外来で受診した	ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関を、外来で受診した	電話を利用して、医師の診療を受けた	インターネットやテレビ電話を利用して、医師の診療を受けた	外来での受診はしなかった	
持病なし・体調不良あり群全体	1,123	61.8%	25.8%	1.2%	0.3%	14.2%	
受診を検討した診療科	内科	565	61.1%	23.0%	1.8%	0.2%	18.2%
	耳鼻咽喉科	119	69.7%	21.0%	0.0%	0.0%	10.1%
	外科	20	45.0%	40.0%	0.0%	0.0%	15.0%
	アレルギー科	6	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%
	呼吸器科	25	48.0%	48.0%	0.0%	4.0%	8.0%
	皮膚科	67	73.1%	23.9%	0.0%	0.0%	3.0%
	泌尿器科	23	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	4.3%
	整形外科	88	62.5%	28.4%	1.1%	1.1%	11.4%
	眼科	22	68.2%	22.7%	0.0%	0.0%	9.1%
	産婦人科	53	60.4%	34.0%	0.0%	0.0%	7.5%
	神経内科	4	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	精神科	27	55.6%	25.9%	3.7%	0.0%	18.5%
	その他の診療科	104	56.7%	32.7%	1.9%	0.0%	12.5%

図表 18 新型コロナウイルスの感染拡大以降（2020年2月以降）における  
「持病なし・体調不良あり」群の外来受診の状況  
(地域別)【複数回答】



■全国(n=1,123)  
 □A:4/7の緊急事態宣言発令時の対象エリア(7都府県)(n=570)  
 ■B:Aを除く特定警戒都道府県(6道府県)(n=191)  
 □C:特定警戒都道府県以外(31県)(n=362)

図表 19 新型コロナウイルスの感染拡大以降（2020年2月以降）における  
「持病なし・体調不良あり」群の外来受診の状況  
(かかりつけ医の有無別)【複数回答】



- 持病なし・体調不良あり群全体(n=1,123)
- 病気の際にいつも相談し診察を受ける医師あり(n=232)
- 病気ごとにきまった医師あり(n=238)
- ▣きまった医療機関のみあり(n=327)
- ▤きまった医師・医療機関はない(n=326)



## 5. 「持病なし・体調不良あり」群の受診の抑制による体調変化

新型コロナウイルスの感染拡大以降(2020年2月以降)において、受診を検討するような体調不良があったにもかかわらず、受診をしなかった「持病なし・体調不良あり」群のうち、59.4%が「受診をしなくても体調が回復した」、16.9%が「特に体調が悪くなったとは感じない」と回答した。一方、「体調が(少し+とても)悪くなったと感じる」との回答は15.6%だった。

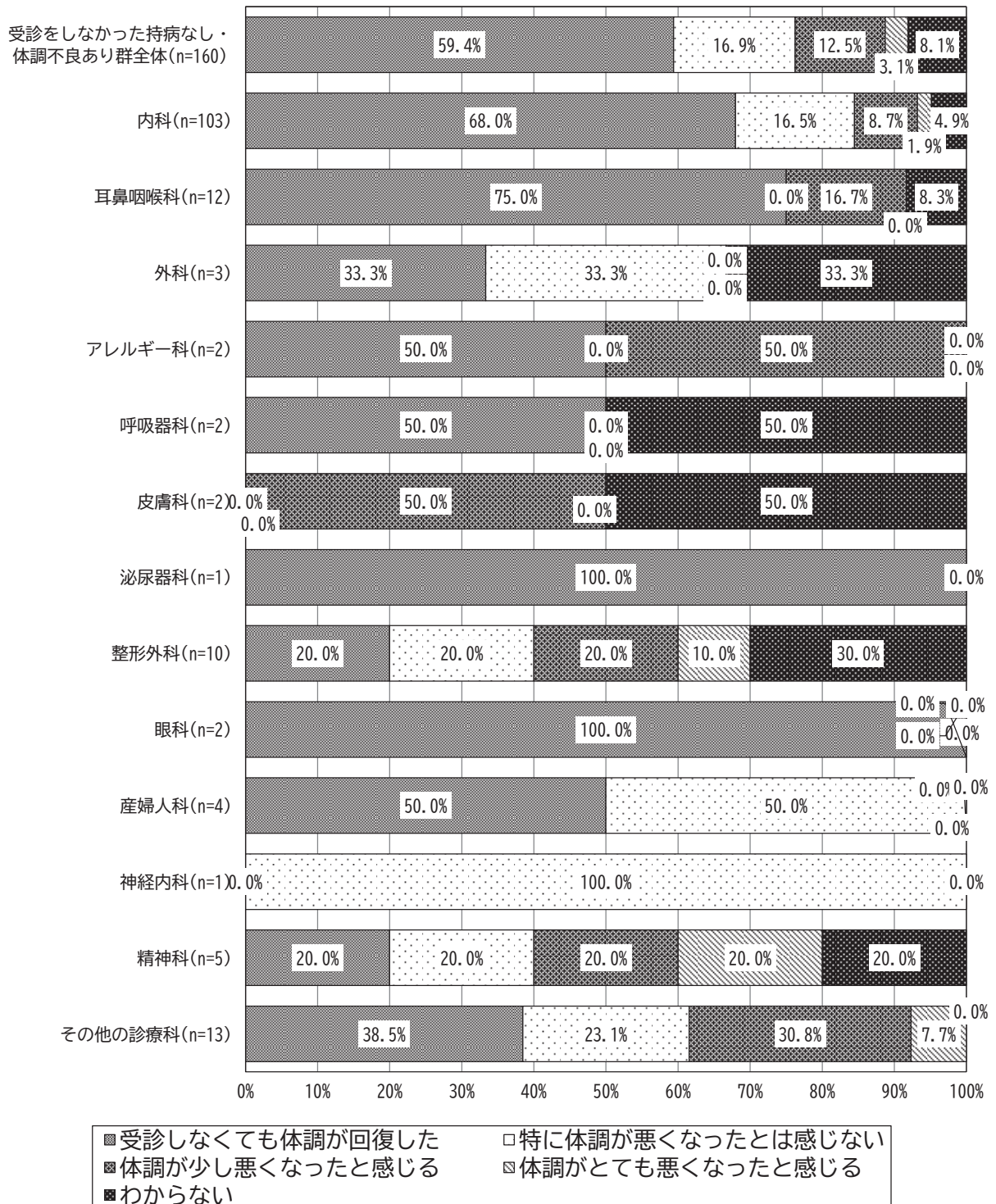
体調不良の際に受診を検討した診療科別にみると、受診をしなかった「持病なし・体調不良あり」群の中で唯一30人以上の回答があった診療科である内科では、68.0%が「受診をしなくても体調が回復した」、16.5%が「特に体調が悪くなったとは感じない」と回答した。一方、「体調が(少し+とても)悪くなったと感じる」との回答は10.7%だった(図表20)。

受診をしなかった「持病なし・体調不良あり」群の体調の変化について、受診しなかった理由別(30人以上の回答があった理由)にみると、体調の変化について「受診しなくても体調が回復した」と回答した割合が全体(59.4%)よりも高かったのは、「病状・体調が回復したから」(81.4%)、「市販の薬を飲んで症状に対処していたから」(70.4%)、「他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったら」(63.6%)だった。

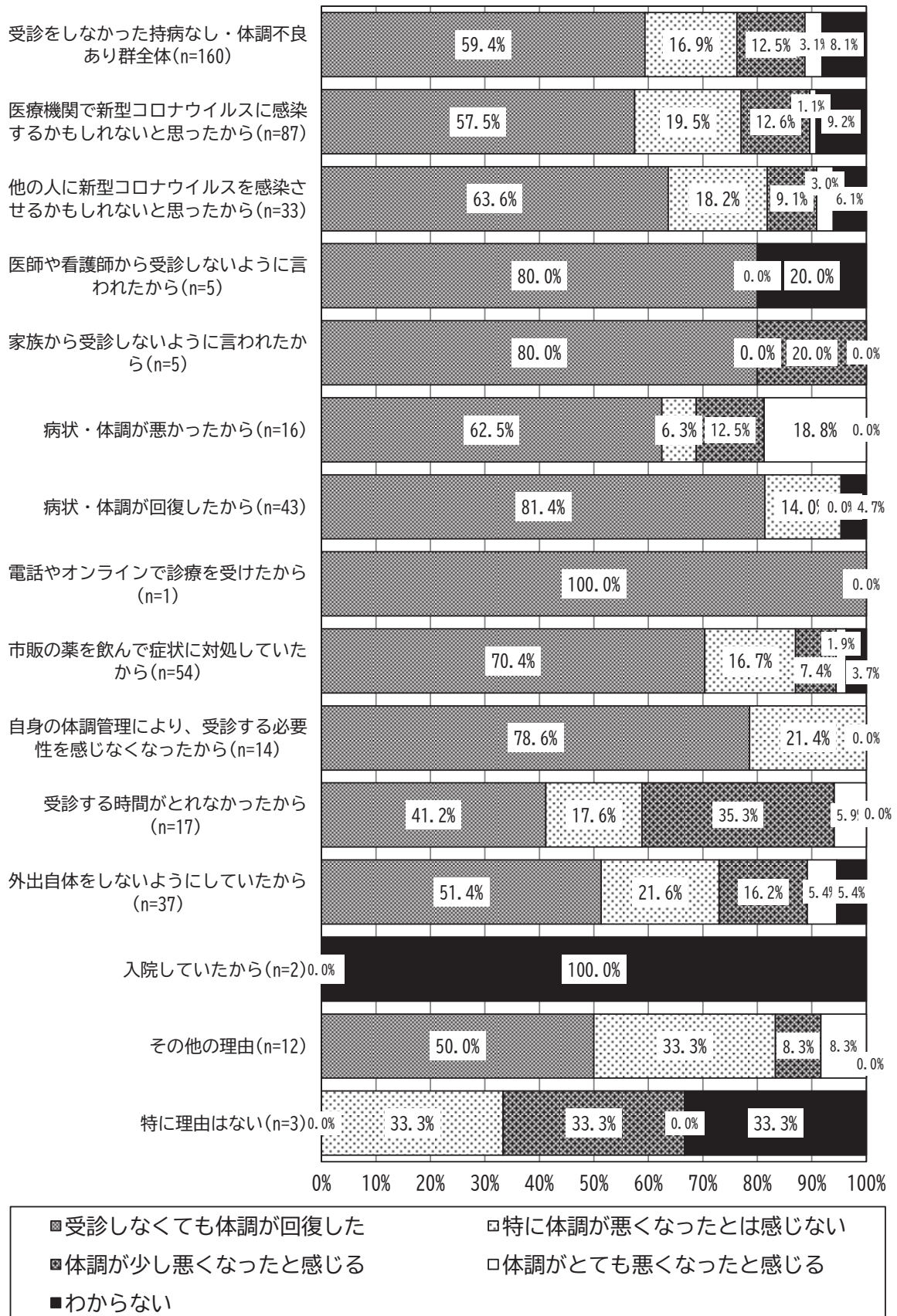
また、体調の変化について「特に体調が悪くなったとは感じない」と回答した割合が全体(16.9%)よりも高かったのは、「外出自体をしないようにしていたから」(21.6%)、「医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから」(19.5%)、「他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから」(18.2%)だった。

一方、体調の変化について「体調が(少し+とても)悪くなった」と回答した割合が全体(15.6%)よりも高かったのは、「外出自体をしないようにしていたから」(21.6%)だった(図表21)。

図表 20 新型コロナウイルスの感染拡大以降（2020年2月以降）の体調不良時に受診をしなかった「持病なし・体調不良あり」群のうち、受診を控えたことで感じる体調の変化（受診を検討した診療科【複数回答】別）



図表 21 新型コロナウイルスの感染拡大以降（2020年2月以降）の体調不良時に受診をしなかった「持病なし・体調不良あり」群のうち、受診しなかったことで感じる体調の変化（受診しなかった理由【複数回答】別）



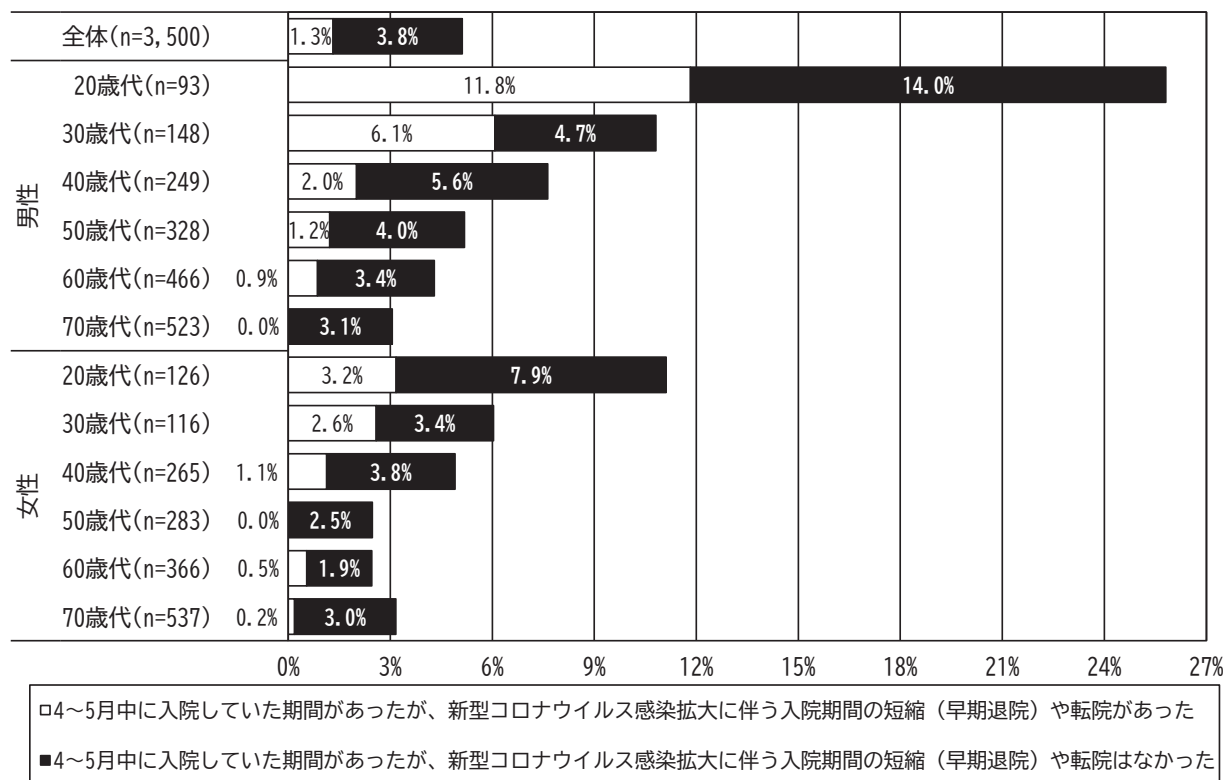
## 6. 入院・手術の受療状況

「持病あり」群のうち、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4～5月頃)において、「感染拡大を理由とした入院期間の短縮(早期退院)や転院があった」とする回答は1.3%だった。これを性・年齢階級別にみると、「男性・20歳代」では11.8%と「持病あり」群全体に比べ特に高かった(図表22)。一方、「持病なし・体調不良あり」群のうち、「感染拡大を理由とした入院期間の短縮(早期退院)や転院があった」とする回答は1.0%だった(図表23)。

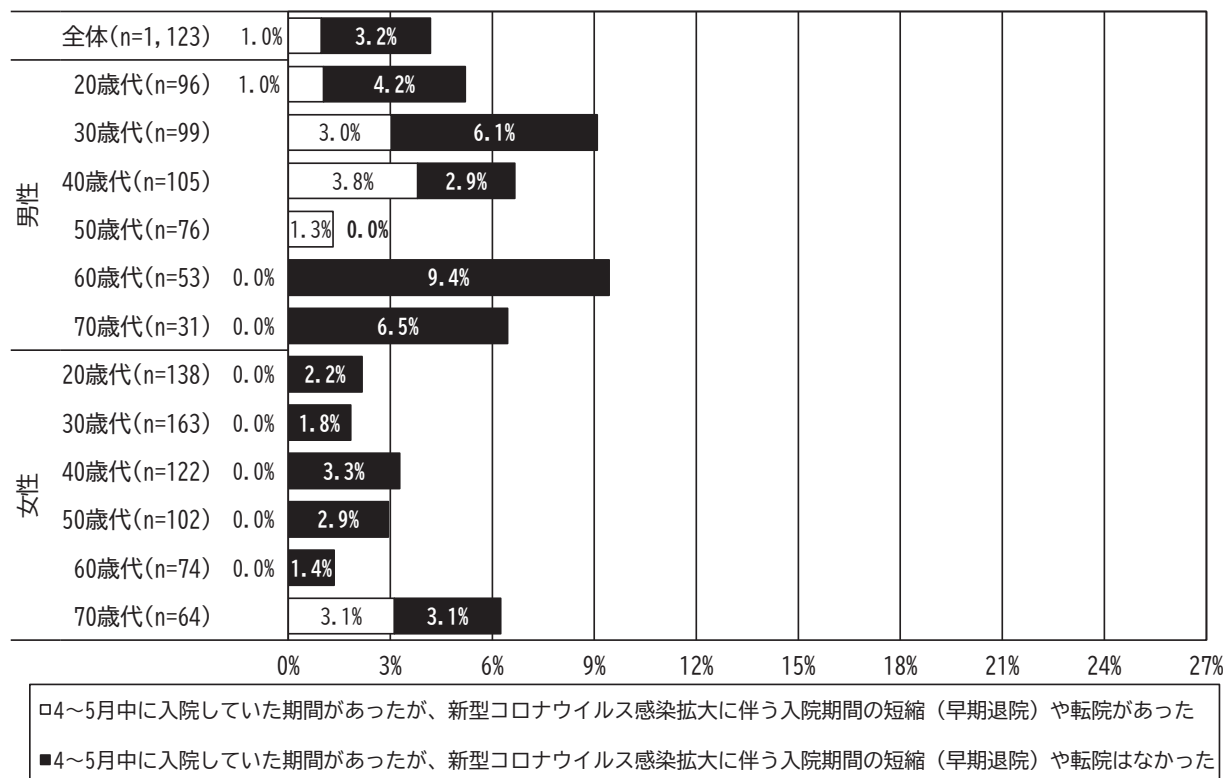
また、同期間において、「持病あり」群のうち、「感染拡大を理由とした入院の延期や中止があった」とする回答は1.1%であり、性・年齢階級別では「男性・20歳代」では7.5%となり、「持病あり」群全体に比べ高い傾向にあった(図表24)。一方、「持病なし・体調不良あり」群のうち、「感染拡大を理由とした入院の延期や中止があった」とする回答は0.9%だった(図表25)。

さらに、同時期において、「持病あり」群のうち、「手術を受ける予定があったが、感染拡大に伴う手術の延期や中止があった」とする回答は1.3%だった。これを性・年齢階級別にみると、「男性・20歳代」が8.6%となり、「持病あり」群全体に比べ高い傾向にあった(図表26)。一方、「持病なし・体調不良あり」群のうち、「手術を受ける予定があったが、感染拡大に伴う手術の延期や中止があった」とする回答は0.9%だった(図表27)。

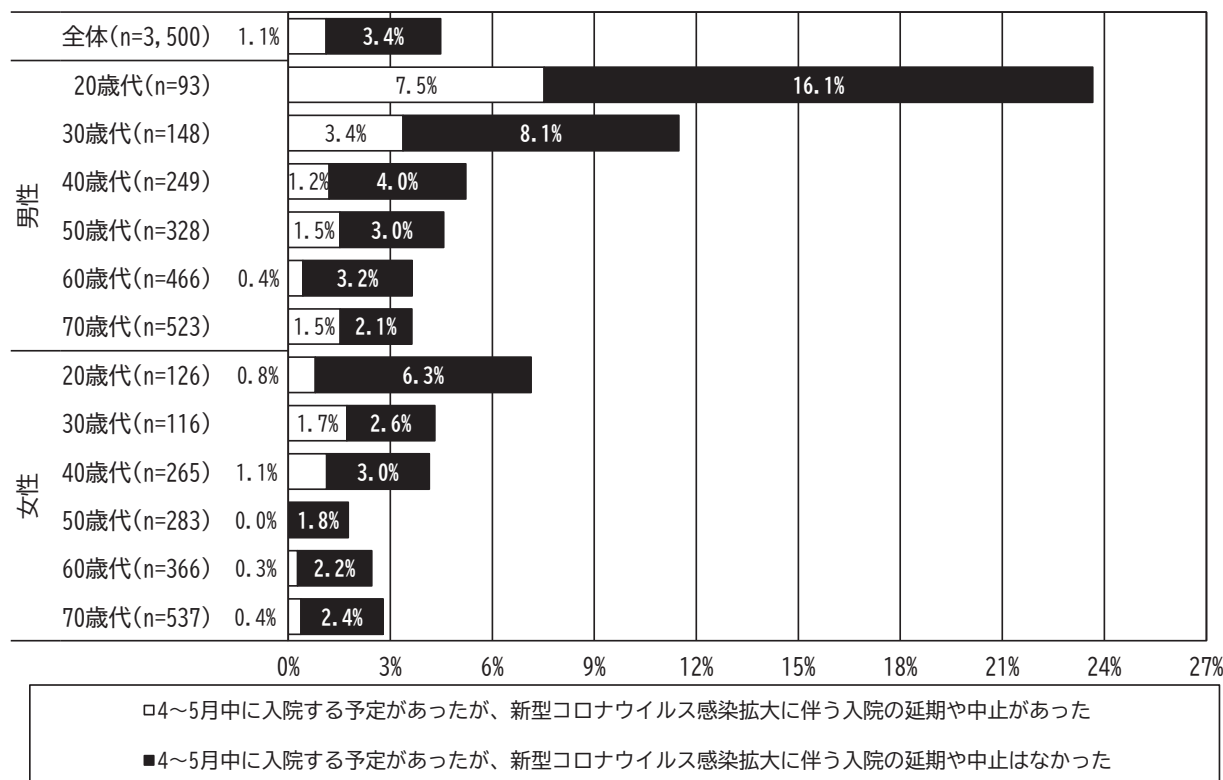
図表 22 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における  
「持病あり」群の早期退院や転院の発生状況



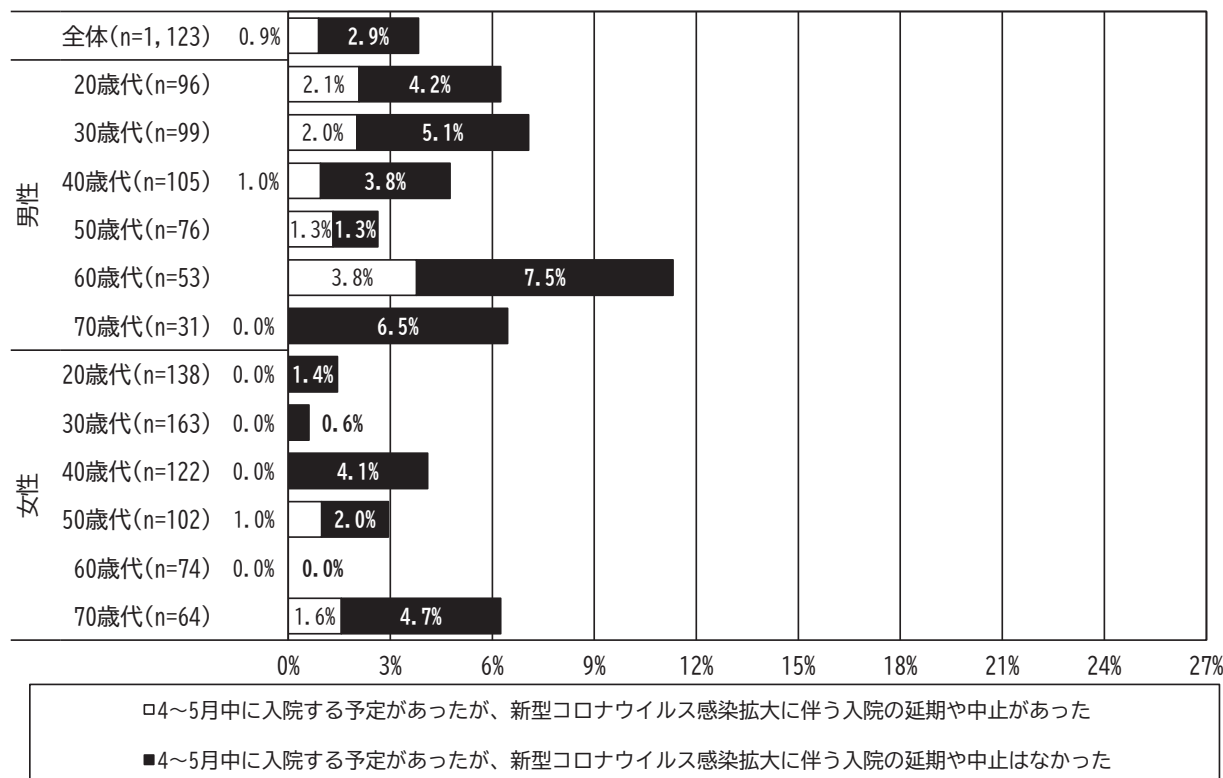
図表 23 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における  
「持病なし・体調不良あり」群の早期退院や転院の発生状況



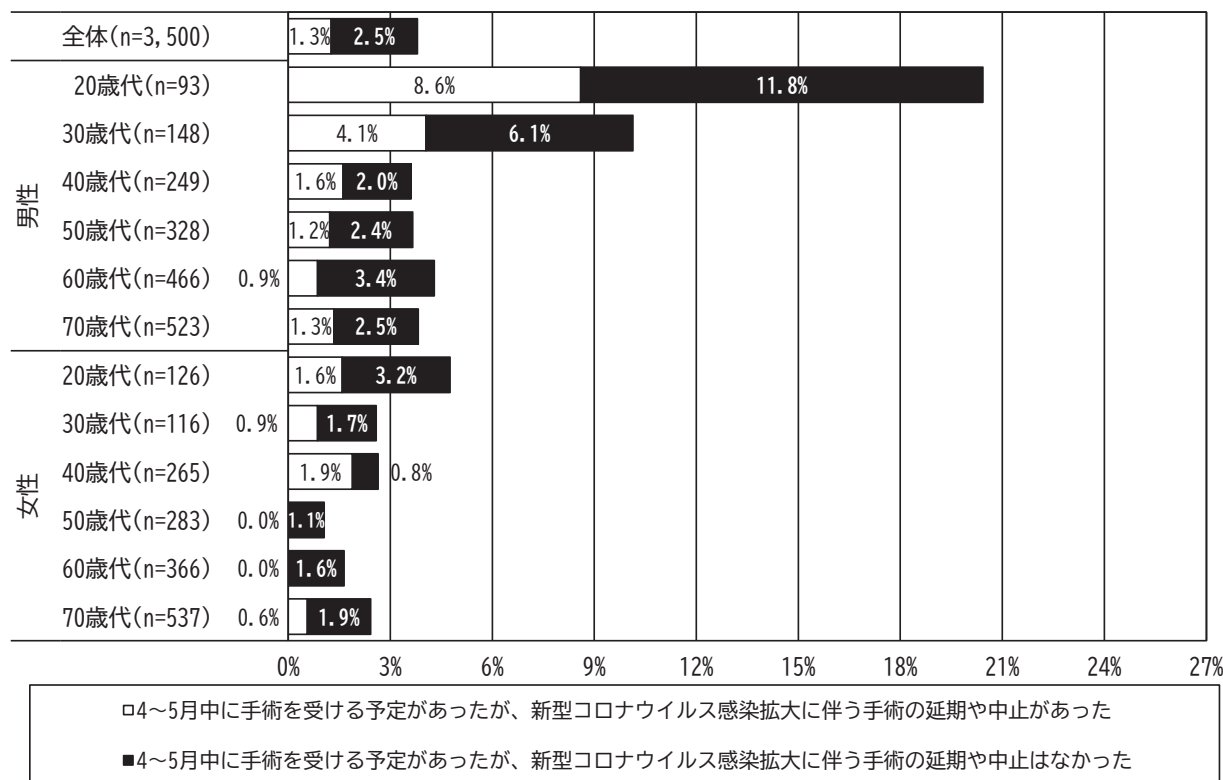
図表 24 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における「持病あり」群の入院の延期や中止の発生状況



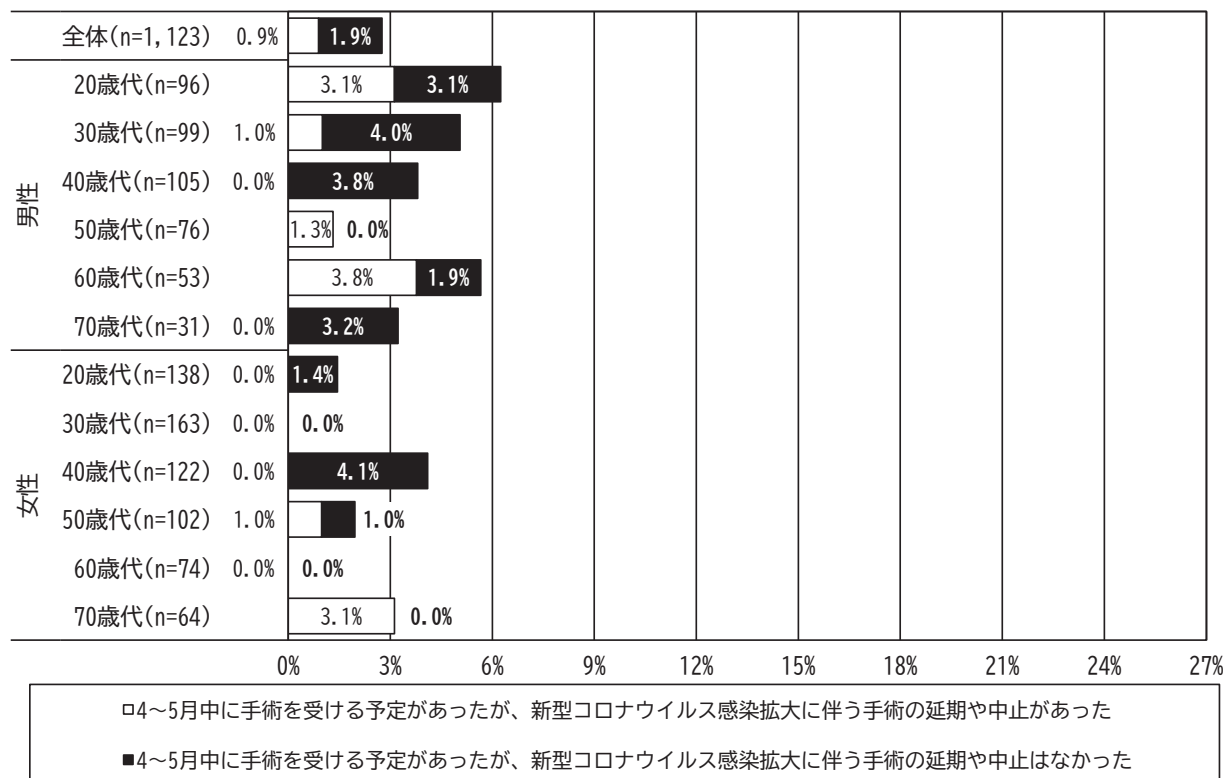
図表 25 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における「持病なし・体調不良あり」群の入院の延期や中止の発生状況



図表 26 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における「持病あり」群の手術の延期や中止の発生状況



図表 27 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における「持病なし・体調不良あり」群の手術の延期や中止の発生状況



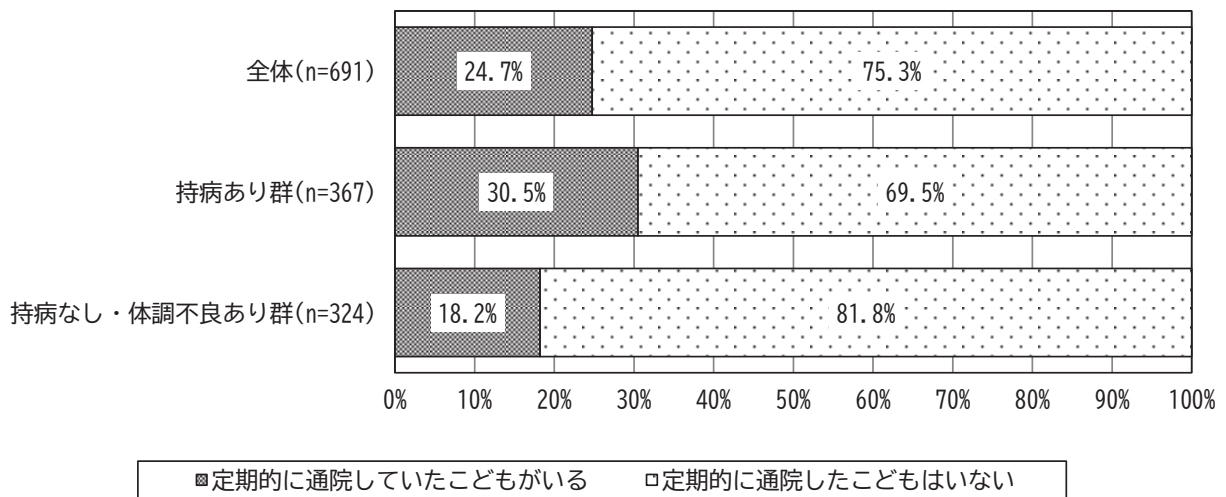


## 7. 同居する 14 歳以下のこどもの受診状況

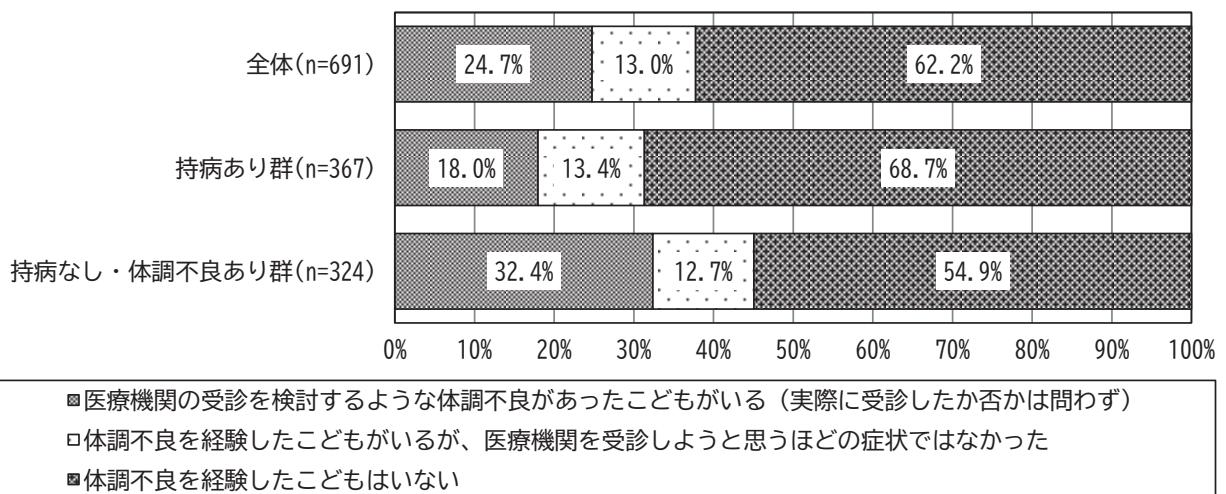
14 歳以下のこどもと同居する回答者のうち、新型コロナウイルス感染症の拡大前(2019 年 12 月頃)に、「持病(けがを除く)により医療機関に定期的に通院していたこどもがいる」と回答した割合は、全体で 24.7%であり、うち「持病あり」群の回答者では 30.5%、「持病なし・体調不良あり」群では 18.2%だった(図表 28)。

また、「緊急事態宣言が出ていた頃(2020 年 4~5 月頃)に、医療機関の受診を検討するような体調不良があった(受診の有無は問わず)こども」について、24.7%が「医療機関の受診を検討するような体調不良があった(同)」、13.0%が「体調不良を経験したこどもがいるが、医療機関を受診しようと思うほどの症状ではなかった」と回答した(図表 29)。

図表 28 新型コロナウイルスの感染拡大前(2019 年 12 月頃)時点で定期的に通院していた同居する 14 歳以下のこどもの有無



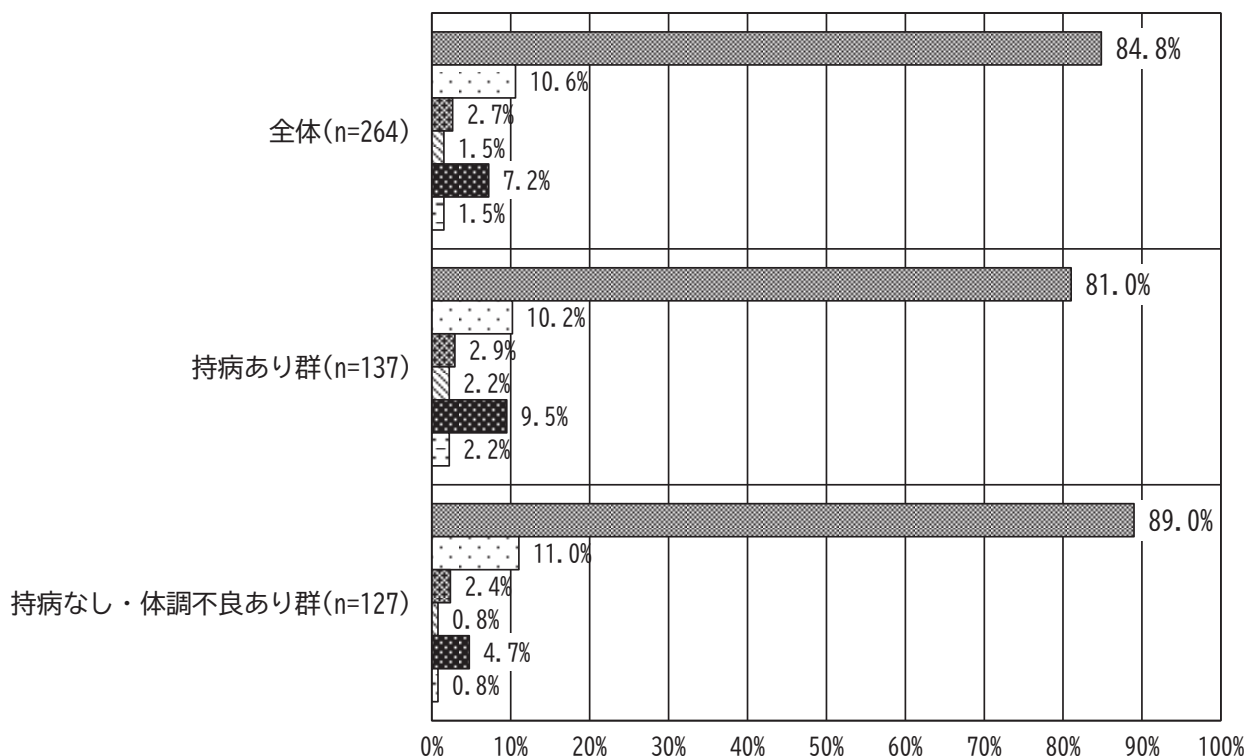
図表 29 緊急事態宣言が出ていた頃(2020 年 4~5 月頃)に受診を検討するような体調不良のあった同居する 14 歳以下のこどもの有無





14 歳以下の子どもと同居する回答者のうち、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ている頃(2020 年 4~5 月頃)における子どもの通院方法として、10.6%が「ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関を、外来で受診した」と回答した。また、「電話を利用して、医師の診察を受けた」との回答は 2.7%、「インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診察を受けた」との回答は 1.5%、「外来での受診はしなかった」との回答は 7.2%だった(図表 30)。

図表 30 新型コロナウイルスの感染拡大以降(2020 年 2 月以降)に受診を検討するような体調不良のあった同居する 14 歳以下の子どもの外来受診の状況【複数回答】



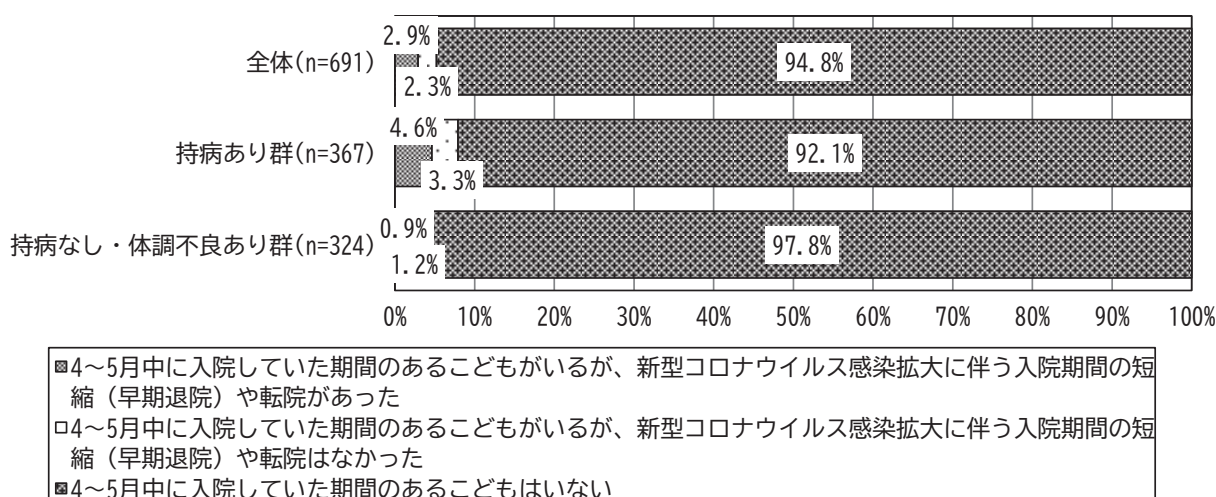
- ふだん受診することが多い医療機関を、外来で受診した
- ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関を、外来で受診した
- 電話を利用して、医師の診察を受けた
- インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診察を受けた
- 外来での受診はしなかった
- わからない

14歳以下の子どもと同居する回答者のうち、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4~5月頃)における子どもの入院の状況や、感染拡大を理由とした入院期間の短縮(早期退院)や転院の有無について、2.9%〔「持病あり」群 4.6%、〔「持病なし・体調不良あり」群 0.9%〕が「入院したが、感染拡大に伴う入院期間の短縮や転院があった」と回答した(図表 31)。

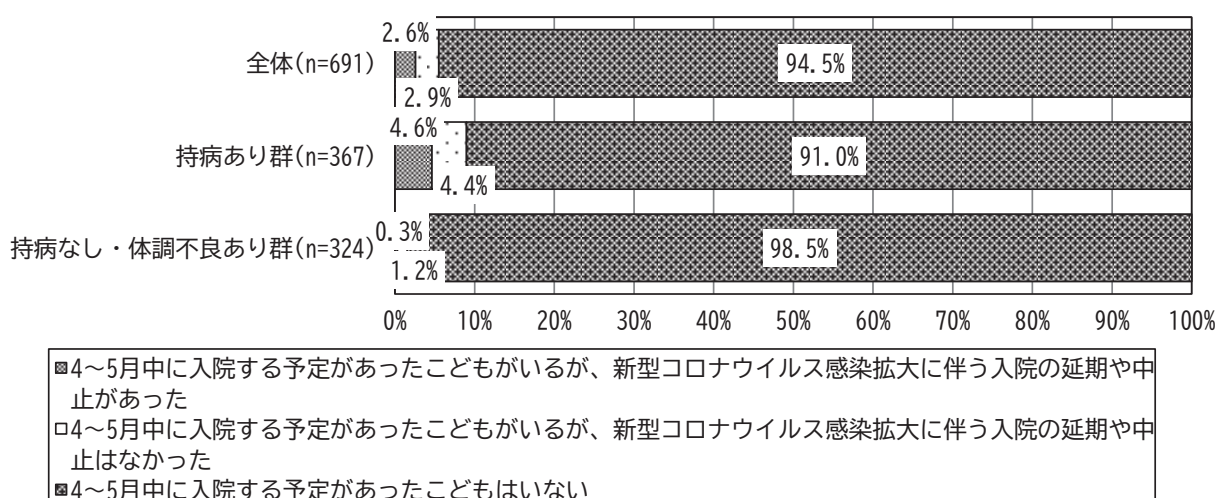
また、同期間における、子どもの入院の予定および感染拡大を理由とした入院の延期や中止の有無については、2.6%〔「持病あり」群 4.6%、〔「持病なし・体調不良あり」群 0.3%〕が「入院予定があったが、感染拡大に伴う入院の延期や中止があった」と回答した(図表 32)。

さらに、同時期における、子どもが手術を受ける予定および感染拡大に伴う手術の延期や中止の有無については、2.6%〔「持病あり」群 4.6%、〔「持病なし・体調不良あり」群 0.3%〕が「手術を受ける予定があったが、感染拡大に伴う手術の延期や中止があった」と回答した(図表 33)。

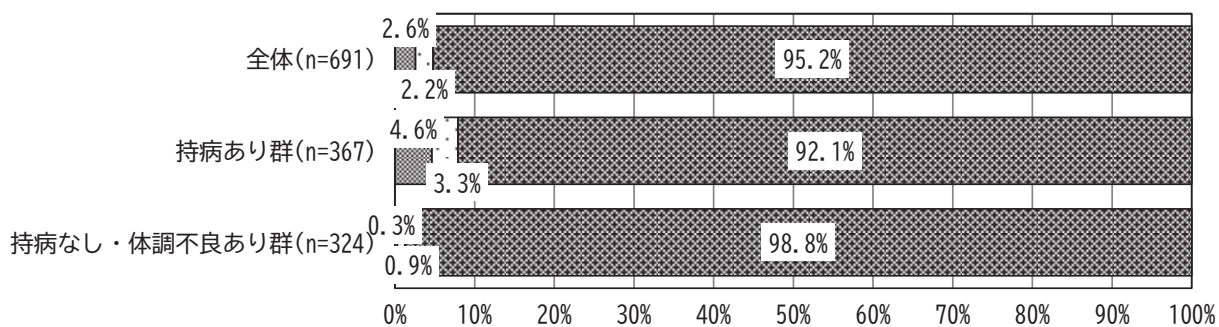
図表 31 緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4~5月頃)における同居する14歳以下の子どもの入院の有無、入院期間の短縮や転院の有無



図表 32 緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4~5月頃)における同居する14歳以下の子どもの入院予定の有無、入院の延期や中止の有無



図表 33 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における同居する14歳以下の子どもへの手術予定の有無、手術の延期や中止の有無



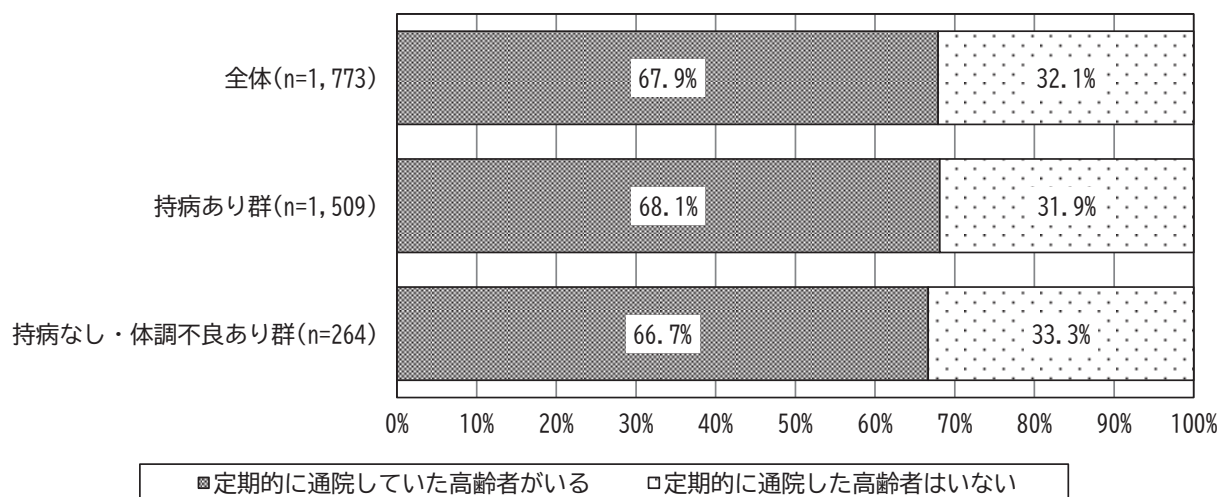
- 4～5月中に手術する予定があったこともいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止があった
- 4～5月中に手術する予定があったこともいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止はなかった
- 4～5月中に手術する予定があったこともはない

## 8. 同居する 65 歳以上の高齢者の受診状況と体調変化

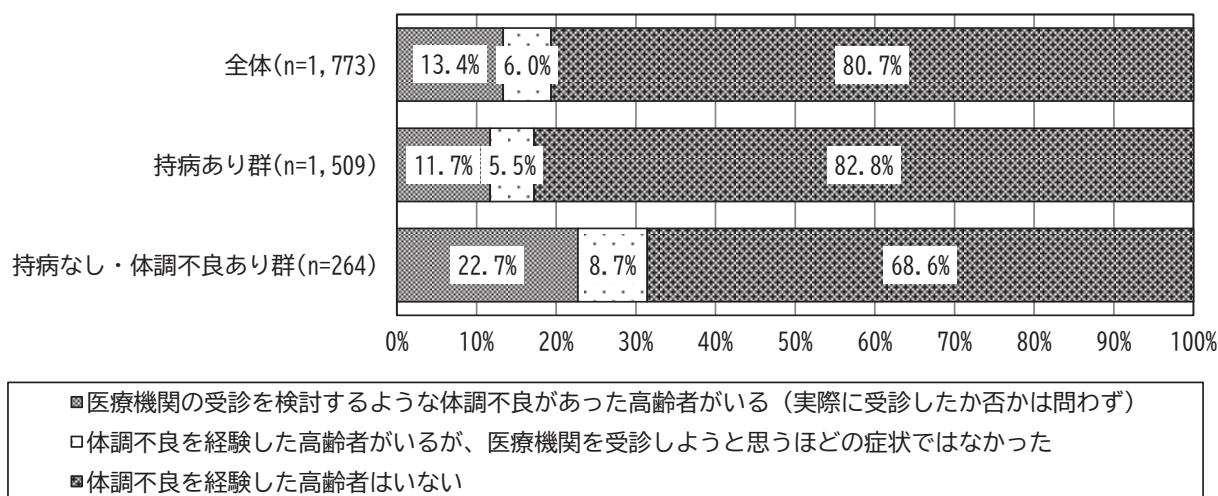
65 歳以上の高齢者と同居する回答者のうち、新型コロナウイルス感染症の拡大前(2019 年 12 月頃)に、「持病(けがを除く)により医療機関に定期的に通院していた高齢者がいる」と回答した割合は、全体で 67.9%であり、「持病あり」群の回答者では 68.1%、「持病なし・体調不良あり」群では 66.7%だった(図表 34)。

また、「緊急事態宣言が出ていた頃(2020 年 4~5 月頃)に、医療機関の受診を検討するような体調不良があった(受診の有無は問わず)高齢者」について、13.4%が「医療機関の受診を検討するような体調不良があった(同)」、6.0%が「体調不良を経験した高齢者がいるが、医療機関を受診しようと思うほどの症状ではなかった」と回答した(図表 35)。

図表 34 新型コロナウイルスの感染拡大前(2019 年 12 月頃)時点で定期的に通院していた 65 歳以上の同居する高齢者の有無

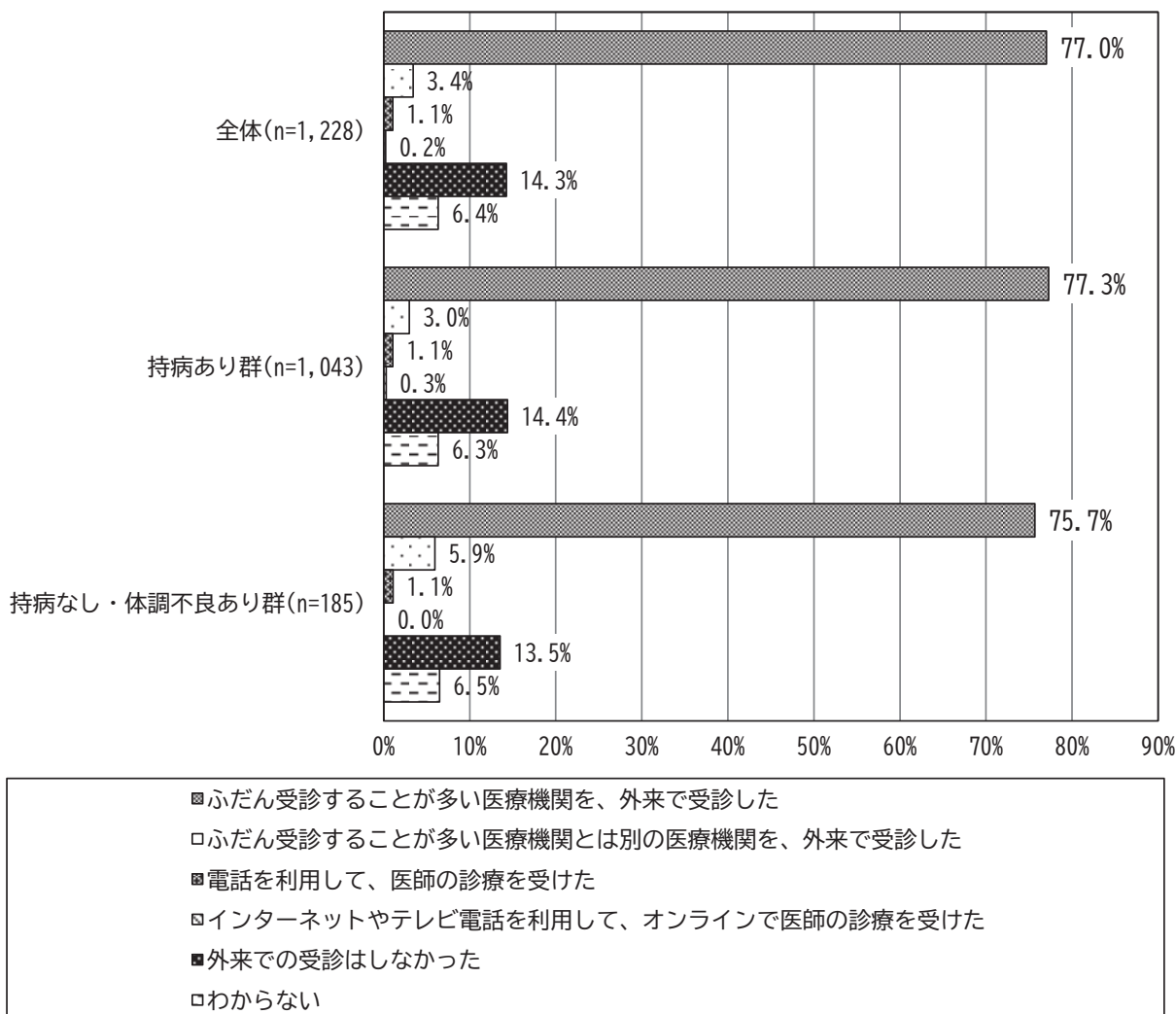


図表 35 新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言が出ていた頃(2020 年 4~5 月頃)で受診を検討するような体調不良のあった 65 歳以上の同居する高齢者の有無



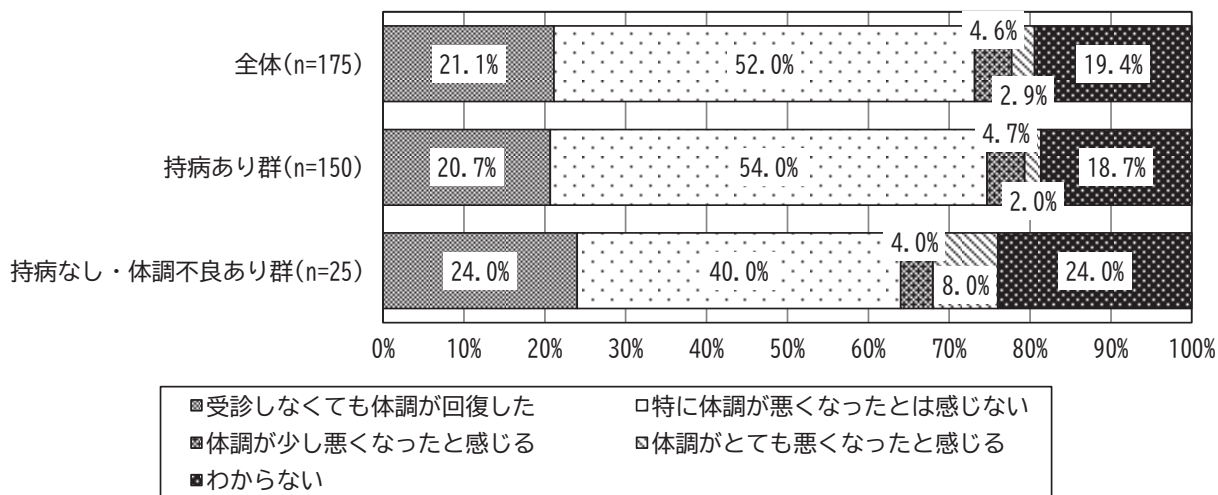
65 歳以上の高齢者と同居する回答者のうち、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた頃(2020 年 4~5 月頃)における高齢者の通院方法として、3.4%が「ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関を、外来で受診した」と回答した。また、「電話を利用して、医師の診察を受けた」との回答は 1.1%、「インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診察を受けた」との回答は 0.2%、「外来での受診はしなかった」との回答は 14.3%だった(図表 36)。

図表 36 新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言が出ていた頃(2020 年 4~5 月頃)に受診を検討するような体調不良のあった同居する 65 歳以上の高齢者の外来受診の状況【複数回答】



受診をしなかった高齢者の体調の変化について、21.1%が「受診しなくても体調が回復した」、52.0%が「特に体調が悪くなったとは感じない」、4.6%が「体調が少し悪くなったと感じる」、2.9%が「体調がとても悪くなったと感じる」とそれぞれ回答した（図表 37）。

図表 37 新型コロナウイルスの感染拡大以降（2020年2月以降）で受診を検討するような体調不良のあった14歳以下の65歳以上の同居する高齢者について、受診を控えたことで感じる体調の変化

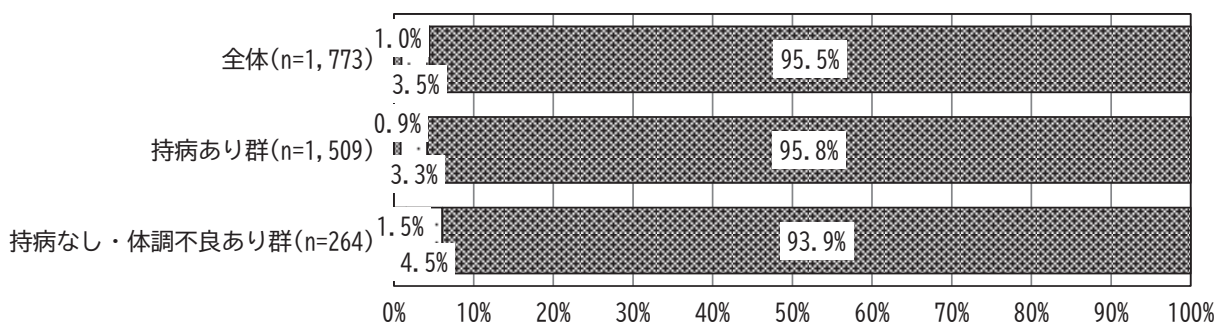


65 歳以上の高齢者と同居する回答者のうち、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた頃(2020 年4~5月頃)における高齢者の入院の状況や、感染拡大を理由とした入院期間の短縮(早期退院)や転院の有無について、1.0% (「持病あり」群 0.9%、「持病なし・体調不良あり」群 1.5%) が「入院したが、感染拡大に伴う入院期間の短縮や転院があった」と回答した(図表 38)。

また、同期間における、高齢者の入院の予定および感染拡大を理由とした入院の延期や中止の有無については、0.7% (「持病あり」群 0.8%、「持病なし・体調不良あり」群 0.4%) が「入院予定があったが、感染拡大に伴う入院の延期や中止があった」と回答した(図表 39)。

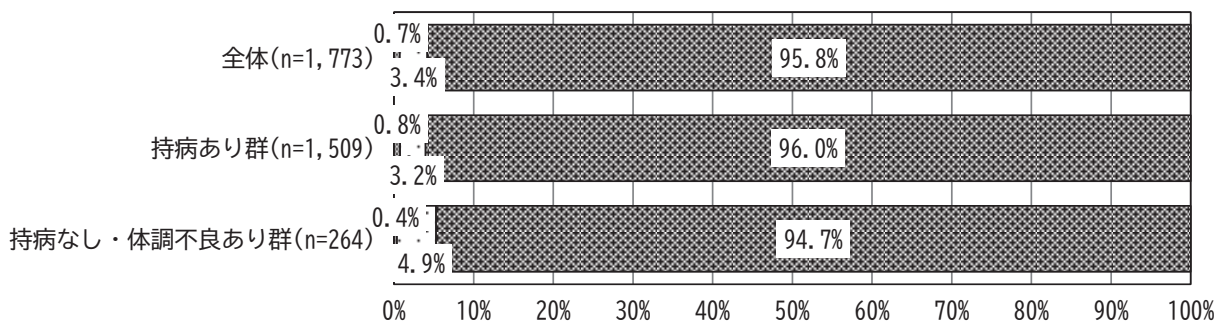
さらに、同時期における、高齢者が手術を受ける予定および感染拡大に伴う手術の延期や中止の有無は、0.8% (「持病あり」群 0.9%、「持病なし・体調不良あり」群 0.4%) が「手術を受ける予定があったが、感染拡大に伴う手術の延期や中止があった」と回答した(図表 40)。

図表 38 緊急事態宣言が出ていた頃(2020 年4~5月頃)における同居する65歳以上の高齢者の入院の有無、入院期間の短縮や転院の有無



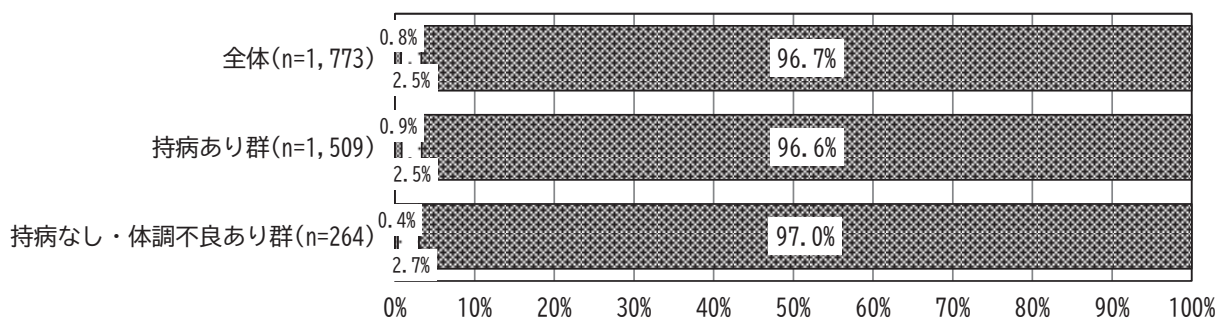
- 4~5月中に入院していた期間のある高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院期間の短縮(早期退院)や転院があった
- 4~5月中に入院していた期間のある高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院期間の短縮(早期退院)や転院はなかった
- 4~5月中に入院していた期間のある高齢者はいない

図表 39 緊急事態宣言が出ていた頃(2020 年4~5月頃)における同居する65歳以上の高齢者の入院予定の有無、入院の延期や中止の有無



- 4~5月中に入院する予定があった高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院の延期や中止があった
- 4~5月中に入院する予定があった高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院の延期や中止はなかった
- 4~5月中に入院する予定があった高齢者はいない

図表 40 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）における同居する65歳以上の高齢者の手術予定の有無、手術の延期や中止の有無



- 4～5月中に手術する予定があった高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止があった
- 4～5月中に手術する予定があった高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止はなかった
- 4～5月中に手術する予定があった高齢者はいない



## 9. 受診控えの理由

「持病あり」群のうち、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4～5月頃)において、感染拡大以前と比べて「通院する頻度を少なくしていた」あるいは「通院するのをやめていた」と回答した者に対し、その理由について問うたところ、「医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから」(69.2%)、「外出自体をしないようにしていたから」(24.9%)といった、新型コロナウイルスへの感染を警戒したと考えられる回答が多く、次いで、「普段よりも長い日数分の薬の処方を受けていたから」(19.9%)が多かった。

これを、定期的な通院を行っていた原因疾患の種類(複数回答)別にみると、「医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから」との理由を挙げた回答の割合は、30人以上の回答のあった疾患のうち、「アトピー性皮膚炎」(86.7%)、「気管支喘息」(86.0%)、「筋骨格系の疾患」(82.1%)の3つの疾患について、80%を超えていた。また、「外出自体をしないようにしていたから」との理由を挙げた回答の割合は、「がん・腫瘍」(40.0%)、「アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患」(36.6%)、「婦人科系の疾患」(31.1%)—などの疾患について高かった。さらに、「普段よりも長い日数分の薬の処方を受けていたから」との理由を挙げた回答の割合は、「脂質異常症」(36.0%)が最も高く、次いで、「高血圧症、脂質異常症以外の循環器系の疾患」(26.7%)、「高血圧症」(25.2%)—などと続いた(図表41)。

図表 41 緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）に「持病あり」群の回答者が  
通院するのをやめていた、また頻度を少なくしていた理由【複数回答】  
（定期的な通院を行っていた疾患別）

集計対象＝ 緊急事態宣言が出ていた頃 （2020年4～5月頃）に通院する のをやめていた、あるいは通院 する頻度を少なくしていた者	回答者数	通院するのをやめていた、あるいは通院する頻度を少なくしていた理由															
		医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思っただから	他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思っただから	医師や看護師から通院しないように言われたから	家族から通院しないように言われたから	病状・体調が悪かったから	病状・体調が回復したから	電話やオンラインで診療を受けていたから	普段よりも長い日数分の薬の処方を受けていたから	市販の薬を飲んで症状に対処していたから	自身の体調管理により、通院する必要性を感じなくなった、あるいは頻度を減らしてもよいと感じたから	通院する時間がとれなかったから	外出自体をしないようにしていたから	入院していたから	その他の理由	特に理由はない	
「持病あり」群全体	865	69.2%	19.1%	17.0%	8.8%	1.6%	5.2%	7.3%	19.9%	2.2%	5.9%	1.6%	24.9%	0.3%	2.2%	2.9%	
高血圧症	222	65.3%	12.6%	19.4%	10.4%	0.9%	3.2%	9.0%	25.2%	0.9%	5.9%	0.9%	22.5%	0.0%	1.8%	1.4%	
脂質異常症（コレステロール値、中性脂肪値の異常など）	136	68.4%	12.5%	22.1%	8.1%	0.0%	2.9%	8.1%	36.0%	1.5%	5.9%	0.7%	25.0%	0.0%	1.5%	0.7%	
高血圧症、脂質異常症以外の循環器系の疾患（不整脈など）	30	73.3%	6.7%	43.3%	23.3%	3.3%	3.3%	6.7%	26.7%	0.0%	3.3%	0.0%	26.7%	0.0%	3.3%	0.0%	
花粉症	81	71.6%	23.5%	17.3%	4.9%	2.5%	7.4%	8.6%	23.5%	2.5%	9.9%	3.7%	25.9%	1.2%	0.0%	2.5%	
花粉症以外のアレルギー系の疾患	59	72.9%	32.2%	23.7%	8.5%	1.7%	6.8%	5.1%	22.0%	5.1%	10.2%	1.7%	28.8%	1.7%	0.0%	0.0%	
気管支喘息	43	86.0%	7.0%	9.3%	11.6%	2.3%	7.0%	9.3%	18.6%	4.7%	9.3%	4.7%	23.3%	2.3%	2.3%	0.0%	
気管支喘息以外の呼吸器系の疾患（肺炎など）	16	50.0%	12.5%	37.5%	12.5%	6.3%	0.0%	25.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	31.3%	0.0%	0.0%	6.3%	
アトピー性皮膚炎	45	86.7%	31.1%	11.1%	11.1%	2.2%	6.7%	2.2%	13.3%	4.4%	2.2%	2.2%	24.4%	0.0%	0.0%	2.2%	
アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患（皮膚乾燥症など）	41	73.2%	36.6%	17.1%	12.2%	0.0%	4.9%	7.3%	22.0%	7.3%	9.8%	2.4%	36.6%	0.0%	2.4%	0.0%	
消化器系の疾患（胃炎など）	56	67.9%	21.4%	19.6%	5.4%	1.8%	5.4%	7.1%	25.0%	3.6%	5.4%	0.0%	30.4%	0.0%	7.1%	1.8%	
泌尿・生殖器系の疾患（尿路結石、腎炎など）	29	72.4%	31.0%	24.1%	10.3%	0.0%	0.0%	6.9%	20.7%	0.0%	3.4%	0.0%	17.2%	0.0%	3.4%	0.0%	
糖尿病	84	64.3%	9.5%	28.6%	7.1%	0.0%	1.2%	4.8%	22.6%	2.4%	2.4%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	2.4%	
糖尿病以外の内分泌代謝障害（パセドウ病など）	7	57.1%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	
筋骨格系の疾患（関節リウマチ、腰痛症、椎間板ヘルニアなど）	56	82.1%	19.6%	16.1%	17.9%	1.8%	5.4%	8.9%	17.9%	3.6%	8.9%	0.0%	28.6%	1.8%	3.6%	0.0%	
眼科系の疾患	99	69.7%	16.2%	18.2%	6.1%	1.0%	3.0%	6.1%	23.2%	4.0%	6.1%	2.0%	26.3%	0.0%	0.0%	2.0%	
婦人科系の疾患	61	75.4%	24.6%	11.5%	6.6%	4.9%	9.8%	6.6%	11.5%	3.3%	8.2%	1.6%	31.1%	1.6%	0.0%	1.6%	
偏頭痛	29	72.4%	31.0%	10.3%	13.8%	13.8%	6.9%	6.9%	13.8%	10.3%	0.0%	0.0%	37.9%	0.0%	0.0%	0.0%	
偏頭痛以外の精神・神経系の疾患	23	69.6%	21.7%	13.0%	8.7%	4.3%	13.0%	13.0%	21.7%	0.0%	4.3%	0.0%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
がん・腫瘍	45	71.1%	15.6%	24.4%	11.1%	2.2%	2.2%	13.3%	22.2%	0.0%	4.4%	0.0%	40.0%	0.0%	2.2%	0.0%	
その他の疾患	164	73.8%	20.7%	17.7%	9.8%	2.4%	4.3%	5.5%	20.1%	2.4%	6.1%	0.6%	25.6%	0.0%	4.9%	2.4%	
わからない・答えたくない	57	52.6%	15.8%	10.5%	5.3%	0.0%	7.0%	8.8%	15.8%	1.8%	0.0%	3.5%	14.0%	0.0%	0.0%	19.3%	

「持病あり」群のうち、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が解除された後(2020年6月頃)において、感染拡大以前と比べて「通院する頻度を少なくしていた」あるいは「通院するのをやめていた」と回答した者に対し、その理由について問うたところ、「医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから」(63.2%)、「外出自体をしないようにしていたから」(18.2%)、「他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから」(17.8%)—等の、新型コロナウイルスへの感染を警戒したと考えられる回答が多い。ただし、緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4~5月頃)と比較すると、おおむね各項目で低下傾向にある(図表42)。

図表 42 緊急事態宣言が解除された後(2020年6月頃)に「持病あり」群の回答者が通院するのをやめていた、また頻度を少なくしていた理由【複数回答】  
(定期的な通院を行っていた疾患別)

集計対象＝ 緊急事態宣言が解除された後 (2020年6月頃)に通院するのを やめていた、あるいは通院する 頻度を少なくしていた者	回答者数	通院するのをやめていた、あるいは通院する頻度を少なくしていた理由															
		医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思っただから	他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思っただから	医師や看護師から通院しないように言われていたから	家族から通院しないように言われていたから	病状・体調が悪かったから	病状・体調が回復したから	電話やオンラインで診療を受けていたから	普段よりも長い日数分の薬の処方を受けていたから	市販の薬を飲んで症状に対処していたから	いと感じたから	自身の体調管理により、通院する必要性を感じなくなった、あるいは頻度を減らしてもよいと感じたから	通院する時間がとれなかったから	外出自体をしないようにしていたから	入院していたから	その他の理由	特に理由はない
「持病あり」群全体	751	63.2%	17.8%	14.8%	7.3%	1.3%	6.5%	6.0%	17.7%	1.5%	6.7%	1.5%	18.2%	0.4%	2.7%	6.3%	
高血圧症	179	58.7%	13.4%	17.9%	7.3%	2.2%	3.4%	6.1%	24.0%	1.7%	5.0%	0.6%	17.3%	0.0%	1.7%	6.1%	
脂質異常症(コレステロール値、中性脂肪値の異常など)	114	57.9%	12.3%	17.5%	7.9%	0.9%	2.6%	8.8%	30.7%	2.6%	6.1%	0.9%	18.4%	0.9%	0.0%	6.1%	
高血圧症、脂質異常症以外の循環器系の疾患(不整脈など)	24	54.2%	8.3%	58.3%	16.7%	0.0%	4.2%	4.2%	29.2%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	4.2%	8.3%	
花粉症	66	65.2%	19.7%	10.6%	7.6%	1.5%	10.6%	10.6%	15.2%	3.0%	9.1%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%	4.5%	
花粉症以外のアレルギー系の疾患	53	71.7%	28.3%	20.8%	5.7%	5.7%	3.8%	3.8%	22.6%	5.7%	7.5%	1.9%	26.4%	0.0%	0.0%	1.9%	
気管支喘息	42	66.7%	4.8%	4.8%	11.9%	2.4%	0.0%	7.1%	21.4%	0.0%	7.1%	7.1%	19.0%	0.0%	2.4%	11.9%	
気管支喘息以外の呼吸器系の疾患(肺炎など)	12	66.7%	8.3%	41.7%	25.0%	0.0%	8.3%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
アトピー性皮膚炎	39	76.9%	25.6%	15.4%	12.8%	0.0%	7.7%	5.1%	12.8%	2.6%	0.0%	0.0%	12.8%	0.0%	2.6%	5.1%	
アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患(皮膚乾燥症など)	34	73.5%	38.2%	11.8%	8.8%	0.0%	8.8%	2.9%	26.5%	5.9%	5.9%	2.9%	23.5%	0.0%	2.9%	2.9%	
消化器系の疾患(胃炎など)	50	60.0%	24.0%	16.0%	8.0%	2.0%	4.0%	4.0%	26.0%	2.0%	8.0%	2.0%	14.0%	0.0%	6.0%	4.0%	
泌尿・生殖器系の疾患(尿路結石、腎炎など)	21	57.1%	19.0%	28.6%	9.5%	0.0%	9.5%	4.8%	28.6%	0.0%	9.5%	4.8%	9.5%	0.0%	4.8%	4.8%	
糖尿病	69	52.2%	8.7%	30.4%	4.3%	1.4%	1.4%	2.9%	21.7%	0.0%	0.0%	0.0%	10.1%	0.0%	0.0%	4.3%	
糖尿病以外の内分泌代謝障害(パセドウ病など)	9	44.4%	0.0%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	22.2%	11.1%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	
筋骨格系の疾患(関節リウマチ、腰痛症、椎間板ヘルニアなど)	55	83.6%	18.2%	9.1%	18.2%	0.0%	7.3%	7.3%	20.0%	1.8%	9.1%	0.0%	21.8%	1.8%	0.0%	1.8%	
眼科系の疾患	74	68.9%	21.6%	21.6%	2.7%	1.4%	6.8%	8.1%	25.7%	1.4%	6.8%	0.0%	23.0%	1.4%	0.0%	0.0%	
婦人科系の疾患	49	75.5%	20.4%	6.1%	12.2%	0.0%	16.3%	4.1%	12.2%	2.0%	14.3%	6.1%	24.5%	0.0%	0.0%	6.1%	
偏頭痛	22	86.4%	31.8%	9.1%	13.6%	4.5%	0.0%	0.0%	18.2%	4.5%	4.5%	4.5%	22.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
偏頭痛以外の精神・神経系の疾患	20	60.0%	25.0%	15.0%	5.0%	5.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	5.0%	5.0%	25.0%	0.0%	0.0%	5.0%	
がん・腫瘍	30	53.3%	10.0%	26.7%	3.3%	3.3%	6.7%	13.3%	23.3%	0.0%	6.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	3.3%	
その他の疾患	142	68.3%	20.4%	13.4%	4.9%	0.7%	5.6%	5.6%	14.1%	0.7%	7.0%	2.1%	16.2%	0.0%	9.9%	2.8%	
わからない・答えたくない	55	52.7%	12.7%	5.5%	3.6%	1.8%	9.1%	9.1%	9.1%	0.0%	1.8%	0.0%	16.4%	1.8%	0.0%	25.5%	

## 10. 今後の新型コロナウイルスの感染状況に応じた通院・受診に関する考え

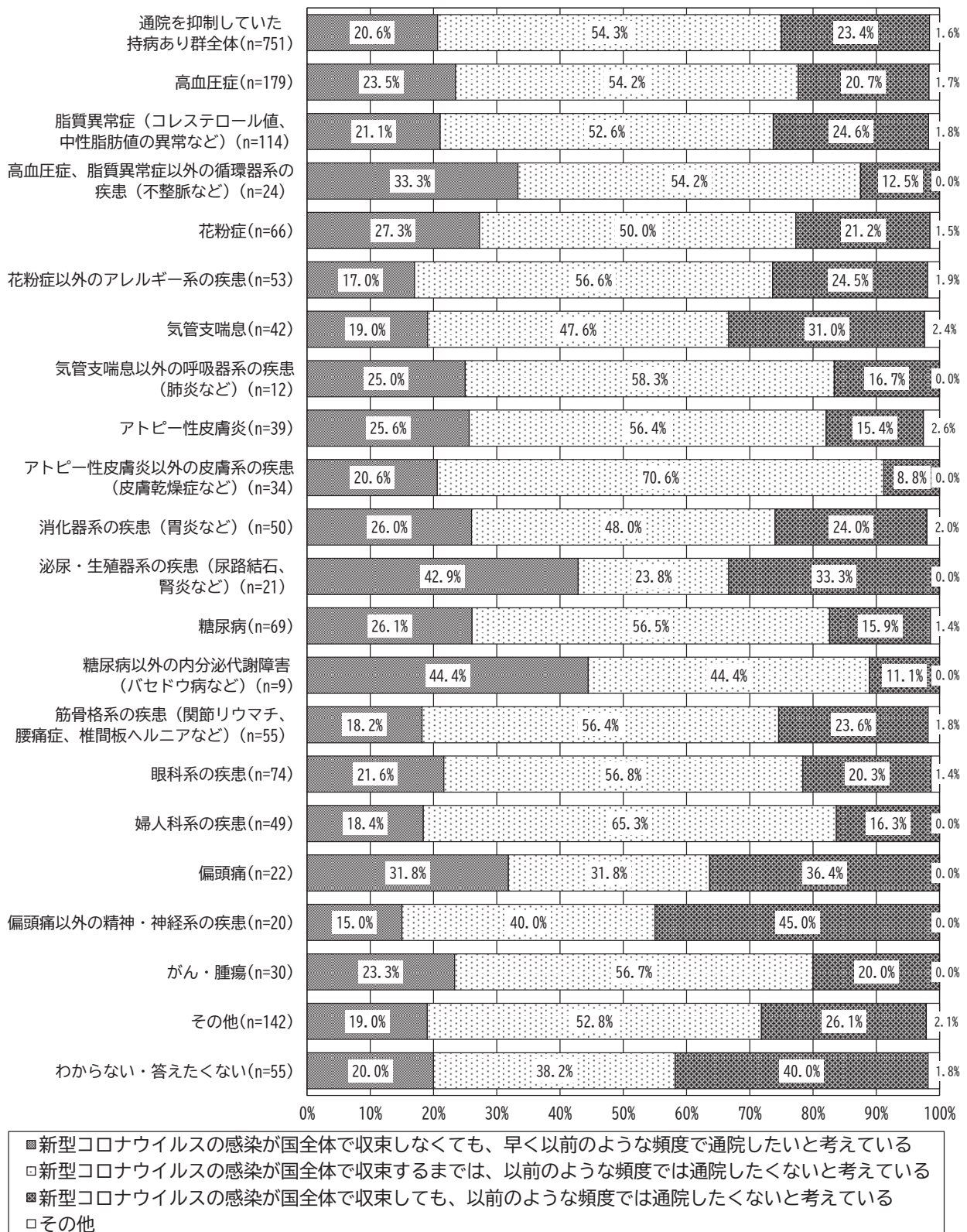
「持病あり」群のうち、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が解除された後(2020年6月頃)において、感染拡大以前と比べて「通院する頻度を少なくしていた」あるいは「通院するのをやめていた」と回答した者に対し、今後のコロナウイルス感染状況に応じた通院に関する考えを問うたところ、54.3%が「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束するまでは、以前のような頻度では通院したくないと考えている」と回答した。「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しても、以前のような頻度では通院したくないと考えている」との回答割合も23.4%にのぼり、「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しなくても、早く以前のような頻度で通院したいと考えている」(20.6%)を上回った。

これを、定期的な通院を行っていた原因疾患の種類(複数回答)別にみると、30人以上の回答があった疾患のうち、「アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患」(70.6%)、「婦人科系の疾患」(65.3%)、「眼科系の疾患」(56.8%)—などの疾患について、回答者全体よりも、「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束するまでは、以前のような頻度では通院したくないと考えている」と回答した割合が高かった。また、「気管支喘息」(31.0%)、「脂質異常症」(24.6%)、「消化器系の疾患」(24.0%)—などの疾患について、回答者全体よりも、「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しても、以前のような頻度では通院したくないと考えている」と回答した割合が高かった。一方、「花粉症」(27.3%)、「糖尿病」(26.1%)、「消化器系の疾患」(26.0%)—などの疾患について、回答者全体よりも、「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しなくても、早く以前のような頻度で通院したいと考えている」と回答した割合が高かった(図表43)。

同様に、「持病なし・体調不良あり」群の回答者に対し、今後のコロナウイルス感染状況に応じた受診に関する考えを問うたところ、47.7%が「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しなくても、以前と同様に受診するか否かを判断したいと考えている」と回答し、43.0%が「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束するまでは、以前よりも慎重に受診するか否かを判断したいと考えている」、9.0%が「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しても、以前と同様に受診するか否かを判断したいと考えている」とそれぞれ回答した。

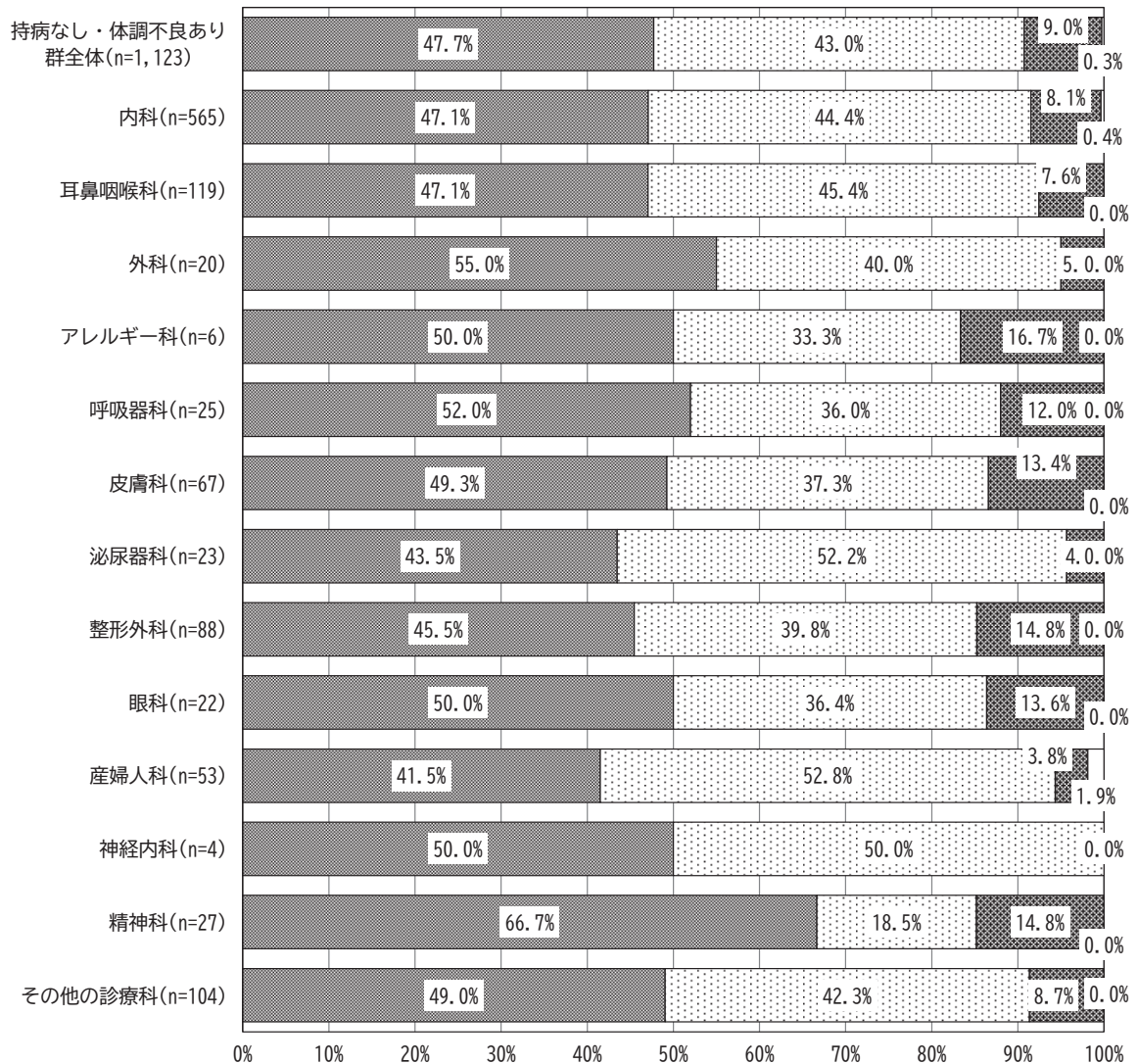
これを、医療機関の受診を検討するような体調不良があった際に、受診することを考えた診療科別にみると、30人以上の回答があった診療科のうち、「皮膚科」(49.3%)、「その他の診療科」(49.0%)について、回答者全体よりも、「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しなくても、以前と同様に受診するか否かを判断したいと考えている」と回答した割合が高かった。また、「産婦人科」(52.8%)、「耳鼻咽喉科」(45.4%)、「内科」(44.4%)について、回答者全体よりも、「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束するまでは、以前よりも慎重に受診するか否かを判断したいと考えている」と回答した割合が高かった。さらに、「整形外科」(14.8%)、「皮膚科」(13.4%)について、回答者全体よりも、「新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しても、以前と同様に受診するか否かを判断したいと考えている」と回答した割合が高かった(図表44)。

図表 43 緊急事態宣言が解除された後（2020年6月頃）に通院するのをやめていた、また頻度を少なくしていた「持病あり」群の回答者の、今後の新型コロナウイルスの感染状況に応じた通院に関する考え





図表 44 「持病なし・体調不良あり」群の回答者の、  
今後の新型コロナウイルスの感染状況に応じた受診に関する考え



■新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しなくても、以前と同様に受診するか否かを判断したいと考えている  
□新型コロナウイルスの感染が国全体で収束するまでは、以前よりも慎重に受診するか否かを判断したいと考えている  
■新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しても、以前よりも慎重に受診するか否かを判断したいと考えている  
□その他

## 第4章 オンライン診療に関する意識

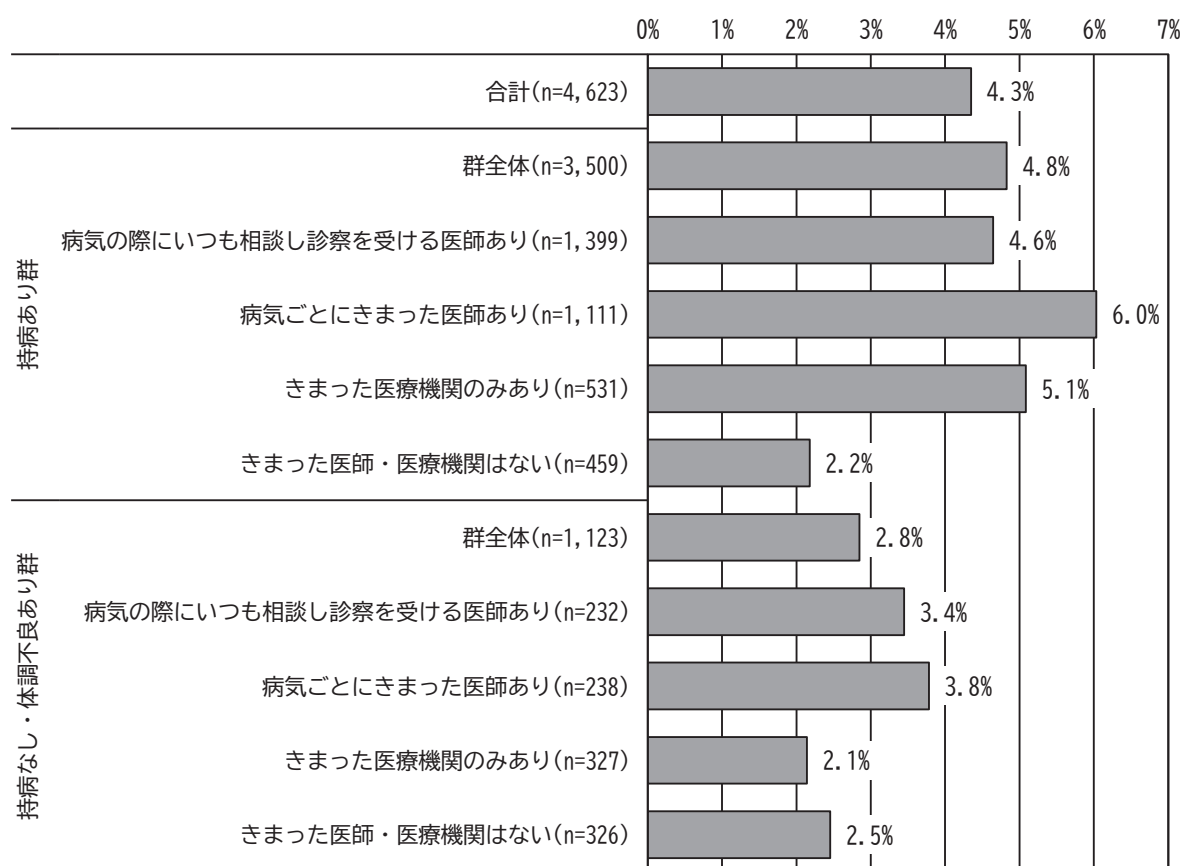
### 1. オンライン診療の受診経験の有無

インターネットやテレビ電話を利用したオンライン診療について、「オンラインで医師の診察を受けたことがある」と回答した割合(コロナ下での受診状況について「オンライン診療オンライン診療を受けた」旨の回答者を含む)は、回答者全体の 4.3%、うち「持病あり」群では 4.8%、「持病なし・体調不良あり」群では 2.8%だった。両群について、これをかかりつけ医師・医療機関別にみると、いずれの群についても、「病气ごとにきまった医師あり」との回答者において、この割合が高かった(図表 45)。

また、年齢別にみると、いずれの群についても、20 歳代・30 歳代の若い年齢層において、この割合が高かった(図表 46)。

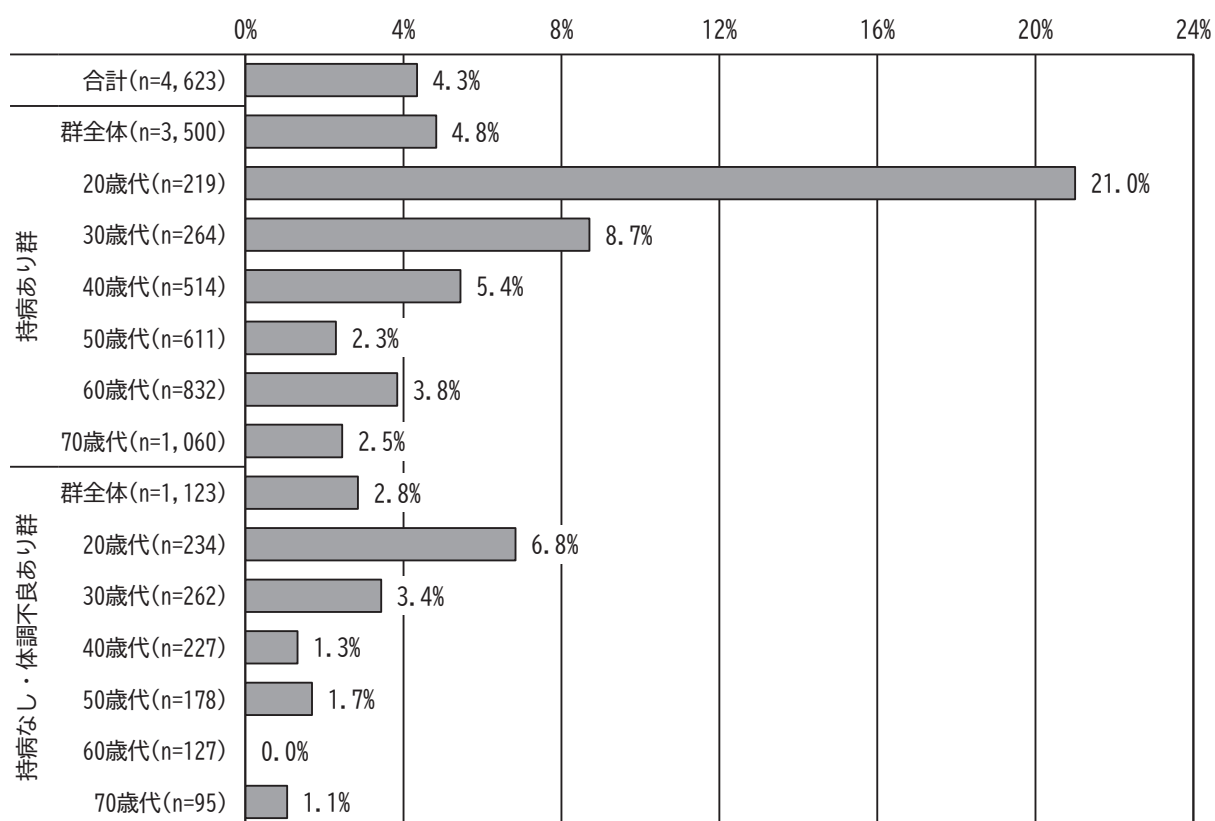
地方別には、四国において10.4%であり、全国よりもこの割合が高かった(図表 47)。

図表 45 「オンラインで医師の診察を受けたことがある」との回答割合  
(かかりつけ医師・医療機関の状況別)

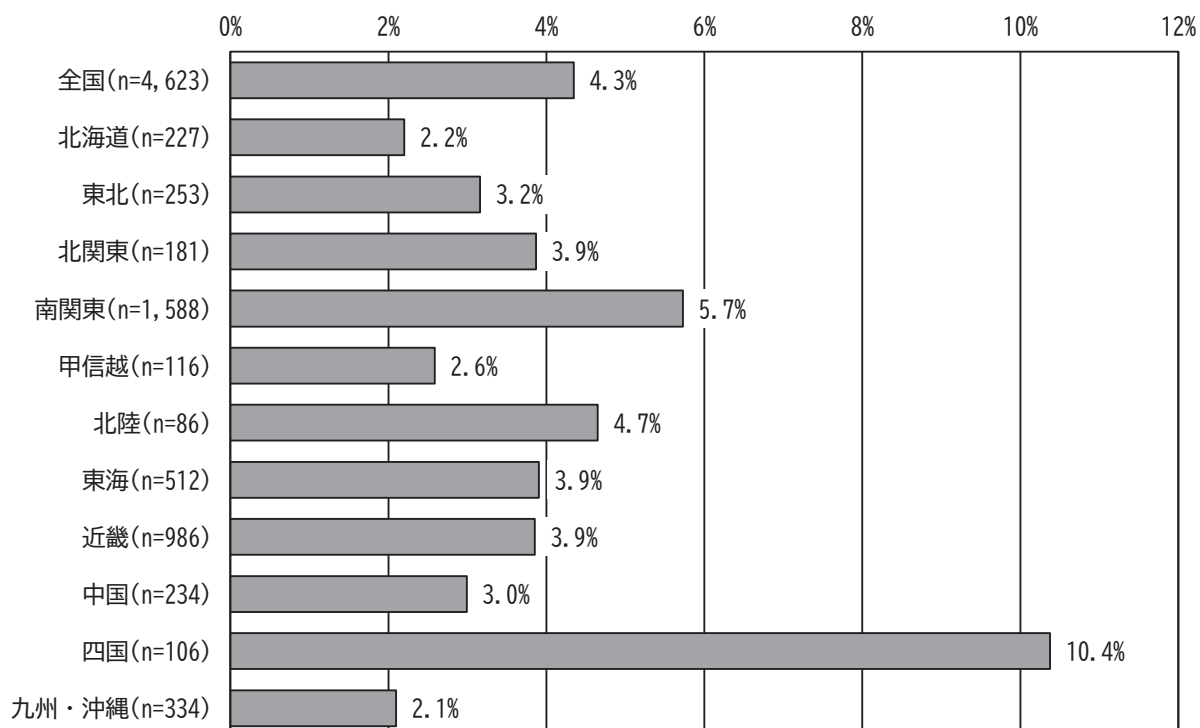




図表 46 「オンラインで医師の診察を受けたことがある」との回答（年齢階級別）



図表 47 「オンラインで医師の診察を受けたことがある」との回答（地方別）



## 2. オンライン診療の受診の背景・診療種類

「オンラインで医師の診察を受けたことがある」と回答した者に、オンライン診療を受診の背景や診療種類(初診か再診か)を問うたところ、新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンライン診療の受診を行った旨の回答は、69.7%だった。また、オンライン診療のすすめや指示の状況についてみると、「医療機関からのすすめや指示による」との回答が 54.2%、「回答者自身の希望や周囲からのすすめによる」との回答が 38.8%、初診/再診の別には「初診」が 35.3%、「再診」が 56.2%だった(図表 48)。

これらの回答の組み合わせ状況についてみると、いずれも「新型コロナウイルス感染拡大に伴う」オンライン診療が多くなっているが、その中でも、「持病あり」群では、「医療機関のすすめや指示による再診」(33.1%)や「回答者自身の希望や周囲のすすめによる再診」(22.5%)が多く、「持病なし・体調不良あり」群では、「医療機関からのすすめや指示による初診」(21.9%)が多い(図表 49)。

図表 48 オンライン診療を受けた背景や診療種類【複数回答】(回答内容別)

オンライン診療を受けた背景や診療種類 (いずれも複数回答)		全体 (n=201)	持病あり群 (n=169)	持病なし・ 体調不良あり群 (n=32)
新型コロナウイルス 感染拡大との関係	感染拡大に伴う	69.7%	72.2%	56.3%
	感染拡大と関係なし	19.4%	18.9%	21.9%
すすめ・指示の状況	医療機関からの すすめや指示による	54.2%	55.6%	46.9%
	回答者自身の希望や 周囲からのすすめによる	38.8%	40.2%	31.3%
オンラインで 受けた診療	初診	35.3%	35.5%	34.4%
	再診	56.2%	59.2%	40.6%

図表 49 オンライン診療を受けた背景や診療種類【複数回答】(回答の組み合わせ別)

新型コロナウイルス感染拡大との関係	すすめ・指示の状況	オンラインで 受けた診療	全体 (n=201)	持病あり群 (n=169)	持病なし・体調不良あり群 (n=32)
感染拡大に伴う	医療機関からの すすめや指示による	初診	17.9%	17.2%	21.9%
		再診	30.8%	33.1%	18.8%
	回答者自身の希望や 周囲からのすすめによる	初診	13.4%	14.8%	6.3%
		再診	20.9%	22.5%	12.5%
感染拡大と 関係なし	医療機関からの すすめや指示による	初診	7.5%	8.3%	3.1%
		再診	7.0%	6.5%	9.4%
	回答者自身の希望や 周囲からのすすめによる	初診	5.5%	4.7%	9.4%
		再診	5.5%	5.3%	6.3%
上記に当てはまるものなし			19.4%	17.2%	31.3%

### 3. オンライン診療の受診に対する感想、考え

「オンラインで医師の診察を受けたことがある」と回答した者に、オンラインで診療を受けた感想を問うたところ、「自宅で受診できるため、便利だと感じる」(45.3%)、「医療機関での待ち時間がなくなり、便利だと感じる」(36.3%)、「自宅で受診できるため、通院のための体力的な負担が減ったと感じる」(29.9%)、「医療機関に行く回数が減り、感染症にかかる心配が小さくなったと感じる」(25.9%)など、利便性や体力的な負担の軽減、感染防止などをあげる回答が上位を占めた。一方、「直接の対面でないため、十分な診療がされているか不安を感じる」(22.4%)、「薬の受け取りに薬局に行ったため、通常の通院と利便性はさほど変わらないと感じる」(14.9%)との回答もあがった(図表 50)。

「オンラインで医師の診察を受けたことがない」と回答した者に、オンラインでの診療に対する考えを問うたところ、「自宅で受診できるため、便利であると思う」(47.9%)、「医療機関での待ち時間がなくなり、便利だと感じると思う」(44.2%)、「医療機関に行く回数が減り、感染症にかかる心配が小さくなると思う」(37.7%)など、利便性や感染防止をあげる回答が上位を占めた。一方、「直接の対面でないため、十分な診療がされているか不安を感じる」(40.2%)との回答も多くあがった(図表 51)。

図表 50 オンライン診療を受けた経験のある回答者のオンライン診療に対する感想【複数回答】

オンライン診療を受けた感想	オンライン診療の経験のある回答者全体 (n=201)	持病あり群 (n=169)	持病なし・体調不良あり群 (n=32)
自宅で受診できるため、便利だと感じる	45.3%	43.8%	53.1%
自宅で受診できるため、気軽に受診ができるようになったと感じる	20.4%	20.7%	18.8%
自宅で受診できるため、通院のための体力的な負担が減ったと感じる	29.9%	30.2%	28.1%
医療機関での待ち時間がなくなり、便利だと感じる	36.3%	36.1%	37.5%
医療機関に行く回数が減り、感染症にかかる心配が小さくなったと感じる	25.9%	24.9%	31.3%
薬の受け取りに薬局に行ったため、通常の通院と利便性はさほど変わらないと感じる	14.9%	15.4%	12.5%
普段の生活状況を医師に見せることができ、病状や生活状況の説明がしやすくなったと感じる	10.9%	11.2%	9.4%
直接の対面でないため、十分な診察がされているか不安に感じる	22.4%	21.3%	28.1%
通信機器の状況が悪く、音声や画像が鮮明でないと感じる	7.0%	6.5%	9.4%
受診に当たり、通信機器の設定や操作方法が難しいと感じる	7.0%	7.1%	6.3%
診療費の支払いに当たり、通信機器の設定や操作方法が難しいと感じる	2.5%	3.0%	0.0%
その他	1.0%	0.6%	3.1%
特に感想はない	9.0%	8.9%	9.4%

図表 51 オンライン診療を受けた経験のない回答者のオンライン診療に対する考え【複数回答】

オンライン診療に対する考え	オンライン診療の経験のない回答者全体 (n=4,422)	持病あり群 (n=3,331)	持病なし・体調不良あり群 (n=1,091)
自宅で受診できるため、便利であると思う	47.9%	45.2%	56.0%
自宅で受診できるため、気軽に受診ができるようになると思う	22.6%	20.6%	28.7%
自宅で受診できるため、通院のための体力的な負担が減ると思う	28.2%	26.0%	35.2%
医療機関での待ち時間がなくなり、便利だと思う	44.2%	42.0%	51.1%
医療機関に行く回数が減り、感染症にかかる心配が小さくなると思う	37.7%	36.3%	42.1%
薬の受け取りに薬局に行く必要があるのならば、通常の通院と利便性はさほど変わらないと思う	17.5%	19.2%	12.5%
普段の生活状況を医師に見せることができ、病状や生活状況の説明がしやすくなると思う	4.6%	4.5%	5.0%
直接の対面でないため、十分な診察が受けられるのが不安に思う	40.2%	37.4%	48.8%
通信機器の状況によっては、音声や画像が鮮明に伝わらないのではないかと不安に思う	17.1%	15.3%	22.5%
通信機器の設定や操作に手間取ると思う	19.3%	19.4%	19.2%
オンライン診療のイメージがわからない	18.5%	19.2%	16.2%
その他	1.4%	1.6%	0.9%

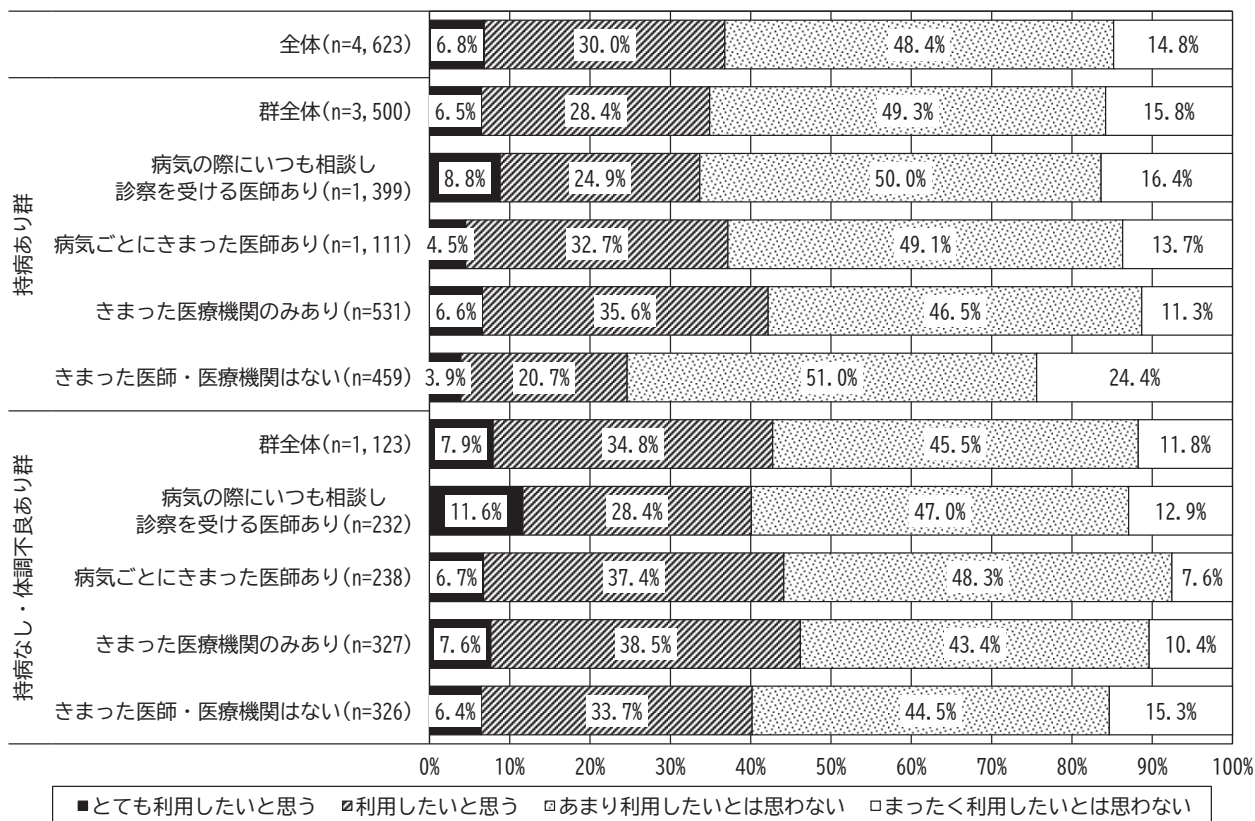
#### 4. 初診時のオンライン診療に対する希望

初診時のオンライン診療に対する利用希望の状況をみると、「持病あり」群の 6.5%が「とても利用したいと思う」、28.4%が「利用したいと思う」と回答し、「持病なし・体調不良あり」群の 7.9%が「とても利用したいと思う」、34.8%が「利用したいと思う」と回答した。これをかかりつけ医の状況別にみると、「きまった医師・医療機関はない」と回答した「持病あり」群では、「とても利用したいと思う」「利用したいと思う」がそれぞれ 3.9%、20.7%であり、相対的に、初診時のオンライン診療の利用希望が薄い（図表 52）。

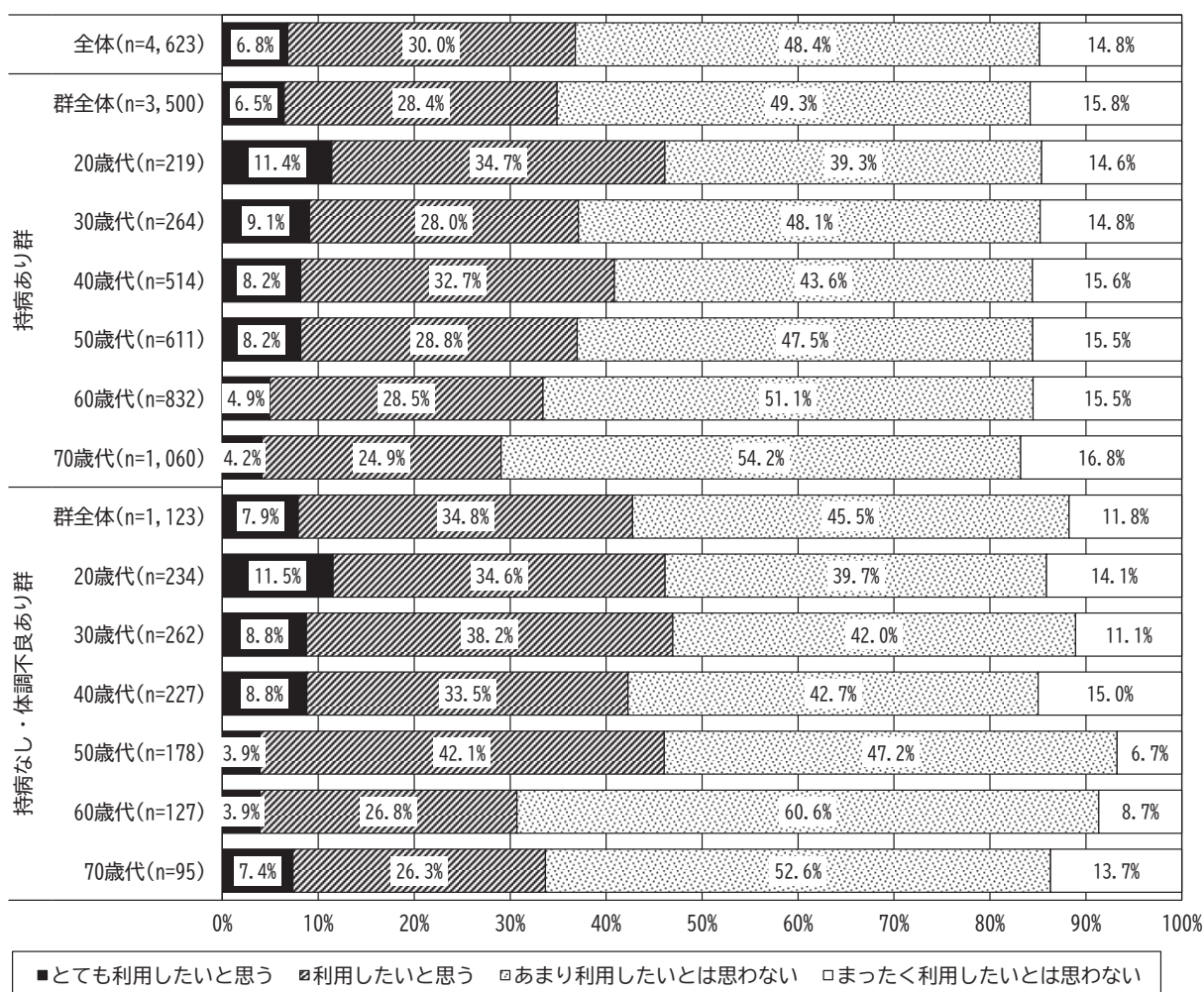
これを年齢階級別にみると、「とても利用したいと思う」+「利用したいと思う」の回答の合計割合は、「持病あり」群・「持病なし・体調不良あり」群のいずれについても、20 歳代～50 歳代の現役世代が、60 歳代・70 歳代よりもよもよも高くなった（図表 53）。

「持病あり」群の回答者について、これを疾患別にみると、「とても利用したいと思う+利用したいと思う」の割合が高いのは「アトピー性皮膚炎」（47.7%）、「アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患」（44.1%）、「婦人科系の疾患」（40.8%）、「偏頭痛」（43.5%）—などの疾患で、40%を超えた（図表 54）。

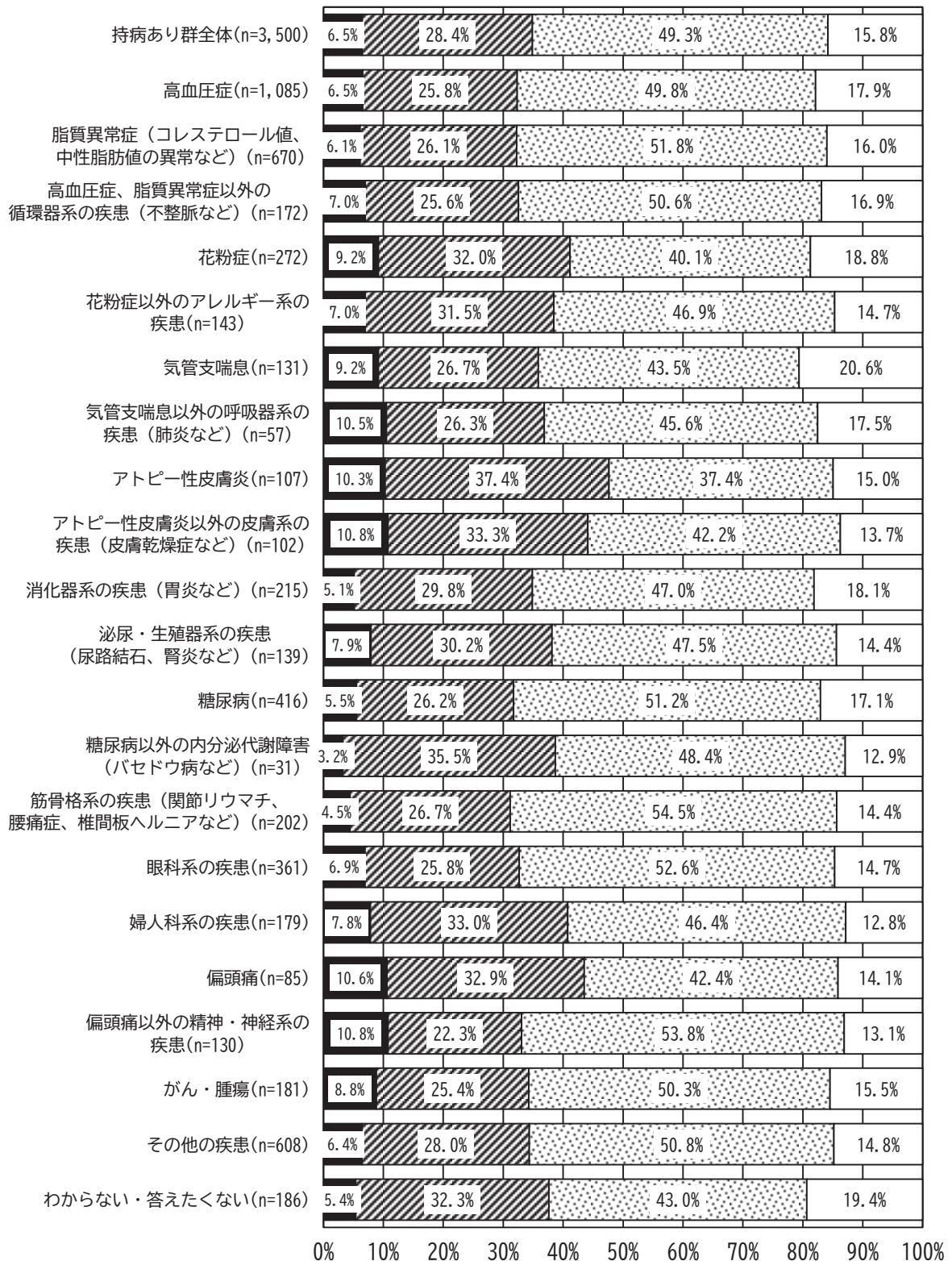
図表 52 オンライン診療に対する希望状況（初診時、群別、かかりつけ医の状況別）



図表 53 オンライン診療に対する希望状況（初診時、群別、年齢階級別）



図表 54 オンライン診療に対する希望状況（初診時、「持病あり」群、疾病別）



とても利用したいと思う                       利用したいと思う  
 あまり利用したいとは思わない                       まったく利用したいとは思わない



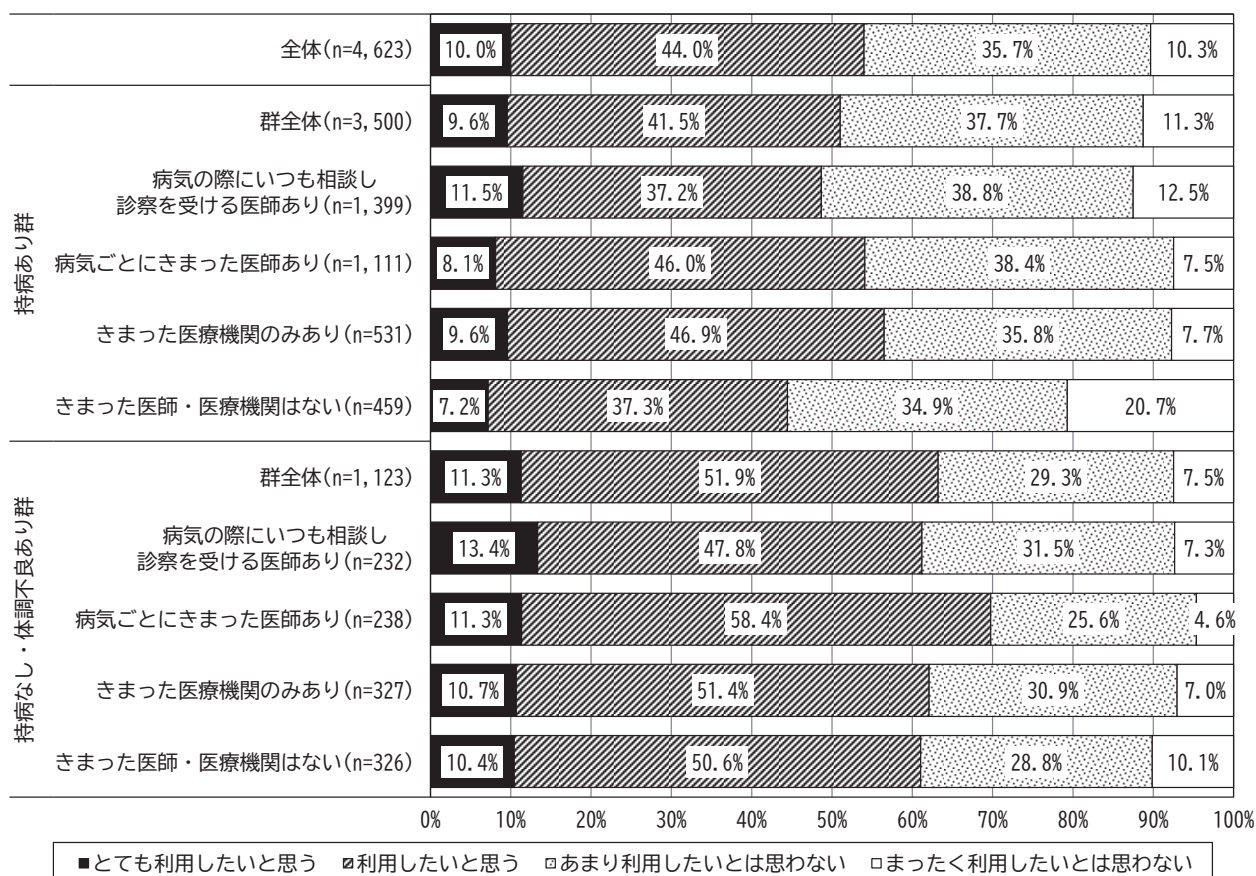
## 5. 再診時のオンライン診療に対する希望

再診時のオンライン診療に対する利用希望の状況を疾患別にみると、「持病あり」群の 9.6%が「とても利用したいと思う」、41.5%が「利用したいと思う」と回答し、「持病なし・体調不良あり」群の 11.3%が「とても利用したいと思う」、51.9%が「利用したいと思う」と回答した。これをかかりつけ医の状況別にみると、「きまった医師・医療機関はない」と回答した「持病あり」群では、「とても利用したいと思う」「利用したいと思う」がそれぞれ7.2%、37.3%であり、相対的に、初診時のオンライン診療の利用希望が薄い。また、再診時のオンライン診療に対する利用希望は、初診時に比べてより大きい（図表 55）。

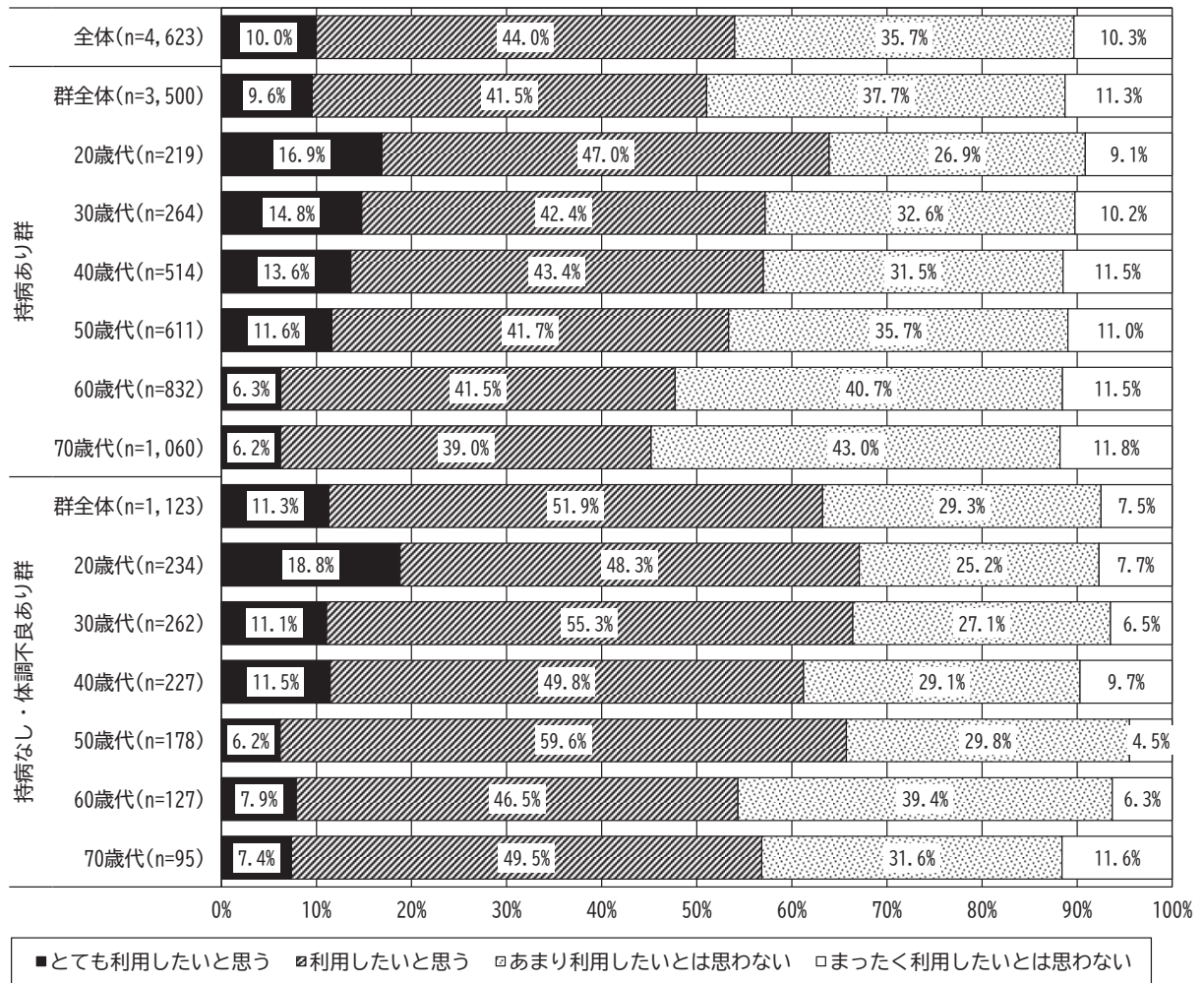
これを年齢階級別にみると、初診時と同様、「とても利用したいと思う」+「利用したいと思う」の回答の合計割合は、「持病あり」群・「持病なし・体調不良あり」群のいずれについても、20 歳代～50 歳代の現役世代が、60 歳代・70 歳代よりもより高くなった（図表 56）。

「持病あり」群の回答者について、これを疾患別にみると、「とても利用したいと思う+利用したいと思う」の割合が高いのは「アトピー性皮膚炎」(65.4%)、「アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患」(63.7%)、「婦人科系の疾患」(59.2%)、「偏頭痛」(62.4%)—などの疾患で、いずれも約 60%程度か、それ以上となった（図表 57）。

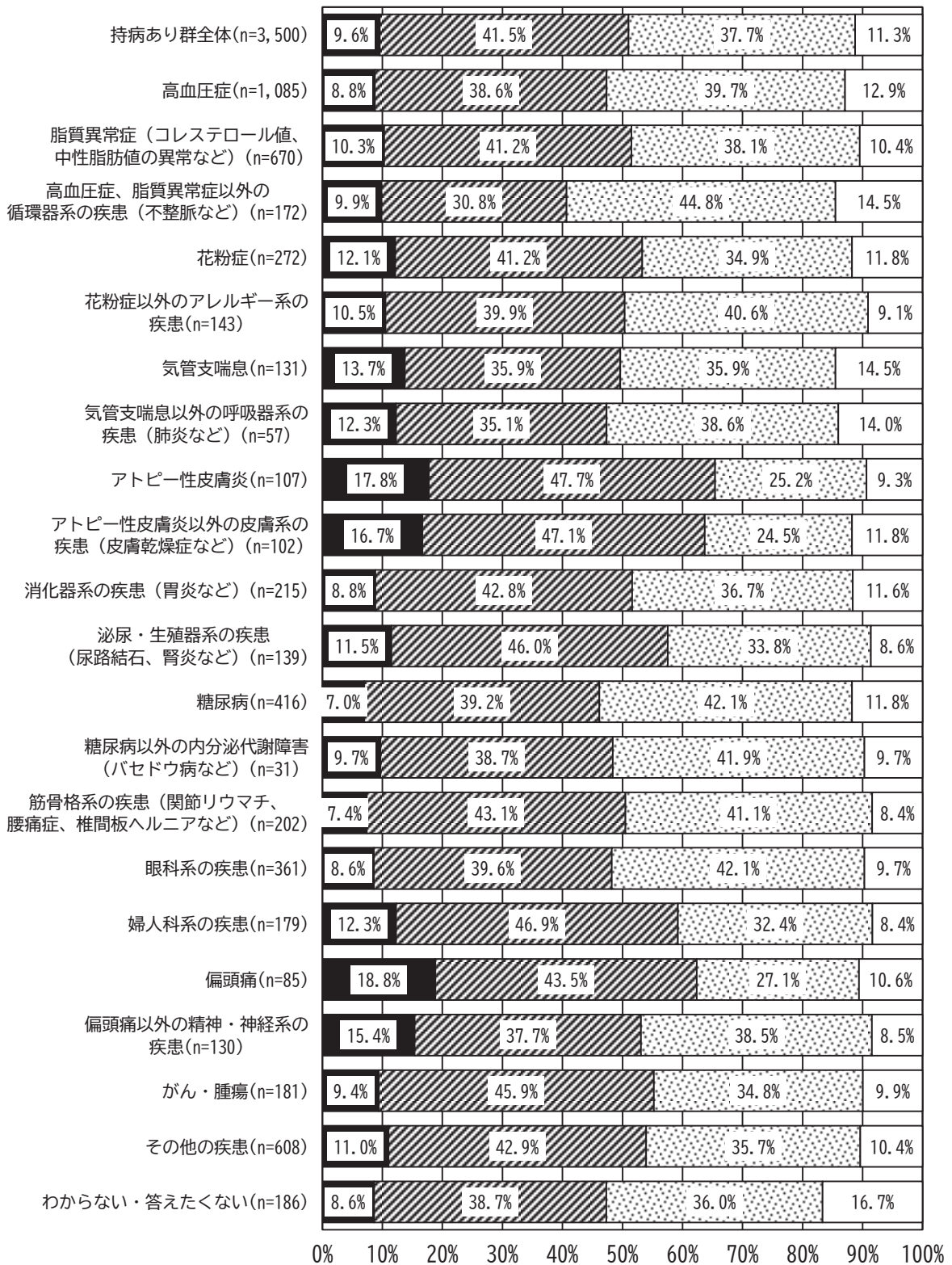
図表 55 オンライン診療に対する希望状況（再診時、群別、かかりつけ医の状況別）



図表 56 オンライン診療に対する希望状況（再診時、群別、年齢階級別）



図表 57 オンライン診療に対する希望状況（再診時、「持病あり」群、疾病別）



とても利用したいと思う                       利用したいと思う  
 あまり利用したいとは思わない                       まったく利用したいとは思わない

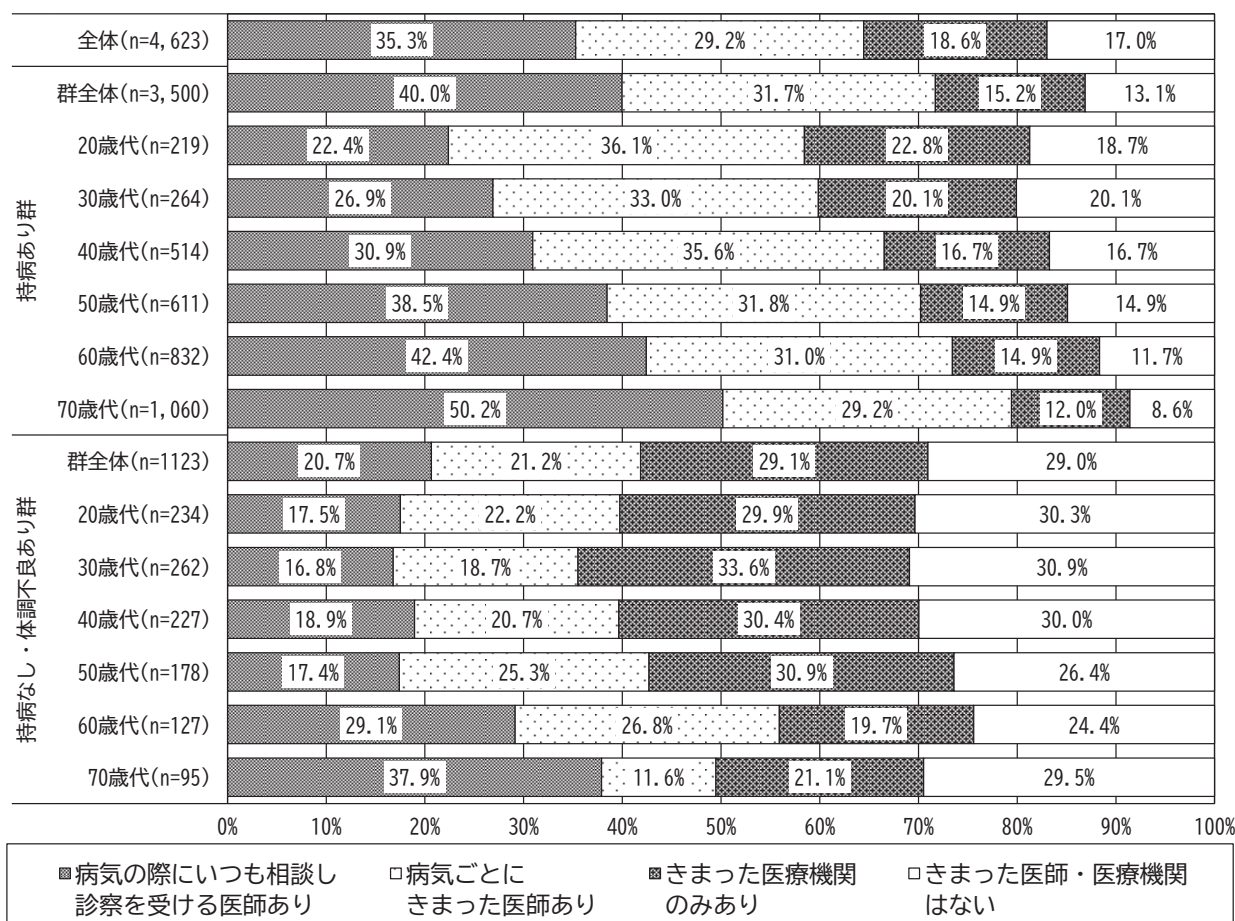
## 第5章 医療機関等のかかりかたに関する意識

### 1. 病気になるといつも相談し診察を受ける医師・医療機関(かかりつけ)の有無

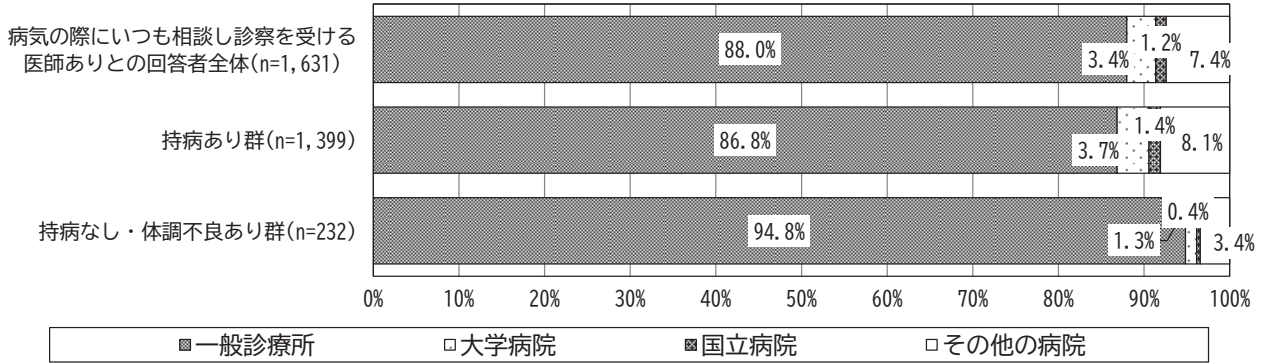
病気になるといつも相談し診察を受ける医師・医療機関の有無について、全体の 35.3%が、「病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいる」と回答した(「持病あり」群 40.0%、「持病なし・体調不良あり」群 20.7%)。年齢階級別にみると、特に「持病あり」群について、年齢が高くなるにつれ、その割合が大きくなる(図表 58)。また、このうち 88.0%は、そうした医師は一般診療所の医師であると回答した(図表 59)。

一方、全体の 17.0%(「持病あり」群 13.1%、「持病なし・体調不良あり」群 29.0%)が、「日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関はない」と回答した(図表 58)。その理由は、「あまり病気をしないから」が 40.9%と最も多く、「その都度、適当な医療機関を選ぶ方がよい」20.3%、「適当な医療機関をどう探してよいかわからない」16.6%が多かった(図表 60)。

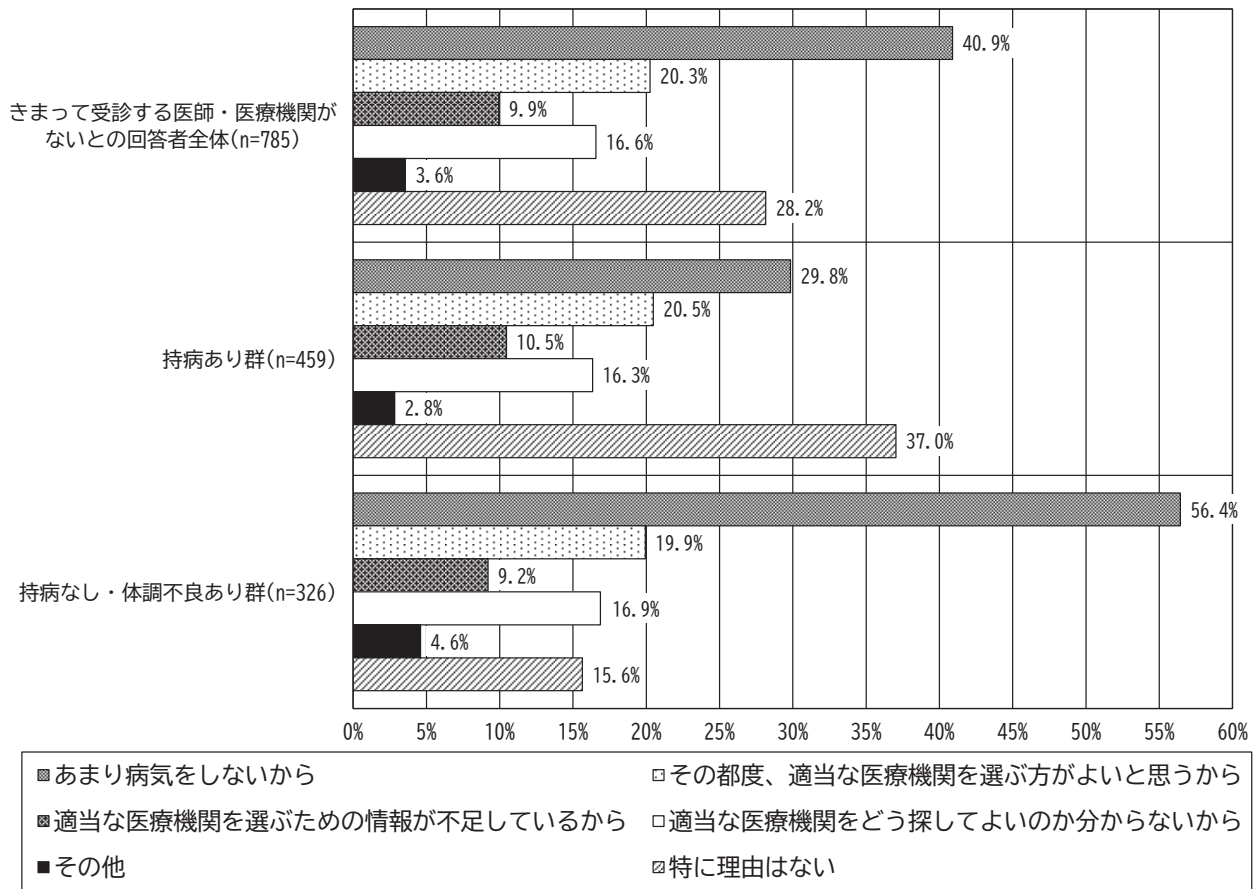
図表 58 病気になるといつも相談し診察を受ける医師・医療機関の有無(群別、年齢階級別)



図表 59 病気になるといつも相談し診察を受ける医師がいる医療機関



図表 60 きまって受診する医師・医療機関がない理由【複数回答】



「病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいる」と回答した人が、その医師に決めた理由としては、「自宅から近く通院が便利である」が 71.3%と最も多く、次いで、「医師が信頼できる」42.4%、「医師の人柄が良い」38.0%、「回答者の病歴や健康状態をよく知っている」30.3%、「病気や治療についてよく説明してくれる」28.9%だった（図表 61）。

また、決まって診察を受ける医師・医療機関に期待することは、全体では「自宅から近く通院が便利である」75.1%、「医師が信頼できる」57.8%、「病気や治療についてよく説明してくれる」45.4%、「医師の人柄が良い」40.2%の順だった（図表 62）

図表 61 病気になるといつも相談し診察を受ける医師の決め手【複数回答】

決めた理由	病気になるといつも相談し診察を受ける医師ありとの回答者全体 (n=1,631)	持病あり群 (n=1,399)	持病なし・体調不良あり群 (n=232)
自宅から近く通院が便利であること	71.3%	70.9%	73.7%
勤務地から近く通院が便利であること	6.7%	5.8%	12.5%
電話やオンラインでの診療に対応してくれること	2.5%	2.5%	2.6%
医師・医療機関の評判がよいこと	18.2%	18.3%	17.7%
必要なときにいつでも連絡がとれ、適切な指示をしてくれること	10.4%	10.9%	7.3%
医師の人柄が良いこと	38.0%	37.5%	41.4%
医師が信頼できること	42.4%	43.2%	37.5%
病気や治療についてよく説明してくれること	28.9%	29.9%	22.8%
健康や疾病予防、医療・介護の相談に気軽に応じてくれること	9.4%	9.5%	8.6%
どんな病気でも診てくれること	11.5%	11.2%	12.9%
いつでも電話相談等の連絡が可能であること	2.6%	2.7%	2.2%
深夜や休日などの緊急時にも診てくれること	2.4%	2.6%	1.3%
往診を頼んでも断らないこと	1.3%	1.2%	1.7%
あなたの病歴や健康状態などをよく知っていること	30.3%	31.7%	22.0%
健康診断や受診履歴などのあなたの健康情報を用いて、継続的に健康管理をしてくれること	16.9%	17.9%	10.3%
あなたのご家族の病歴や健康状態などもよく知っていること	11.0%	10.2%	15.9%
医師の診察技術が優れていること	8.9%	8.9%	9.1%
必要なときに、適切な医師・医療機関・訪問看護ステーション等を紹介してくれること	10.5%	10.9%	8.6%
最新の設備が整えられていること	3.0%	3.4%	0.9%
待ち時間が少ないこと	15.4%	15.4%	15.5%
プライバシーへの配慮が行き届いていること	2.9%	3.0%	2.2%
居心地のよい雰囲気があること	8.0%	8.0%	8.2%
その他	2.1%	2.1%	2.6%
特に理由はない	1.8%	1.9%	1.7%

図表 62 日頃の健康の相談や病気の際にきまって診察を受ける医師・医療機関に期待すること

【複数回答】

期待する内容	全体(n=4,623)	群別		かかりつけ医の状況別			
		持病あり群 (n=3,500)	持病なし・体調不良あり群 (n=1,123)	病気になるといつも相談し診察を受ける医師あり (n=1,631)	病気ごとにきまった医師あり (n=1,349)	きまった医療機関のみあり (n=858)	きまった医師・医療機関はない (n=785)
自宅から近く通院が便利であること	75.1%	73.1%	81.3%	73.0%	72.9%	81.6%	76.3%
勤務地から近く通院が便利であること	10.6%	8.5%	17.0%	6.9%	9.9%	14.5%	15.2%
電話やオンラインでの診療に対応してくれること	9.1%	8.5%	11.0%	6.8%	9.3%	10.4%	12.0%
医師・医療機関の評判がよいこと	35.3%	32.8%	43.2%	24.8%	38.8%	41.0%	45.0%
必要なときにいつでも連絡がとれ、適切な指示をしてくれること	19.4%	20.5%	16.2%	21.7%	19.4%	16.4%	18.1%
医師の人柄が良いこと	40.2%	38.6%	45.0%	40.5%	43.2%	36.1%	38.6%
医師が信頼できること	57.8%	57.7%	58.1%	55.1%	64.1%	54.7%	56.2%
病気や治療についてよく説明してくれること	45.4%	45.0%	46.8%	43.8%	51.7%	43.4%	40.4%
健康や疾病予防、医療・介護の相談に気軽に応じてくれること	17.8%	18.6%	15.4%	19.4%	18.3%	14.7%	16.9%
どんな病気でも診てくれること	15.2%	14.9%	16.0%	16.3%	13.8%	16.1%	14.4%
いつでも電話相談等の連絡が可能だから	3.9%	3.9%	3.9%	4.5%	3.7%	3.1%	3.9%
深夜や休日などの緊急時にも診てくれること	8.5%	8.1%	9.5%	6.4%	7.8%	11.0%	11.2%
往診を頼んでも断らないこと	3.1%	2.8%	3.8%	3.1%	2.9%	2.9%	3.4%
あなたの病歴や健康状態などをよく知っていること	26.1%	28.1%	19.9%	30.8%	31.4%	18.5%	15.4%
健康診断や受診履歴などのあなたの健康情報を用いて、継続的に健康管理をしてくれること	18.2%	19.8%	13.4%	21.2%	19.4%	15.3%	13.4%
あなたのご家族の病歴や健康状態などもよく知っていること	8.2%	8.2%	8.3%	11.5%	7.9%	5.1%	5.4%
医師の診察技術が優れていること	28.2%	27.4%	30.5%	20.9%	31.7%	32.2%	32.7%
必要なときに、適切な医師・医療機関・訪問看護ステーション等を紹介してくれること	16.3%	16.6%	15.3%	17.2%	15.3%	15.0%	17.6%
最新の設備が整えられていること	11.4%	11.0%	12.7%	8.2%	12.6%	13.6%	13.6%
待ち時間が少ないこと	28.3%	26.6%	33.3%	21.3%	30.2%	34.0%	33.1%
プライバシーへの配慮が行き届いていること	10.5%	9.3%	14.4%	7.2%	11.3%	12.5%	13.9%
居心地のよい雰囲気があること	13.8%	12.0%	19.3%	11.3%	13.4%	17.4%	15.8%
その他	0.5%	0.5%	0.4%	0.5%	0.5%	0.7%	0.1%
特に期待することはない	3.3%	3.5%	2.7%	2.0%	1.2%	2.4%	10.8%



## 2. 医療機関のかかりかたに関する考え方

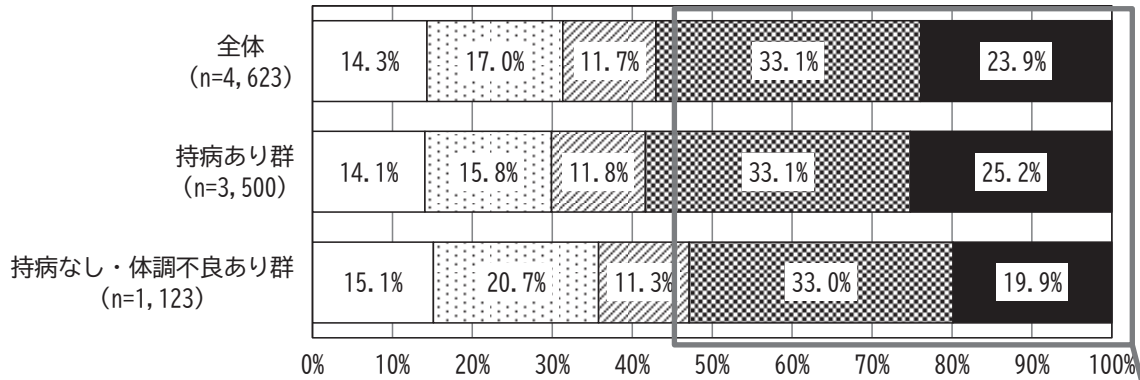
医療機関の受診のあり方について、「A. 病気の症状の程度に関わらず、医療機関の規模とは関係なしに自分の選んだ医療機関を受診する」「B. 最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する」の2つの考え方を示したところ、Aの意見に「賛成」「どちらかといえば賛成」は回答者全体の31.3%（「持病あり」群29.9%、「持病なし・体調不良あり」群35.8%）、Bの意見に「賛成」「どちらかといえば賛成」は回答者全体の57.0%（「持病あり」群58.3%、「持病なし・体調不良あり」群52.9%）であり、かかりつけの医師を経由した専門医療機関へのアクセスに賛成する回答者が多かった（図表63）。ただし、Bの意見に賛成する回答者でも、医療機関へのフリーアクセスを制限することには不安感を持つ人が多かった（図表64）。

年齢階級別にみると、「持病あり」群では30歳代より上の年齢層について、「持病なし・体調不良あり」群では40歳代より上の年齢層について、年齢が高くなるほど、Aの意見に「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が減ってBの意見に「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が増える傾向がみられる（図表65）。

Aに「賛成」「どちらかといえば賛成」とした回答者の理由としては、「その都度、そのときの症状に応じた専門医に診察をしてほしいから」が59.1%と最も多く、次点の「いつも高度な医療機能をもつ大病院を受診したいから」は18.4%だった（図表66）。

一方、Bに「賛成」「どちらかといえば賛成」とした回答者の理由としては、「自分だけで、そのときの症状に応じて適切な医療機関を選ぶことが難しいから」(57.6%)と、「まずは、自分のことをよく知っている医師を受診した方が安心だから」(54.3%)の回答割合が拮抗していた（図表67）。

図表 63 医療機関のかかりかたに関する考え方



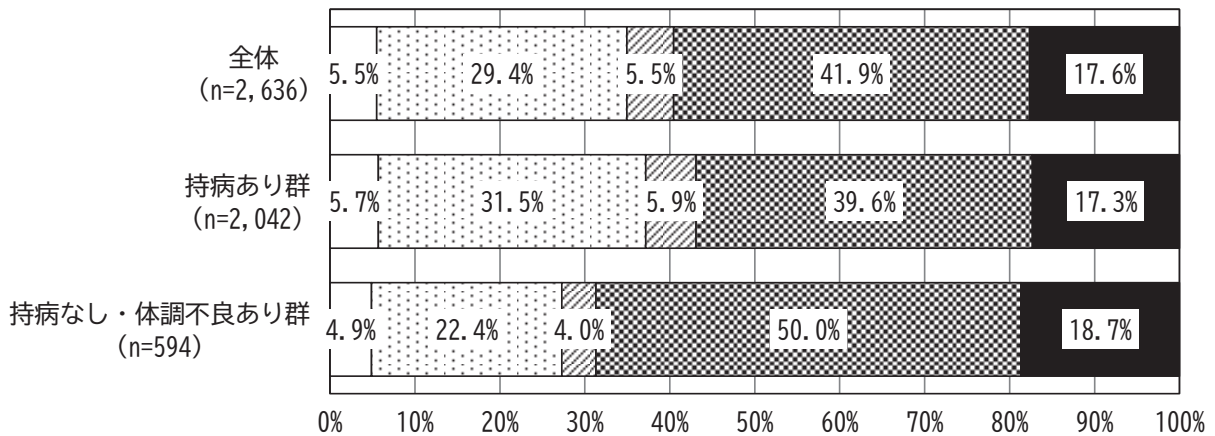
- Aの意見に賛成である
- ▨ Aの意見にどちらかといえば賛成である
- ▩ どちらともいえない
- ▧ Bの意見にどちらかといえば賛成である
- Bの意見に賛成である

＜考え方の内容＞

A の意見の内容：「病気の症状の程度に関わらず、医療機関の規模とは関係なしに自分の選んだ医療機関を受診する」

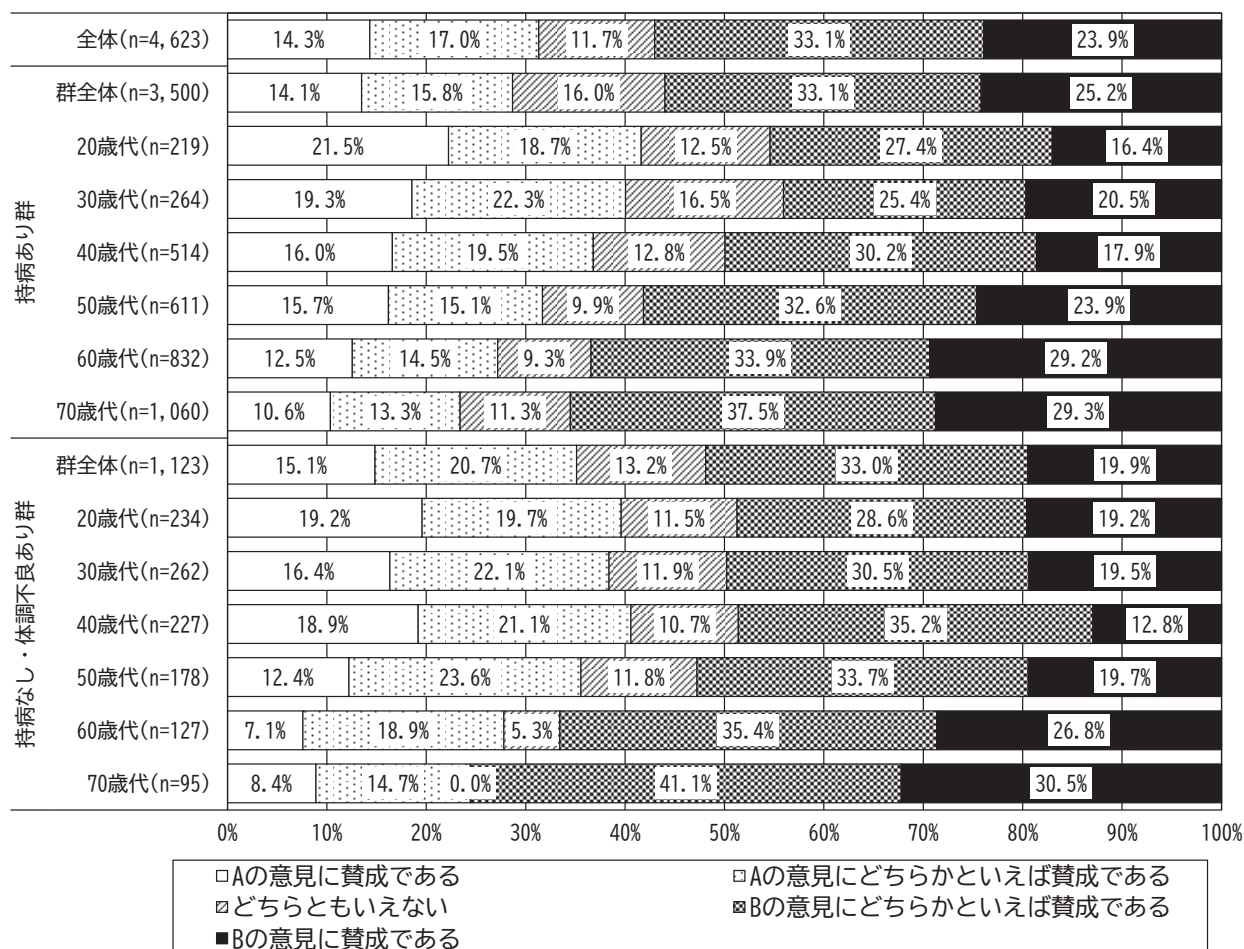
B の意見の内容：「最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する」

図表 64 「体調不良時に、最初の受診は事前に選んで登録した診療所の医師に限定され、当該医師からの紹介状または救急時以外に病院を自由に受診できない」とした場合の不安の程度



- まったく不安を感じない
- ▨ それほど不安を感じない
- ▩ どちらともいえない
- ▧ やや不安を感じる
- 非常に不安を感じる

図表 65 医療機関のかかりかたに関する考え方（群別、年齢階級別）

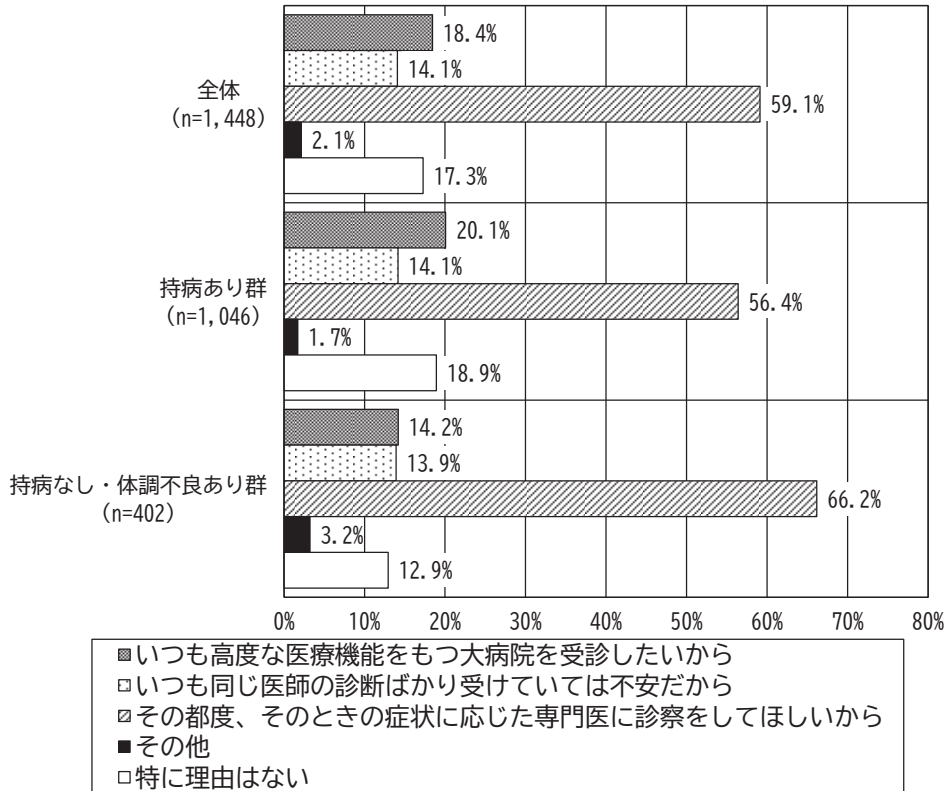


<考え方の内容>

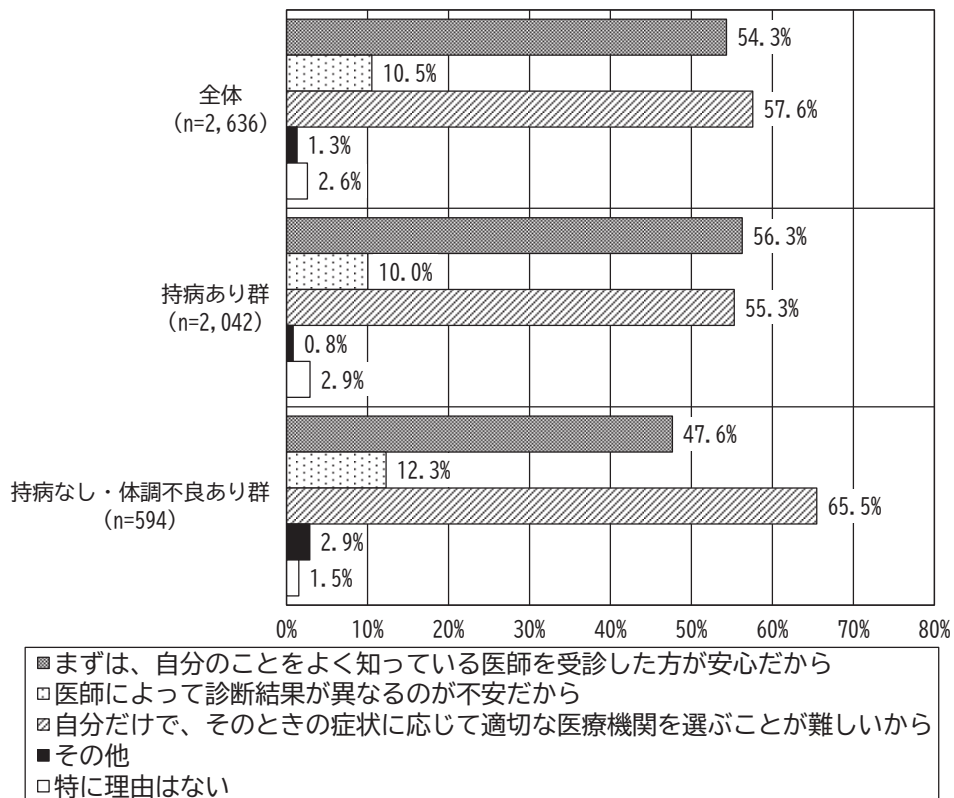
A の意見の内容:「病気の症状の程度に関わらず、医療機関の規模とは関係なしに自分の選んだ医療機関を受診する」

B の意見の内容:「最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する」

図表 66 「A の意見」に「賛成・どちらかといえば賛成」である理由【複数回答】



図表 67 「B の意見」に「賛成・どちらかといえば賛成」である理由【複数回答】



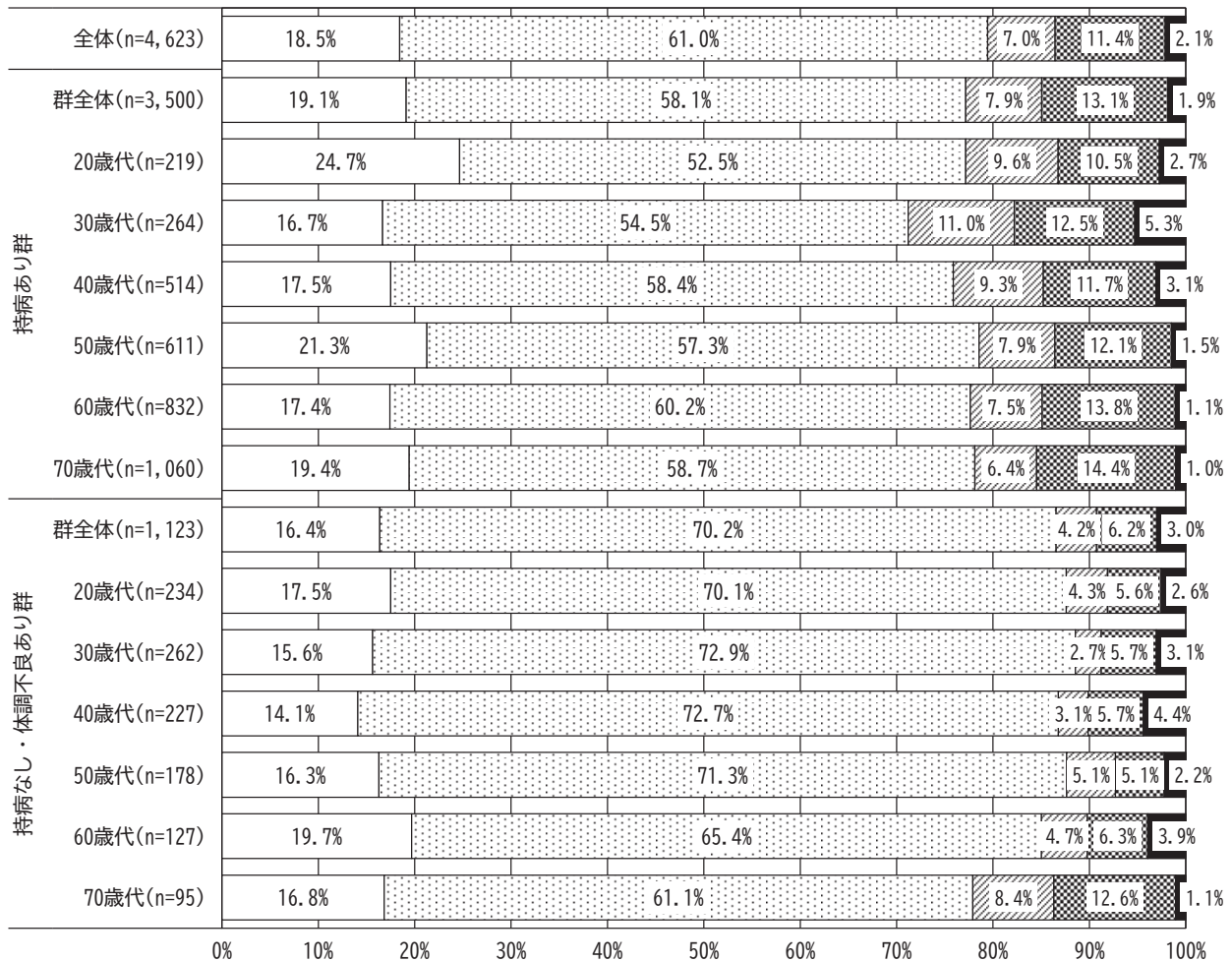
### 3. 薬局の利用状況

医療機関を受診した際の主な薬の受け取り場所について、単一回答で回答を求めたところ、「いつも決まった薬局でかつ決まった薬剤師に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている」「いつも決まった薬局(ただし、薬剤師は決まっていない)に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている」との回答割合は、合計で18.4%にとどまった。この割合は、「持病なし・体調不良あり」群(10.4%)よりも、「持病あり」群(21.0%)の方が高かった。またこの差は、60歳代以下の年代について顕著である。一方、「受診した医療機関の近くになる薬局で薬を受け取っている」との回答は61.0%(同58.1%、同70.2%)にのぼった(図表68)。

また、「いつも決まった薬局で薬を受け取っている」回答者が、その薬局を利用している理由として、回答割合が高いのは、「自宅が近いから」(56.6%)、「以前からよく利用している薬局だから」(42.4%)、「受診している病院・診療所から近いから」(15.4%)等の、薬局の立地や習慣に係る選択肢である(図表69)。

薬局・薬剤師に期待することとして、回答割合が最も高いのは、「自宅や勤務地に近いなど、立ち寄りやすい場所にある」(51.2%)、「受診している病院・診療所から近く、処方された薬をすぐ受け取れる場所にある」(50.0%)等の、薬局の立地に係る選択肢であるが、「服用方法や副作用、注意事項など、薬について説明してくれる」(32.5%)、「後発医薬品について説明してくれるなど、薬代を安くする方法について相談に応じてくれる」(31.4%)といった、薬局・薬剤師の機能に係る選択肢が、これに次いだ(図表70)。

図表 68 病院・診療所受診時に薬を受け取る主な場所<単一回答>



- 受診した医療機関で薬を受け取っている (院内調剤を利用)
- 受診した医療機関の近くの薬局に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている
- 受診した医療機関がどこであっても、いつも決まった薬局かつ決まった薬剤師に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている
- 受診した医療機関がどこであっても、いつも決まった薬局 (ただし、薬剤師は決まっていない) に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている
- 薬を処方されることがほとんどない

図表 69 きまった薬局がある回答者について、当該薬局をいつも利用している理由【複数回答】

当該薬局をいつも利用している理由	全体 (n=851)	持病あり群 (n=734)	持病なし・ 体調不良あり群 (n=117)
以前からよく利用している薬局だから	42.4%	42.5%	41.9%
自宅から近いから	56.6%	55.0%	66.7%
勤務地から近いから	5.2%	5.3%	4.3%
オンラインでの服薬指導に対応してくれるから	2.1%	2.5%	0.0%
薬剤の自宅配送に対応してくれるから	4.8%	4.9%	4.3%
受診している病院・診療所から近いから	15.4%	15.4%	15.4%
医療機関や知人等から評判を聞いたから	1.1%	1.1%	0.9%
患者のことを最優先に考えてくれるから	3.5%	3.8%	1.7%
信頼できる薬剤師がいるから	8.3%	8.4%	7.7%
人柄の良い薬剤師がいるから	8.9%	8.7%	10.3%
早く薬を渡してくれるから	4.9%	4.6%	6.8%
必要な場合、処方した医師に薬の相談をしてもらえるから	8.6%	9.0%	6.0%
服用方法や副作用、注意事項など、薬について丁寧に説明してくれるから	13.5%	13.8%	12.0%
服用方法を変更するなど、薬を飲みやすくする相談に応じてくれるから	2.0%	2.0%	1.7%
服用する薬の種類を減らす相談に応じてくれるから	0.9%	0.7%	2.6%
後発医薬品について説明してくれるなど、薬代を安くする方法について相談に応じてくれるから	13.7%	13.8%	13.7%
処方された薬以外の医薬品や介護用品について、様々な相談に応じてくれるから	1.8%	1.6%	2.6%
いつでも電話相談等の連絡が可能だから	3.1%	3.1%	2.6%
深夜や休日などの緊急時にも対応してくれるから	0.8%	0.5%	2.6%
必要な場合、自宅を訪問して薬の管理・指導をしてくれるから	1.1%	1.2%	0.0%
プライバシーへの配慮が行き届いているから	0.6%	0.7%	0.0%
居心地が良い雰囲気があるから	2.9%	2.9%	3.4%
その他	10.9%	10.9%	11.1%
特に理由はない	3.8%	4.0%	2.6%

図表 70 薬局・薬剤師に期待すること【複数回答】

薬局・薬剤師に期待すること	全体 (n=4,623)	持病あり群 (n=3,500)	持病なし・ 体調不良あり群 (n=1,123)
自宅や勤務地に近いなど、立ち寄りやすい場所にあること	51.2%	49.3%	57.1%
受診している病院・診療所から近く、処方された薬をすぐ受け取れる場所にあること	50.0%	48.7%	54.1%
オンラインでの服薬指導に対応してくれること	5.3%	5.4%	4.7%
薬剤の自宅配送に対応してくれること	9.0%	9.4%	7.7%
早く薬を渡してくれること	30.7%	29.3%	35.0%
必要な場合、処方した医師に薬の相談をしてくれること	22.4%	22.9%	20.7%
服用方法や副作用、注意事項など、薬について説明してくれること	32.5%	31.7%	34.9%
服用方法を変更するなど、薬を飲みやすくする相談に応じてくれること	9.4%	8.2%	12.9%
服用する薬の種類を減らす相談に応じてくれること	6.9%	6.9%	6.8%
後発医薬品について説明してくれるなど、薬代を安くする方法について相談に応じてくれること	31.4%	31.1%	32.5%
処方された薬以外の医薬品や介護用品について、様々な相談に応じてくれること	4.9%	4.9%	4.9%
薬の服用履歴などの、あなたの薬に関する情報を一元的にまとめ、継続的に管理をしてくれること	14.3%	14.7%	13.1%
いつでも電話相談等の連絡が可能であること	5.7%	5.5%	6.2%
土日や夜間の開局時間が長く、自分の生活スタイルに合っていること	7.9%	6.8%	11.2%
必要な場合、自宅を訪問して薬の管理・指導をしてくれること	1.6%	1.5%	1.7%
その他	1.1%	1.1%	1.2%
特に期待することはない	7.4%	7.9%	6.1%



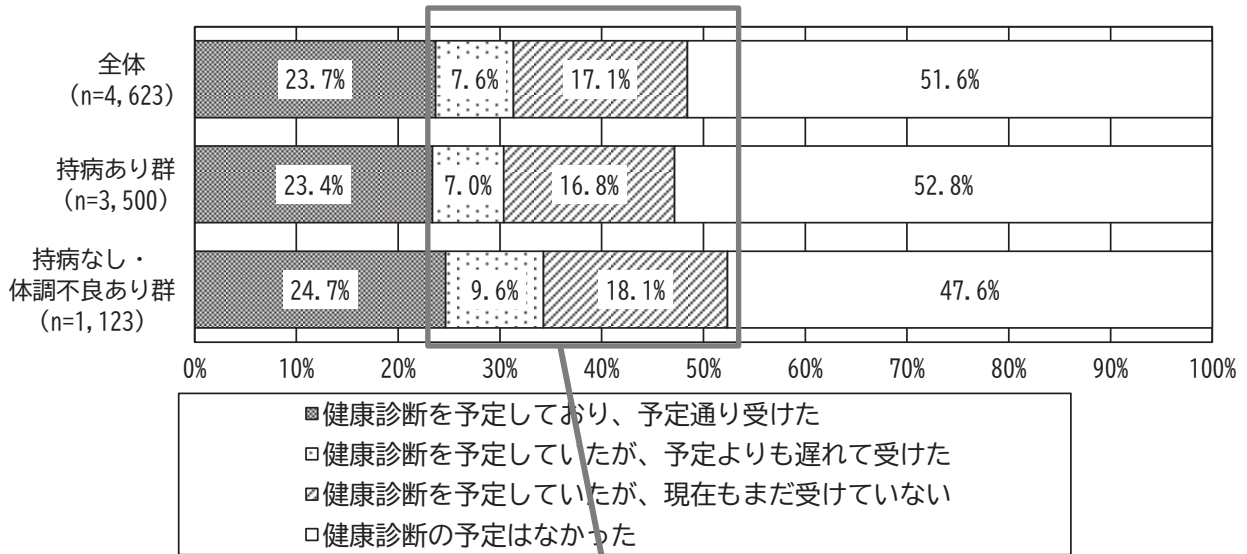
## 第6章 その他

### 1. 新型コロナウイルス感染拡大下における健康診断の延期やその理由

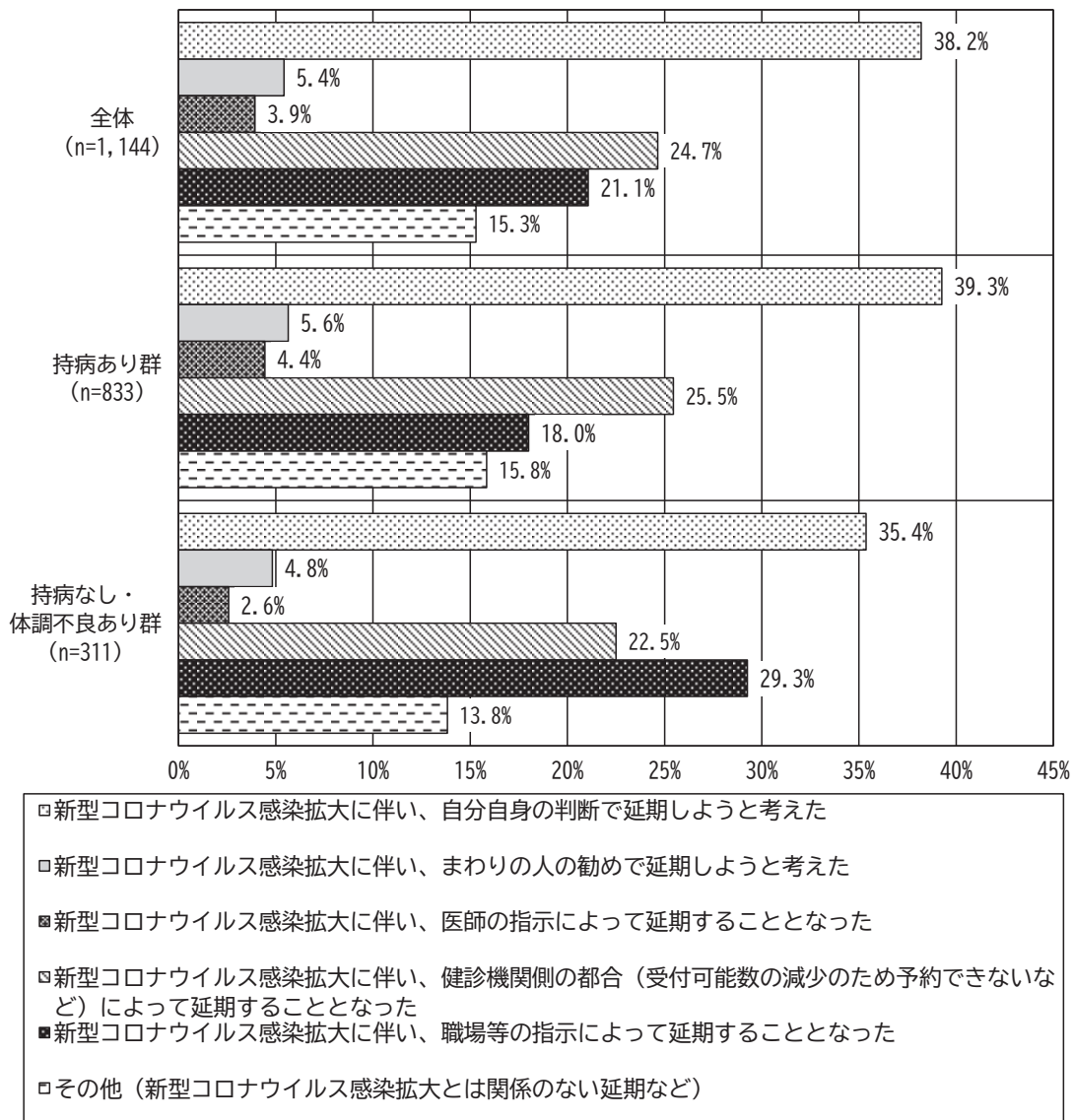
新型コロナウイルス感染拡大下における健康診断の受診状況を問うたところ、全体の 51.6%が「健康診断の予定はなかった」と回答した。また、23.7%が「健康診断を予定しており、予定通り受けた」、7.6%が「健康診断を予定していたが、予定よりも遅れて受けた」と回答し、合計すると 30%超が健康診断を受診した。一方、17.1%が「健康診断を予定していたが、現在もまだ受けていない」と回答した（図表 71）。

健康診断の受診が予定よりも遅れた、または現在もまだ受けていない回答者に延期等の背景を問うたところ、「新型コロナウイルス感染拡大に伴い、自分自身の判断で延期しようと考えた」が 38.2%と最も回答割合が高く、「新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、健診機関側の都合によって延期することとなった」(24.7%)、「新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、職場等の指示によって延期することとなった」(21.1%)との回答が続いた（図表 72）。

図表 71 新型コロナウイルス感染拡大下における健康診断の延期等の有無



図表 72 新型コロナウイルス感染拡大下における健康診断の延期等の背景（複数回答）



## 2. 健康診断時に受けたいと思うコロナウイルス関連の検査

新型コロナウイルスに関して、健康診断時に一緒に受けたいと感じる、あるいは感じた検査(PCR 検査、抗原検査、抗体検査)を問うたところ、全体の 27.5% (「持病あり」群 26.3%、「持病なし・体調不良あり」群 31.4%)が「PCR 検査」を受けたい、16.1% (「持病あり」群 14.4%、「持病なし・体調不良あり」群 21.5%)が「抗原検査」を受けたい、22.9% (「持病あり」群 19.4%、「持病なし・体調不良あり」群 33.7%)が「抗体検査」を受けたいとなった。一方で、全体の 53.9%が「いずれも受けたいとは思わない」と回答した。

これを年齢階級別にみると、「持病あり」群・「持病なし・体調不良あり」群ともに、60 歳代・70 歳代では、それ未満の年齢階級と比べ、3 種類それぞれの検査について「受けたいと思う」との回答割合が低く、「いずれも受けたいとは思わない」との回答割合が高くなった (図表 73)。

また地域別にみると、「当初に特定警戒都道府県に指定された 7 都府県(埼玉・千葉・東京・神奈川・大阪・兵庫・福岡)」「特定警戒都道府県に追加指定された 6 府県(北海道・茨城・石川・岐阜・愛知・京都)」「特定警戒都道府県に含まれていなかった 31 県」の間に、明確な回答割合の差はみられなかった (図表 74)。

図表 73 健康診断時に受けたいと思うコロナウイルス関連の検査 (群別、年齢階級別) (複数回答)

	「PCR検査」 (現在感染しているかを調べる検査)	「抗原検査」 (現在感染しているかを調べる検査で、PCR検査と比べ簡便に行えて結果もすぐに出るが、感染者が陰性と判定されるケースも多い)	「抗体検査」 (過去にに感染したことがあるかを調べる検査で、現在感染しているかの把握はできない)	左記のいずれも受けたいとは思わない
全体(n=4,623)	27.5%	16.1%	22.9%	53.9%
持病あり群				
群全体(n=3,500)	26.3%	14.4%	19.4%	56.9%
20歳代(n=219)	23.7%	21.0%	25.1%	51.1%
30歳代(n=264)	29.5%	23.9%	30.7%	49.2%
40歳代(n=514)	30.5%	19.1%	27.6%	48.6%
50歳代(n=611)	26.2%	14.1%	23.6%	53.8%
60歳代(n=832)	25.4%	11.8%	16.8%	59.0%
70歳代(n=1,060)	24.7%	10.6%	11.0%	64.2%
持病なし・ 体調不良あり群				
群全体(n=1,123)	31.4%	21.5%	33.7%	44.6%
20歳代(n=234)	35.9%	26.5%	34.2%	41.5%
30歳代(n=262)	35.1%	22.9%	38.5%	37.0%
40歳代(n=227)	32.2%	28.2%	41.4%	41.4%
50歳代(n=178)	31.5%	16.9%	29.8%	45.5%
60歳代(n=127)	20.5%	7.9%	22.8%	62.2%
70歳代(n=95)	23.2%	16.8%	23.2%	55.8%

図表 74 健康診断時に受けたいと思うコロナウイルス関連の検査（群別、地域別）（複数回答）

	「PCR検査」 (現在感染しているかを調べる検査)	「抗原検査」 (現在感染しているかを調べる検査で、PCR検査と比べ簡便に行えて結果もすぐに出るが、感染者が陰性と判定されるケースも多い)	「抗体検査」 (過去に感染したことがあるかを調べる検査で、現在感染しているかの把握はできない)	左記のいずれも受けたいとは思わない
合計(n=4,623)	27.5%	16.1%	22.9%	53.9%
群全体(n=3,500)	26.3%	14.4%	19.4%	56.9%
持病あり群				
A:4/7の緊急事態宣言発令時の対象エリア(7都府県)(n=1,875)	29.3%	14.8%	20.1%	54.0%
B:Aを除く特定警戒都道府県(6道府県)(n=615)	23.9%	14.6%	18.5%	58.0%
C:特定警戒都道府県以外(31県)(n=1,010)	22.1%	13.5%	18.7%	61.8%
群全体(n=1,123)	31.4%	21.5%	33.7%	44.6%
持病なし・体調不良あり群				
A:4/7の緊急事態宣言発令時の対象エリア(7都府県)(n=570)	32.3%	21.2%	33.2%	43.0%
B:Aを除く特定警戒都道府県(6道府県)(n=191)	36.1%	26.2%	35.6%	39.8%
C:特定警戒都道府県以外(31県)(n=362)	27.6%	19.6%	33.7%	49.7%

### 3. 新型コロナウイルスの感染拡大防止のために特に必要と感じている対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために、特に必要だと感じている対策について問うたところ、全体の89.4%が「マスクや手洗いなどの個人の予防対策」と回答し、「治療薬やワクチンの研究開発」(59.6%)、「緊急事態宣言による外出自粛要請などの国の施策」(29.3%)などを大きく上回った。このほか、25.7%が「健康保険制度により、低額で検査や治療を受けられること」をあげた(図表75)。

図表 75 新型コロナウイルスの感染拡大防止のために特に必要と感じている対策

【上位3つまで回答】

特に必要と考えている対策	全体 (n=4,623)	持病あり群 (n=3,500)	持病なし・ 体調不良あり群 (n=1,123)
マスクや手洗いなどの個人の予防対策	89.4%	89.5%	89.0%
緊急事態宣言による外出自粛要請などの国の施策	29.3%	30.2%	26.7%
時差通勤や在宅勤務などの各企業の取り組み	22.1%	19.0%	31.8%
健康保険制度により、低額で検査や治療を受けられること	25.7%	26.0%	24.8%
専門的な医療機関の整備などの医療提供体制の充実	18.4%	18.3%	18.9%
治療薬やワクチンの研究開発	59.6%	59.5%	59.9%
感染しているかを調べる検査の実施拡大	21.4%	21.7%	20.6%
その他	0.8%	0.7%	1.0%

#### 4. 新型コロナウイルスの感染拡大を契機とした病気や健康への意識の変化

新型コロナウイルス感染拡大を契機に、病気や健康にかかわる回答者自身の意識が、今後どのように変わらと思うか問うたところ、全体の39.2%が「以前に比べ、生活習慣病の予防に関心を持つようになると思う」、33.0%が「以前に比べ、生活習慣病以外の病気の予防や健康管理に関心を持つようになると思う」、23.5%が「以前に比べ、医療機関を受診するかどうかを慎重に考えるようになると思う」など、高い回答割合を示した。一方で、29.9%が「特に意識は変わらないと思う」と回答した（図表76）。

図表 76 新型コロナウイルスの感染拡大を契機として病気や健康にかかわる回答者自身の意識がどのように変わらと思うか【複数回答】

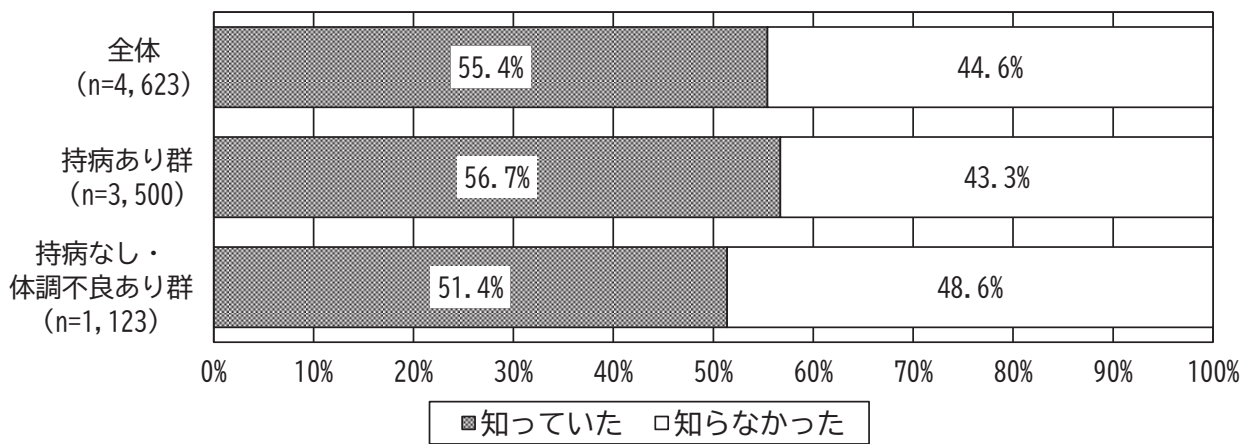
意識の変化内容	全体 (n=4,623)	持病あり群 (n=3,500)	持病なし・ 体調不良あり群 (n=1,123)
以前に比べ、生活習慣病の予防に関心を持つようになると思う	39.2%	38.5%	41.5%
以前に比べ、生活習慣病以外の病気の予防や健康管理に関心を持つようになると思う	33.0%	31.9%	36.5%
以前に比べ、こまめに医療機関を受診しようとするようになると思う	3.3%	3.0%	4.2%
以前に比べ、医療機関を受診するかどうかを慎重に考えるようになると思う	23.5%	19.8%	35.0%
以前に比べ、一度により長い日数の薬の処方を受けて、受診の頻度を減らそうと考えることが増えると思う	18.1%	18.5%	17.0%
以前に比べ、医療機関の受診にかえて、市販の薬を服用することが増えると思う	4.7%	3.2%	9.5%
オンラインでの受診を活用しようとするが増えると思う	12.0%	10.6%	16.4%
オンラインを通じた薬の配送を活用しようとするが増えると思う	7.1%	6.4%	9.2%
オンラインでの健康相談を活用しようとするが増えると思う	6.4%	5.5%	9.2%
ドラッグストアなど、医療機関以外での健康相談を活用しようとするが増えると思う	4.7%	3.6%	7.8%
その他	0.4%	0.4%	0.4%
特に意識は変わらないと思う	29.9%	32.2%	22.7%

## 5. 新型コロナウイルス感染症の治療費の負担に関する認識とあるべき姿

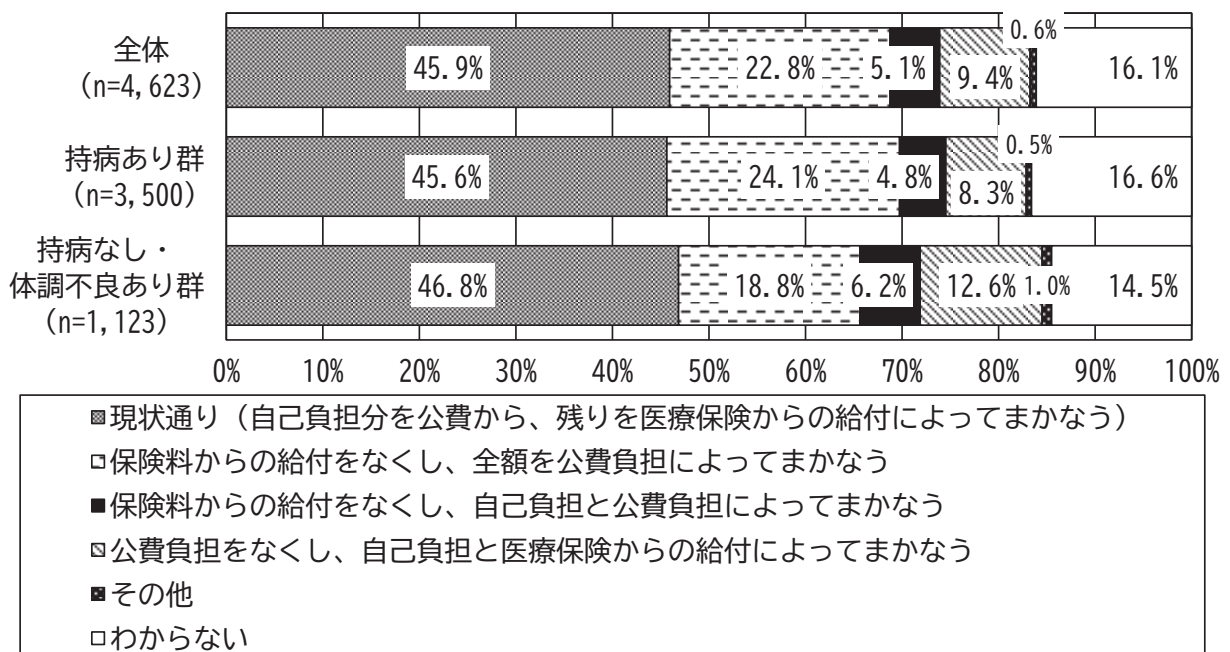
新型コロナウイルス感染症の治療にかかる医療費について、財源の負担方法(通常時の自己負担分が税金を主たる財源とする公費でまかなわれ、それ以外の部分が保険料を主たる財源とする医療保険から給付されていること)に関する認識を問うたところ、全体の55.4%が「知っていた」と回答した(図表77)。

また、新型コロナウイルス感染症の治療にかかる医療費を今後どのように負担するかについて問うたところ、全体の45.9%が「現状通り」と回答し、次いで、「保険料からの給付をなくし、全額を公費負担によってまかなう」(22.8%)との回答割合が高かった(図表78)。

図表 77 検査新型コロナウイルス感染症の治療にかかる治療費の負担が、通常の診療の保険給付分が保険給付であり、自己負担分のみが公費負担であることを知っていたか



図表 78 検査新型コロナウイルス感染症の治療にかかる治療費の負担のあるべき姿に関する考え







## 参考資料

### 新型コロナウイルス感染症拡大期における受診意識調査

#### ◀ 調査内容 ▶

※本資料は、web アンケート方式にて行ったアンケートの調査内容を、紙面に落とし込んだものであり、web アンケートにおける画面デザインとは異なる。

## アンケート調査へのご協力をお願い

この調査は、国民の皆様が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大期において、医療機関のかかり方や、現在の医療や医療保険制度に対するお考えに、どのような変化があったのかを知り、今後の医療政策の検討に資する基礎資料を整備することを目的としております。

なお、この調査の対象となる方は、満20歳～79歳の方です。お答えになった内容は、上記の目的にのみ使用し、統計的に処理いたしますので、皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございません。

どうぞ、率直なご意見、お考えをお聞かせください。本調査の趣旨をご理解頂き、回答へのご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 事前設問

事前設問（1） あなたは、昨年（2019年）の12月頃（国内で新型コロナウイルス感染者が確認される前）の状況として、持病（けがを除く）の治療（経過観察を含む）のために、医療機関に定期的に通院していましたか。＜単数回答＞

- 01 定期的に通院していた
- 02 定期的には通院していなかった

### ＜参考＞新型コロナウイルス感染に係る推移（2020年）

- ・1月16日 厚生労働省が国内初の感染者確認を発表
- ・2月5日 クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」において陽性が確認された10人が、神奈川県内の医療機関に搬送される
- ・2月27日 安倍首相が全国の小中高校に3月2日からの臨時休校を要請
- ・3月24日 東京オリンピック・パラリンピックの延期決定
- ・4月7日 埼玉・千葉・東京・神奈川・大阪・兵庫・福岡の7都府県に緊急事態宣言
- ・4月16日 緊急事態宣言が全国に拡大される
- ・5月14日 39県で緊急事態宣言が解除される
- ・5月21日 京都・大阪・兵庫で緊急事態宣言が解除される
- ・5月25日 全都道府県で緊急事態宣言が解除される

事前設問（2） あなたは、今年（2020年）の2月以降（国内で新型コロナウイルス感染者が確認され、さらに感染者数が増加して以降）に、医療機関の受診を検討するような体調不良を経験したことがありますか。＜単数回答＞

- 01 医療機関の受診を検討するような体調不良があった（実際には受診したか否かは問いません）
- 02 体調不良を経験したが、医療機関を受診しようと思うほどの症状ではなかった
- 03 体調不良は経験しなかった

### ＜参考＞新型コロナウイルス感染に係る推移（2020年）

- ・1月16日 厚生労働省が国内初の感染者確認を発表
- ・2月5日 クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」において陽性が確認された10人が、神奈川県内の医療機関に搬送される
- ・2月27日 安倍首相が全国の小中高校に3月2日からの臨時休校を要請
- ・3月24日 東京オリンピック・パラリンピックの延期決定
- ・4月7日 埼玉・千葉・東京・神奈川・大阪・兵庫・福岡の7都府県に緊急事態宣言
- ・4月16日 緊急事態宣言が全国に拡大される
- ・5月14日 39県で緊急事態宣言が解除される
- ・5月21日 京都・大阪・兵庫で緊急事態宣言が解除される
- ・5月25日 全都道府県で緊急事態宣言が解除される

### 【スクリーニング】

- ・事前設問（1）が01 …「持病あり群」⇒本調査へ
- ・事前設問（1）が02で事前設問（2）が01 …「持病なし 体調不良あり群」⇒本調査へ
- ・事前設問（1）が02で事前設問（2）が02・03 …「持病なし 体調不良なし群」⇒回答終了

### 【回答者の属性データについて】

回答者の属性データのうち、下記の3項目については、配信日（2020年9月11日）時点のモニター登録情報に基づく。

①性別 ②年齢 ③都道府県

## ① はじめに、あなたご自身についてお尋ねします。

Q1 あなたの職業はどれですか。＜単数回答＞

01 農 林 漁 業	例. 農業、牧畜、造園業、林業、漁業など
02 商工・サービス業	例. 卸売業、小売業、飲食店、理髪店、修理店など
03 自 由 業	例. 開業医、弁護士、宗教家、著述業、茶華道師匠など
04 経 営 ・ 管 理 職	例. 官公庁・民間会社・団体の課長級以上
05 専 門 ・ 技 術 職	例. 病院勤務医師、裁判官、研究所研究員など
06 事 務 職	例. 一般事務職員、教員、事務機械オペレーター、新聞記者など
07 労 務 ・ 技 能 職	例. 各種技能工、運転手、電話交換手、職人、守衛など
08 販 売 ・ サ ー ビ ス 職	例. 販売店員、外交員、ウェイトレス、理・美容師
09 そ の 他 の 職 業	
10 就業していない主婦(夫)	
11 学 生	
12 そ の 他 無 職	

Q2 あなたの加入している（加入者の被扶養者である場合を含む）医療保険はどれですか。＜単数回答＞

01 組合管掌健康保険（健保組合）	02 全国健康保険協会（協会けんぽ）
03 船員保険	04 国民健康保険（国保組合を含む）
05 共済組合（公務員、私立学校教職員）	06 日雇保険
07 後期高齢者医療広域連合	08 その他・加入していない

## ② あなたの外来受診の状況についてお尋ねします。

■ここでの外来受診の状況については、先ほどお答えいただいた【昨年(2019年)の12月頃(国内で新型コロナウイルス感染者が確認される前)の状況として、持病(けがを除く)の治療(経過観察を含む)のために、医療機関に定期的に通院していた】と回答していただいた外来受診についてお答えください。

※Q3～Q11は、「持病あり群」のみが回答対象

Q3 【持病あり群のみ】先ほどの設問でお答えいただいた、**昨年(2019年)の12月頃**の定期的な通院について、その病気(けがを除く)の種類をご回答ください。【複数回答】

- 01 高血圧症
- 02 脂質異常症(コレステロール値、中性脂肪値の異常など)
- 03 高血圧症・脂質異常症以外の循環器系の疾患(不整脈など)
- 04 花粉症
- 05 花粉症以外のアレルギー系の疾患
- 06 気管支喘息
- 07 気管支喘息以外の呼吸器系の疾患(肺炎など)
- 08 アトピー性皮膚炎
- 09 アトピー性皮膚炎以外の皮膚系の疾患(皮膚乾燥症など)
- 10 消化器系の疾患(胃炎など)
- 11 泌尿・生殖器系の疾患(尿路結石、腎炎など)
- 12 糖尿病
- 13 糖尿病以外の内分泌代謝障害(パセドウ病など)
- 14 筋骨格系の疾患(関節リウマチ、腰痛症、椎間板ヘルニアなど)
- 15 眼科系の疾患
- 16 婦人科系の疾患
- 17 偏頭痛
- 18 偏頭痛以外の精神・神経系の疾患
- 19 がん・腫瘍
- 20 その他( )
- 21 わからない・答えたくない

Q4 【持病あり群のみ】先ほどの設問でお答えいただいた、**昨年(2019年)の12月頃**の定期的な通院について、いつごろから、定期的に通院していますか。複数の病気で定期的に通院している方は、最も時期が早いものについてお答えください。

01 2009年以前から	02 2010年～2014年頃から
03 2015年～2016年頃から	04 2017年頃から
05 2018年頃から	06 2019年1月～6月頃から
07 2019年7月～12月頃から	08 わからない

Q5 【持病あり群のみ】下記の各期間について、あなたの外来の受診回数をご記入ください。  
注：同じ日に、2つの医療機関を受診した場合は、「2回」とカウントしてください。

①2020年1月の外来受診回数  回程度

②2020年4月の外来受診回数  回程度

③2020年6月の外来受診回数  回程度

<参考>新型コロナウイルス感染に係る推移

- ・1月16日 厚生労働省が国内初の感染者確認を発表
- ・2月5日 クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」において陽性が確認された10人が、神奈川県内の医療機関に搬送される
- ・2月27日 安倍首相が全国の小中高校に3月2日からの臨時休校を要請
- ・3月24日 東京オリンピック・パラリンピックの延期決定
- ・4月7日 埼玉・千葉・東京・神奈川・大阪・兵庫・福岡の7都府県に緊急事態宣言
- ・4月16日 緊急事態宣言が全国に拡大される
- ・5月14日 39県で緊急事態宣言が解除される
- ・5月21日 京都・大阪・兵庫で緊急事態宣言が解除される
- ・5月25日 全都道府県で緊急事態宣言が解除される

Q6 【持病あり群のみ】新型コロナウイルスの感染拡大の前（**2020年1月頃まで**）において、通院する日は何によって決めていましたか。【複数回答】

01 医師に受診するように指示された日に通院していた（定期的な通院を含む）
02 処方された薬がなくなりそう、またはなくなった時に通院していた
03 病状・体調が悪い日に通院していた
04 病状・体調がよい日に通院していた
05 都合がつく日に通院していた
06 その他（ <input type="text"/> ）



Q7 【持病あり群のみ】新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）、感染拡大以前と比べて、通院の頻度に変化はありましたか。＜単数回答＞

- 01 感染拡大前と比べて、通院する頻度を多くしていた（通院間隔を短くしていた）
- 02 感染拡大以前と比べて、通院する頻度は変わらなかった
- 03 感染拡大前と比べて、通院する頻度を少なくしていた（通院間隔を長くしていた） ⇒Q7-1 へ
- 04 通院するのをやめていた ⇒Q7-1 へ

Q7-1 【持病あり群、かつ Q7 で 03・04 を選択した場合のみ】緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）、あなたが通院するのをやめていた、あるいは通院する頻度を少なくしていた理由は何ですか。【複数回答】

- 01 医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから
- 02 他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから
- 03 医師や看護師から通院しないように、あるいは頻度を少なくするように言われていたから
- 04 家族から通院しないように、あるいは頻度を少なくするように言われていたから
- 05 病状・体調が悪かったから
- 06 病状・体調が回復したから
- 07 電話やオンラインで診療を受けていたから
- 08 普段よりも長い日数分の薬の処方を受けていたから
- 09 市販の薬を飲んで症状に対処していたから
- 10 自身の体調管理により、通院する必要性を感じなくなった、あるいは頻度を減らしてもよいと感じたから
- 11 通院する時間がとれなかったから
- 12 外出自体をしないようにしていたから
- 13 入院していたから
- 14 その他（）
- 15 特に理由はない

※「01～14」と、「15」の両方の選択がなされないように設定

Q8 【持病あり群のみ】緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）のあなたの通院の方法について、当てはまるものをご回答ください。【複数回答】

- 01 電話を利用して、医師の診療を受けた（感染拡大以前から電話での診察を受けたことがある場合を含む）
- 02 インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療を受けた（感染拡大以前からオンラインでの診察を受けたことがある場合を含む）
- 03 普段とは異なる医療機関に通院していた
- 04 上記に当てはまるものはない

※「01・02・03」と、「04」の両方の選択がなされないように設定

Q9 【持病あり群のみ】緊急事態宣言が解除された後（**2020年6月頃**）、感染拡大前や緊急事態宣言の頃と比べて、通院の頻度に変化はありましたか。＜単数回答＞

- 01 感染拡大以前と比べて、通院する頻度を多くしていた
- 02 感染拡大以前と比べて、通院する頻度は変わらなかった
- 03 感染拡大前よりも通院する頻度は少ないが、緊急事態宣言中に比べれば頻度は戻った  
⇒Q9-1～Q9-3 へ
- 04 感染拡大前よりも通院する頻度を少なくしたまま、緊急事態宣言解除後も戻らなかった  
⇒Q9-1～Q9-3 へ
- 05 通院するのをやめていた ⇒Q9-1～Q9-3 へ

Q9-1 【持病あり群、かつ Q9 で 03・04・05 を選択した場合のみ】緊急事態宣言が解除された後（**2020年6月頃**）、あなたが通院するのをやめていた、あるいは通院する頻度を少なくしていた理由は何ですか。【複数回答】

- 01 医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから
- 02 他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから
- 03 医師や看護師から通院しないように、あるいは頻度を少なくするように言われていたから
- 04 家族から通院しないように、あるいは頻度を少なくするように言われていたから
- 05 病状・体調が悪かったから
- 06 病状・体調が回復したから
- 07 電話やオンラインで診療を受けていたから
- 08 普段よりも長い日数分の薬の処方を受けていたから
- 09 市販の薬を飲んで症状に対処していたから
- 10 自身の体調管理により、通院する必要性を感じなくなった、あるいは頻度を減らしてもよいと感じたから
- 11 通院する時間がとれなかったから
- 12 外出自体をしないようにしていたから
- 13 入院していたから
- 14 その他（ )
- 15 特に理由はない

※「01～14」と、「15」の両方の選択がなされないように設定

Q9-2 【持病あり群、かつ Q9 で 03・04・05 を選択した場合のみ】緊急事態宣言が解除された後（**2020年6月頃**）、あなたが通院するのをやめていた、あるいは通院する頻度を少なくしていたことで、体調の変化を感じますか。＜単数回答＞

- 01 通院しない、あるいは通院の頻度を少なくしても体調が回復した
- 02 特に体調が悪くなったとは感じない
- 03 体調が少し悪くなったと感じる
- 04 体調がとても悪くなったと感じる
- 05 わからない

Q9-3 【持病あり群、かつ Q9 で 03・04・05 を選択した場合のみ】今後の国全体の新型コロナウイルスの感染状況に応じた通院のあり方について、どのようにお考えですか。＜単数回答＞

- |    |  |
|----|--|
| 01 | 新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しなくても、早く以前のような頻度で通院したいと考えている  |
| 02 | 新型コロナウイルスの感染が国全体で収束するまでは、以前のような頻度では通院したくないと考えている |
| 03 | 新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しても、以前のような頻度では通院したくないと考えている   |
| 04 | その他（ <span style="float: right;">）</span>        |

Q10 【持病あり群のみ】緊急事態宣言が解除された後（2020年6月頃）のあなたの通院の方法について、当てはまるものについてご回答ください。【複数回答】

- |    |   |
|----|---|
| 01 | 電話を利用して、医師の診療を受けた（緊急事態宣言の解除前から電話での診察を受けたことがある場合を含む）                     |
| 02 | インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療を受けた（緊急事態宣言の解除前からオンラインでの診察を受けたことがある場合を含む） |
| 03 | 普段とは異なる医療機関に通院していた  |
| 04 | 上記に当てはまるものはない   |

※「01・02・03」と、「04」の両方の選択がなされないように設定

Q11 【持病あり群のみ】新型コロナウイルスや自分の病気に対する不安について、どのように感じますか。＜単数回答＞

- |    |  |
|----|--|
| 01 | 通院することに伴う新型コロナウイルス感染を、不安に感じることはない                        |
| 02 | 通院することに伴う新型コロナウイルス感染の不安はあるが、通院しないことに伴う自分の病気の方の不安が大きい     |
| 03 | 通院することに伴う新型コロナウイルス感染の不安と、通院しないことに伴う自分の病気の不安は同じくらいの大きさである |
| 04 | 通院しないことに伴う自分の病気の不安よりも、通院することに伴う新型コロナウイルス感染の不安の方が大きい      |

## ② あなたの外来の受診の状況についてお尋ねします。

■ここでの外来の受診状況については、先ほどお答えいただいた【今年(2020年)の2月以降(国内で新型コロナウイルス感染者が確認され、さらに感染者数が増加して以降)に、医療機関の受診を検討するような体調不良を経験したことがあった】と回答していただいた症状についてお答えください。

※Q12～15は、「持病なし 体調不良あり群」のみが回答対象

Q12 【持病なし 体調不良あり群のみ】先ほどの設問でお答えいただいた、今年(2020年)の2月以降における、「医療機関の受診を検討するような体調不良」について、それを経験したのは何月頃ですか。複数回あった場合は、最も早い月をご回答ください。＜単数回答＞

01 2020年2月	02 2020年3月
03 2020年4月	04 2020年5月
05 2020年6月	06 2020年7月
07 2020年8月	08 2020年9月

### ＜参考＞新型コロナウイルス感染に係る推移

- ・1月16日 厚生労働省が国内初の感染者確認を公表
- ・2月5日 クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」において陽性が確認された10人が、神奈川県内の医療機関に搬送される
- ・2月27日 安倍首相が全国の小中高校に3月2日からの臨時休校を要請
- ・3月24日 東京オリンピック・パラリンピックの延期決定
- ・4月7日 埼玉・千葉・東京・神奈川・大阪・兵庫・福岡の7都府県に緊急事態宣言
- ・4月16日 緊急事態宣言が全国に拡大される
- ・5月14日 39県で緊急事態宣言が解除される
- ・5月21日 京都・大阪・兵庫で緊急事態宣言が解除される
- ・5月25日 全都道府県で緊急事態宣言が解除される

Q13 【持病なし 体調不良あり群のみ】あなたは、前の問でご回答いただいた、医療機関の受診を検討するような体調不良があった際に、どの診療科を受診することを考えましたか。最も当てはまるもの1つを選択してください。＜単数回答＞

01 内科	02 耳鼻咽喉科
03 外科	04 アレルギー科
05 呼吸器科	06 皮膚科
07 泌尿器科	08 整形外科
09 眼科	10 産婦人科
11 神経内科	12 精神科
13 その他の診療科	

Q14 【持病なし 体調不良あり群のみ】あなたは、前々問でご回答いただいた、医療機関の受診を検討するような体調不良があった際に、実際に医療機関を受診しましたか。【複数回答】

- 01 ふだん受診することが多い医療機関を、外来で受診した
- 02 ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関を、外来で受診した
- 03 電話を利用して、医師の診療を受けた
- 04 インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療を受けた
- 05 外来での受診はしなかった ⇒Q14-1～Q14-2 へ

※「01・02」と、「05」の両方の選択がなされないように設定

※「01・02・05」のうち1つ以上を必ず選択するように設定

Q14-1 【持病なし 体調不良あり群、かつ Q14 で 05 を選択した場合のみ】医療機関の受診を検討するような体調不良があったにもかかわらず、医療機関を外来で受診しなかった理由は何ですか。【複数回答】

- 01 医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから
- 02 他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから
- 03 医師や看護師から受診しないように言われたから
- 04 家族から受診しないように言われたから
- 05 病状・体調が悪かったから
- 06 病状・体調が回復したから
- 07 電話やオンラインで診療を受けたから
- 08 市販の薬を飲んで症状に対処していたから
- 09 自身の体調管理により、受診する必要性を感じなくなったから
- 10 受診する時間がとれなかったから
- 11 外出自体をしないようにしていたから
- 12 入院していたから
- 13 その他 ( )
- 14 特に理由はない

※「01～13」と、「14」の両方の選択がなされないように設定

Q14-2 【持病なし 体調不良あり群、かつ Q14 で 05 を選択した場合のみ】医療機関の受診を検討するような体調不良があった際に、あなたが受診しなかったことで、体調の変化を感じましたか。＜単数回答＞

- 01 受診しなくても体調が回復した
- 02 特に体調が悪くなったとは感じない
- 03 体調が少し悪くなったと感じる
- 04 体調がとても悪くなったと感じる
- 05 わからない

Q15 【持病なし 体調不良あり群のみ】今後の国全体の新型コロナウイルスの感染状況に応じた医療機関の受診のあり方について、どのようにお考えですか。＜単数回答＞

- 01 新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しなくても、以前と同様に受診するか否かを判断したいと考えている
- 02 新型コロナウイルスの感染が国全体で収束するまでは、以前よりも慎重に受診するか否かを判断したいと考えている
- 03 新型コロナウイルスの感染が国全体で収束しても、以前よりも慎重に受診するか否かを判断したいと考えている
- 04 その他 ( )



### ③ あなたの入院や手術の状況についてお尋ねします。

Q16 あなたは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）、入院（検査入院を含む）していた期間がありますか。また、その入院について、新型コロナウイルス感染拡大を理由にした、入院期間の短縮（早期退院）や転院がありましたか。＜単数回答＞

- 01 4～5 月中に入院していた期間があったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院期間の短縮（早期退院）や転院があった
- 02 4～5 月中に入院していた期間があったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院期間の短縮（早期退院）や転院はなかった
- 03 4～5 月中に入院していた期間はなかった

Q17 あなたは、緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）の入院予定（検査入院を含む）がありましたか。また、その入院について、新型コロナウイルス感染拡大を理由にした、入院の延期や中止がありましたか。＜単数回答＞

- 01 4～5 月中に入院する予定があったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院の延期や中止があった ⇒Q17-1 へ
- 02 4～5 月中に入院する予定があったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院の延期や中止はなかった
- 03 4～5 月中に入院する予定はなかった

Q17-1 【Q17で01を選択した場合のみ】入院の延期や中止によって、体調の変化を感じましたか。＜単数回答＞

- 01 入院しなくても体調が回復した
- 02 特に体調が悪くなったとは感じない
- 03 体調が少し悪くなったと感じる
- 04 体調がとても悪くなったと感じる
- 05 わからない

Q18 あなたは、手術を、緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）に受ける予定がありましたか。また、その手術について、新型コロナウイルス感染拡大を理由にした、手術の延期や中止がありましたか。＜単数回答＞

- 01 4～5 月中に手術を受ける予定があったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止があった
- 02 4～5 月中に手術を受ける予定があったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止はなかった
- 03 4～5 月中に手術を受ける予定はなかった



#### ④ あなたと同居している方についてお尋ねします。

Q19 同居している方について、すべてお選びください。(年齢は回答日現在)【複数回答】

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 01 0歳児と同居 ⇒Q20～Q25へ    | 02 1歳～6歳児と同居 ⇒Q20～Q25へ  |
| 03 7歳～14歳と同居 ⇒Q20～Q25へ | 04 15歳～39歳と同居           |
| 05 40歳～64歳と同居          | 06 65歳～74歳と同居 ⇒Q26～Q31へ |
| 07 75歳以上と同居 ⇒Q26～Q31へ  | 08 一人暮らし(同居者はいない)       |

※「01～07」と、「08」の両方の選択がなされないように設定

Q20 【Q19で01・02・03の1つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する14歳以下の子どもの中に、**昨年(2019年)の12月頃**の状況として、持病(けがを除く)の治療のために、医療機関に**定期的に**通院していた方はいますか。<単数回答>

- |                                 |
|---------------------------------|
| 01 定期的に通院していた子どもがいる ⇒Q21を経てQ22へ |
| 02 定期的に通院した子どもはいない ⇒Q21へ        |

Q21 【Q19で01・02・03の1つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する14歳以下の子どもの中に、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が出ていた頃(2020年4～5月頃)に、医療機関の受診を検討するような体調不良を経験した方はいますか。<単数回答>

- |   |
|---|
| 01 医療機関の受診を検討するような体調不良があった子どもがいる(実際には受診したか否かは問いません) ⇒Q22へ |
| 02 体調不良を経験した子どもがいるが、医療機関を受診しようと思うほどの症状ではなかった              |
| 03 体調不良を経験した子どもはいない                                       |

Q22 【Q20 で 01 を選択したか、Q21 で 01 を選択した場合のみ】あなたと同居する 14 歳以下のこどものうち、「昨年 (2019 年) の 12 月頃の状況として定期的に通院していた」あるいは「緊急事態宣言が出ていた頃 (2020 年 4~5 月頃)に医療機関の受診を検討するような体調不良を経験した」方 (注) について、医療機関を外来で受診しましたか。【複数回答】  
注: 該当するこどもが 2 人以上いる場合、より年齢の低いこどもについてお答えください。

- 01 ふだん受診することが多い医療機関を、外来で受診した
- 02 ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関を、外来で受診した
- 03 電話を利用して、医師の診療を受けた
- 04 インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療を受けた
- 05 外来での受診はしなかった ⇒Q22-1~Q22-2 へ
- 06 わからない

※ 「01・02」と、「05」の両方の選択がなされないように設定

※ 「01~05」と、「06」の両方の選択がなされないように設定

※ 「01・02・05・06」のうち 1 つ以上を必ず選択するように設定

Q22-1 【Q22 で 05 を選択した場合のみ】定期的な通院をしていた、または医療機関の受診を検討するような体調不良があったにもかかわらず、そのこどもが医療機関を外来で受診しなかった理由は何ですか。【複数回答】

- 01 医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから
- 02 他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから
- 03 医師や看護師から通院・受診をしないように言われたから
- 04 家族から通院・受診をしないように言われたから
- 05 本人が通院・受診を拒否したから
- 06 病状・体調が悪かったから
- 07 病状・体調が回復したから
- 08 電話やオンラインで診療を受けたから
- 09 普段よりも長い日数分の薬の処方を受けたから
- 10 市販の薬を飲んで症状に対処していたから
- 11 通院・受診する時間がとれなかったから
- 12 外出自体をしないようにしていたから
- 13 そのこどもが入院していたから
- 14 その他 ( )
- 15 特に理由はない
- 16 わからない

※ 「01~14」と、「15」の両方の選択がなされないように設定

※ 「01~15」と、「16」の両方の選択がなされないように設定

Q22-2 【Q22 で 05 を選択した場合のみ】医療機関の受診を検討するような体調不良があった際に、そのこどもが通院しなかったことで、体調の変化を感じましたか。＜単数回答＞

- 01 受診しなくても体調が回復した
- 02 特に体調が悪くなったとは感じない
- 03 体調が少し悪くなったと感じる
- 04 体調がとても悪くなったと感じる
- 05 わからない

Q23 【Q19 で 01・02・03 の 1 つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する 14 歳以下のこどもの中に、緊急事態宣言が出ていた頃（**2020 年 4～5 月頃**）、入院（検査入院を含む）していた期間がある方はいますか。また、その入院について、新型コロナウイルス感染拡大を理由にした、**入院期間の短縮（早期退院）や転院**がありましたか。＜単数回答＞

注：該当するこどもが 2 人以上いて、片方が「a.」、もう片方が「b.」に該当する場合、「a.」を選択してください。

- a. 4～5 月中に入院していた期間のあるこどもがいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院期間の短縮（早期退院）や転院があった
- b. 4～5 月中に入院していた期間のあるこどもがいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院期間の短縮（早期退院）や転院はなかった
- c. 4～5 月中に入院していた期間のあるこどもはいない

Q24 【Q19 で 01・02・03 の 1 つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する 14 歳以下のこどもの中に、緊急事態宣言が出ていた頃（**2020 年 4～5 月頃**）の入院予定（検査入院を含む）があった方はいますか。また、その入院について、新型コロナウイルス感染拡大を理由にした、**入院の延期や中止**がありましたか。＜単数回答＞

注：該当するこどもが 2 人以上いて、片方が「a.」、もう片方が「b.」に該当する場合、「a.」を選択してください。

- a. 4～5 月中に入院する予定があったこどもがいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院の延期や中止があった ⇒Q24-1 へ
- b. 4～5 月中に入院する予定があったこどもがいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院の延期や中止はなかった
- c. 4～5 月中に入院する予定があったこどもはいない

Q24-1 【Q24 で 01 を選択した場合のみ】入院の延期や中止によって、体調の変化を感じましたか。＜単数回答＞

- 01 入院しなくても体調が回復した
- 02 特に体調が悪くなったとは感じない
- 03 体調が少し悪くなったと感じる
- 04 体調がとても悪くなったと感じる
- 05 わからない

Q25 【Q19 で 01・02・03 の 1 つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する 14 歳以下の子どもの中に、手術を、緊急事態宣言が出ていた頃（**2020 年 4～5 月頃**）に受ける予定があった方はいますか。また、その手術について、新型コロナウイルス感染拡大を理由にした、手術の延期や中止がありましたか。＜単数回答＞

注：該当する子どもが 2 人以上いて、片方が「a.」、もう片方が「b.」に該当する場合、「a.」を選択してください。

- a. 4～5 月中に手術する予定があった子どもがいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止があった
- b. 4～5 月中に手術する予定があった子どもがいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止はなかった
- c. 4～5 月中に手術する予定があった子どもはいない

Q26 【Q19で06・07の1つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する65歳以上の高齢者の中に、**昨年(2019年)の12月頃**の状況として、持病(けがを除く)の治療のために、医療機関に**定期的に**通院していた方はいますか。<単数回答>

- 01 定期的に通院していた高齢者がいる ⇒Q27を経てQ28へ
- 02 定期的に通院した高齢者はいない ⇒Q27へ

Q27 【Q19で06・07の1つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する65歳以上の高齢者の中に、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が出ていた頃(**2020年4~5月頃**)に、医療機関の受診を検討するような体調不良を経験した方はいますか。<単数回答>

- 01 医療機関の受診を検討するような体調不良があった高齢者がいる(実際には受診したか否かは問いません) ⇒Q28へ
- 02 体調不良を経験した高齢者がいるが、医療機関を受診しようと思うほどの症状ではなかった
- 03 体調不良を経験した高齢者はいない

Q28 【Q26で01を選択したか、Q27で01を選択した場合のみ】あなたと同居する65歳以上の高齢者のうち、「**昨年(2019年)の12月頃**の状況として定期的に通院していた」あるいは「緊急事態宣言が出ていた頃(**2020年4~5月頃**)に医療機関の受診を検討するような体調不良を経験した」方について、医療機関を外来で受診しましたか。【複数回答】  
注:該当する高齢者が2人以上いる場合、より年齢の高い高齢者についてお答えください。

- 01 ふだん受診することが多い医療機関を、外来で受診した
- 02 ふだん受診することが多い医療機関とは別の医療機関を、外来で受診した
- 03 電話を利用して、医師の診療を受けた
- 04 インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療を受けた
- 05 外来での受診はしなかった ⇒Q28-1~Q28-2へ
- 06 わからない

- ※「01・02」と、「05」の両方の選択がなされないように設定
- ※「01~05」と、「06」の両方の選択がなされないように設定
- ※「01・02・05・06」のうち1つ以上を必ず選択するように設定

Q28-1 【Q28 で 05 を選択した場合のみ】定期的な通院をしていた、または医療機関の受診を検討するような体調不良があったにもかかわらず、その高齢者が医療機関を外来で受診しなかった理由は何ですか。【複数回答】

- 01 医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから
- 02 他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから
- 03 医師や看護師から通院・受診をしないように言われたから
- 04 家族から通院・受診をしないように言われたから
- 05 本人が通院・受診を拒否したから
- 06 病状・体調が悪かったから
- 07 病状・体調が回復したから
- 08 電話やオンラインで診療を受けたから
- 09 普段よりも長い日数分の薬の処方を受けたから
- 10 市販の薬を飲んで症状に対処していたから
- 11 通院・受診する時間がとれなかったから
- 12 外出自体をしないようにしていたから
- 13 その高齢者が入院していたから
- 14 その他 ( )
- 15 特に理由はない
- 16 わからない

※「01～14」と、「15」の両方の選択がなされないように設定

※「01～15」と、「16」の両方の選択がなされないように設定

Q28-2 【Q28 で 05 を選択した場合のみ】医療機関の受診を検討するような体調不良があった際に、その高齢者が通院しなかったことで、体調の変化を感じましたか。＜単数回答＞

- 01 受診しなくても体調が回復した
- 02 特に体調が悪くなったとは感じない
- 03 体調が少し悪くなったと感じる
- 04 体調がとても悪くなったと感じる
- 05 わからない

Q29 【Q19 で 06・07 の 1 つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する 65 歳以上の高齢者の中に、緊急事態宣言が出ていた頃（2020 年 4～5 月頃）、入院（検査入院を含む）していた期間がある方はいますか。また、その入院について、新型コロナウイルス感染拡大を理由にした、**入院期間の短縮（早期退院）**や**転院**がありましたか。＜単数回答＞

注：該当する高齢者が 2 人以上いて、片方が「a.」、もう片方が「b.」に該当する場合、「a.」を選択してください。

- a. 4～5 月中に入院していた期間のある高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院期間の短縮（早期退院）や転院があった
- b. 4～5 月中に入院していた期間のある高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院期間の短縮（早期退院）や転院はなかった
- c. 4～5 月中に入院していた期間のある高齢者はいない



Q30 【Q19で06・07の1つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する65歳以上の高齢者の中に、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月）の入院予定（検査入院を含む）があった方はいますか。また、その入院について、新型コロナウイルス感染拡大を理由にした、入院の延期や中止がありましたか。＜単数回答＞  
注：該当する高齢者が2人以上いて、片方が「a.」、もう片方が「b.」に該当する場合、「a.」を選択してください。

- a. 4～5月中に入院する予定があった高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院の延期や中止があった ⇒q30-1へ
- b. 4～5月中に入院する予定があった高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入院の延期や中止はなかった
- c. 4～5月中に入院する予定があった高齢者はいない

Q30-1 【Q30で01を選択した場合のみ】入院の延期や中止によって、体調の変化を感じましたか。＜単数回答＞

- 01 入院しなくても体調が回復した
- 02 特に体調が悪くなったとは感じない
- 03 体調が少し悪くなったと感じる
- 04 体調がとても悪くなったと感じる
- 05 わからない

Q31 【Q19で06・07の1つ以上を選択した場合のみ】あなたと同居する65歳以上の高齢者の中に、手術を、緊急事態宣言が出ていた頃（2020年4～5月頃）に受ける予定があった方はいますか。また、その手術について、新型コロナウイルス感染拡大を理由にした、手術の延期や中止がありましたか。＜単数回答＞  
注：該当する高齢者が2人以上いて、片方が「a.」、もう片方が「b.」に該当する場合、「a.」を選択してください。

- a. 4～5月中に手術する予定があった高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止があった
- b. 4～5月中に手術する予定があった高齢者がいるが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う手術の延期や中止はなかった
- c. 4～5月中に手術する予定があった高齢者はいない



## ⑤ 健康・医療に対する意識や健康診断の受診状況についてお尋ね します。

Q32 あなたは、新型コロナウイルス感染拡大下において、健康診断を予定していましたか。また実際に予定していた健康診断を受けましたか。〈単数回答〉

- 01 健康診断を予定しており、予定通り受けた
- 02 健康診断を予定していたが、予定よりも遅れて受けた ⇒Q32-1 へ
- 03 健康診断を予定していたが、現在もまだ受けていない ⇒Q32-1 へ
- 04 健康診断の予定はなかった

Q32-1 新型コロナウイルス感染拡大下において、予定していた健康診断について、時期を遅らせた、あるいはまだ受けていない理由は何ですか。【複数回答】

- 01 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、自分自身の判断で延期しようと考えた
- 02 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、まわりの人の勧めで延期しようと考えた
- 03 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医師の指示によって延期することとなった
- 04 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、健診機関側の都合（受付可能数の減少のため予約できないなど）によって延期することとなった
- 05 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、職場等の指示によって延期することとなった
- 06 その他（新型コロナウイルス感染拡大とは関係のない延期など）

Q33 新型コロナウイルスに関して、健康診断時にあなたが一緒に受けたいと感じる、あるいは感じた検査はありますか。【複数回答】

- 01 「PCR 検査」（現在新型コロナウイルスに感染しているかを調べる検査）を受けたい
- 02 「抗原検査」（現在新型コロナウイルスに感染しているかを調べる検査で、PCR 検査と比べて、簡便に行えて結果もすぐに出るが、感染者が陰性と判定されるケースも多い）を受けたい
- 03 「抗体検査」（過去に新型コロナウイルスに感染したことがあるかを調べる検査で、現在感染しているかの把握はできない）を受けたい
- 04 上記のいずれも受けたいとは思わない

※「01～03」と、「04」の両方の選択がなされないように設定

Q34 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために、あなたが特に必要だと感じている対策を上位3つまでお答えください。(答えは3つまで)

- |                               |
|-------------------------------|
| 01 マスクや手洗いなどの個人の予防対策          |
| 02 緊急事態宣言による外出自粛要請などの国の施策     |
| 03 時差通勤や在宅勤務などの各企業の取り組み       |
| 04 健康保険制度により、低額で検査や治療が受けられること |
| 05 専門的な医療機関の整備などの医療提供体制の充実    |
| 06 治療薬やワクチンの研究開発              |
| 07 感染しているかを調べる検査の実施拡大         |
| 08 その他 ( )                    |

Q35 新型コロナウイルス感染拡大を契機に、あなたの病気や健康にかかわる意識は今後、どのように変わるとお考えですか。【複数回答】

- |   |
|---|
| 01 以前に比べ、生活習慣病の予防に関心を持つようになると思う                     |
| 02 以前に比べ、生活習慣病以外の病気の予防や健康管理に関心を持つようになると思う           |
| 03 以前に比べ、こまめに医療機関を受診しようとするようになると思う                  |
| 04 以前に比べ、医療機関を受診するかどうかを慎重に考えるようになると思う               |
| 05 以前に比べ、一度により長い日数の薬の処方を受けて、受診の頻度を減らそうと考えることが増えると思う |
| 06 以前に比べ、医療機関の受診にかえて、市販の薬を服用することが増えると思う             |
| 07 オンラインでの受診を活用しようとすることが増えると思う                      |
| 08 オンラインを通じた薬の配送を活用しようとすることが増えると思う                  |
| 09 オンラインでの健康相談を活用しようとすることが増えると思う                    |
| 10 ドラッグストアなど、医療機関以外での健康相談を活用しようとすることが増えると思う         |
| 11 その他 ( )  |
| 12 特に意識は変わらないと思う                                    |

※「01～11」と、「12」の両方の選択がなされないように設定

Q36 新型コロナウイルス感染症の治療にかかる医療費は、現在、通常時の自己負担分（現役世代の場合は3割）が税金を主たる財源とする公費でまかなわれ、それ以外の部分（現役世代の場合は7割）が保険料を主たる財源とする医療保険から給付されています。このことを、あなたは知っていましたか。＜単数回答＞

- |          |           |
|----------|-----------|
| 01 知っていた | 02 知らなかった |
|----------|-----------|



## ⑥ オンライン診療に関する意識についてお尋ねします。

Q38 【Q8で02、またはQ10で02、またはQ14で04を選択した（＝コロナ下でオンライン診療を受けた旨の回答を既に行っている）人を除く】あなたはこれまでに、インターネットやテレビ電話を利用して、オンラインで医師の診療を受けたことがありますか。

01 ある ⇒Q38-1～Q38-2へ

02 ない ⇒Q38-3へ

Q38-1 【Q8で02、またはQ10で02、またはQ14で04、またはQ38で01を選択した（＝オンライン診療を受けた旨の回答をした）人のみ】あなたが、インターネットやテレビ電話を利用してオンラインで診療を受けた経緯として、当てはまる番号を選択してください。  
【複数回答】

- 01 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療機関からのすすめや指示があり、初診をオンラインで受けた
- 02 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療機関からのすすめや指示があり、再診をオンラインで受けた
- 03 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、あなた自身の希望やまわりの方からのすすめによって、初診をオンラインで受けた
- 04 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、あなた自身の希望やまわりの方からのすすめによって、再診をオンラインで受けた
- 05 新型コロナウイルス感染拡大とは関係なく、医療機関からのすすめや指示があり、初診をオンラインで受けた
- 06 新型コロナウイルス感染拡大とは関係なく、医療機関からのすすめや指示があり、再診をオンラインで受けた
- 07 新型コロナウイルス感染拡大とは関係なく、あなた自身の希望やまわりの方からのすすめによって、初診をオンラインで受けた
- 08 新型コロナウイルス感染拡大とは関係なく、あなた自身の希望やまわりの方からのすすめによって、再診をオンラインで受けた
- 09 上記に当てはまるものはない

Q38-2 【問 11 で 02、または問 13 で 02、または問 17 で 04、または問 41 で 01 を選択した (= オンライン診療を受けた旨の回答をした) 人のみ】あなたが、インターネットやテレビ電話を利用してオンラインで診療を受けた感想として、当てはまる番号を選択してください。【複数回答】

- |    |  |
|----|--|
| 01 | 自宅で受診できるため、便利だと感じる                         |
| 02 | 自宅で受診できるため、気軽に受診ができるようになったと感じる             |
| 03 | 自宅で受診できるため、通院のための体力的な負担が減ったと感じる            |
| 04 | 医療機関での待ち時間がなくなり、便利だと感じる                    |
| 05 | 医療機関に行く回数が減り、感染症にかかる心配が小さくなったと感じる          |
| 06 | 薬の受け取りに薬局に行ったため、通常の通院と利便性はさほど変わらないと感じる     |
| 07 | 普段の生活状況を医師に見せることができ、病状や生活状況の説明がしやすくなったと感じる |
| 08 | 直接の対面でないため、十分な診察がされているか不安を感じる              |
| 09 | 通信機器の状況が悪く、音声や画像が鮮明でないと感じる                 |
| 10 | 受診に当たり、通信機器の設定や操作方法が難しいと感じる                |
| 11 | 診療費の支払いに当たり、通信機器の設定や操作方法が難しいと感じる           |
| 12 | その他 ( )                                    |
| 13 | 特に感想はない                                    |

※「01～12」と、「13」の両方の選択がなされないように設定

Q38-3 【Q38 で 02 を選択した人のみ】インターネットやテレビ電話を利用したオンラインでの診療について、あなたの考えにあてはまるものを選択してください。【複数回答】

- |    |   |
|----|---|
| 01 | 自宅で受診できるため、便利であると思う                         |
| 02 | 自宅で受診できるため、気軽に受診ができるようになると思う                |
| 03 | 自宅で受診できるため、通院のための体力的な負担が減ると思う               |
| 04 | 医療機関での待ち時間がなくなり、便利だと感じると思う                  |
| 05 | 医療機関に行く回数が減り、感染症にかかる心配が小さくなると思う             |
| 06 | 薬の受け取りに薬局に行く必要があるのならば、通常の通院と利便性はさほど変わらないと思う |
| 07 | 普段の生活状況を医師に見せることができ、病状や生活状況の説明がしやすくなると思う    |
| 08 | 直接の対面でないため、十分な診察が受けられるのかが不安に思う              |
| 09 | 通信機器の状況によっては、音声や画像が鮮明に伝わらないのではないかと不安に思う     |
| 10 | 通信機器の設定や操作に手間取ると思う                          |
| 11 | オンライン診療のイメージがわからない                          |
| 12 | その他 ( )                                     |

Q38-4 今後、体調が悪くなって医療機関を初診で受診しようとする場合に、インターネットやテレビ電話を利用した、オンラインでの診療の利用をしたいと思いますか。＜単数回答＞

- |    |                 |
|----|-----------------|
| 01 | とても利用したいと思う     |
| 02 | 利用したいと思う        |
| 03 | あまり利用したいとは思わない  |
| 04 | まったく利用したいとは思わない |

Q38-5 今後、医療機関を再診で受診しようとする場合に、インターネットやテレビ電話を利用した、オンラインでの診療の利用をしたいと思いますか。＜単数回答＞

- 01 とても利用したいと思う
- 02 利用したいと思う
- 03 あまり利用したいとは思わない
- 04 まったく利用したいとは思わない

## ⑦ ふだんからの医療機関のかかりかたについてお尋ねします。

Q39 あなたは、日頃から健康の相談をしたり病気になったりしたときに、決まって診察を受ける医師・医療機関がありますか。＜単数回答＞

- 01 病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいる ⇒Q39-1～Q39-2 へ
- 02 この病気ならこの先生という意味でなら、決まった医師がいる
- 03 いつもかかる医療機関はあるが、診察を受ける医師は決まっていない
- 04 そのような医師・医療機関はない ⇒Q39-3 へ

Q39-1【問 42 で 01 を選択した人のみ】前問で「病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいる」とお答えの方にお伺いします。その医師に決めた主な理由は何ですか。【複数回答】

- 01 自宅から近く通院が便利であること
- 02 勤務地から近く通院が便利であること
- 03 電話やオンラインでの診療に対応してくれること
- 04 医師・医療機関の評判がよいこと
- 05 必要なときにいつでも連絡がとれ、適切な指示をしてくれること
- 06 医師の人柄が良いこと
- 07 医師が信頼できること
- 08 病気や治療についてよく説明してくれること
- 09 健康や疾病予防、医療・介護の相談に気軽に応じてくれること
- 10 どんな病気でも診てくれること
- 11 いつでも電話相談等の連絡が可能であること
- 12 深夜や休日などの緊急時にも診てくれること
- 13 往診を頼んでも断らないこと
- 14 あなたの病歴や健康状態などをよく知っていること
- 15 健康診断や受診履歴などのあなたの健康情報を用いて、継続的に健康管理をしてくれること
- 16 あなたのご家族の病歴や健康状態などもよく知っていること
- 17 医師の診察技術が優れていること
- 18 必要なときに、適切な医師・医療機関・訪問看護ステーション等を紹介してくれること
- 19 最新の設備が整えられていること
- 20 待ち時間が少ないこと
- 21 プライバシーへの配慮が行き届いていること
- 22 居心地のよい雰囲気があること
- 23 その他（）
- 24 特に理由はない

※「01～23」と、「24」の両方の選択がなされないように設定



Q39-2【Q39で01を選択した人のみ】前々問で「病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいる」とお答えの方にお伺いします。その医師のいる医療機関はどれですか。＜単数回答＞

- |                    |
|--------------------|
| 01 一般診療所（医院・クリニック） |
| 02 大学病院            |
| 03 国立病院            |
| 04 その他の病院          |

Q39-3【Q39で04を選んだ方のみ】日頃から健康の相談をしたり、病気になったときに決まって診察を受ける医師・医療機関を持たない主な理由は何ですか。【複数回答】

- |  |
|--|
| 01 あまり病気をしないから                               |
| 02 その都度、適当な医療機関を選ぶ方がよいと思うから                  |
| 03 適当な医療機関を選ぶための情報が不足しているから                  |
| 04 適当な医療機関をどう探してよいのか分からないから                  |
| 05 その他（ <span style="float: right;">）</span> |
| 06 特に理由はない                                   |

※「01～05」と、「06」の両方の選択がなされないように設定

Q40 あなたが、日頃から健康の相談をしたり病気になったりしたときに、決まって診察を受ける医師・医療機関に期待することをお選びください。【複数回答】

- |    |   |
|----|---|
| 01 | 自宅から近く通院が便利であること                          |
| 02 | 勤務地から近く通院が便利であること                         |
| 03 | 電話やオンラインでの診療に対応してくれること                    |
| 04 | 医師・医療機関の評判がよいこと                           |
| 05 | 必要なときにいつでも連絡がとれ、適切な指示をしてくれること             |
| 06 | 医師の人柄が良いこと                                |
| 07 | 医師が信頼できること                                |
| 08 | 病気や治療についてよく説明してくれること                      |
| 09 | 健康や疾病予防、医療・介護の相談に気軽に応じてくれること              |
| 10 | どんな病気でも診てくれること                            |
| 11 | いつでも電話相談等の連絡が可能だから                        |
| 12 | 深夜や休日などの緊急時にも診てくれること                      |
| 13 | 往診を頼んでも断らないこと                             |
| 14 | あなたの病歴や健康状態などをよく知っていること                   |
| 15 | 健康診断や受診履歴などのあなたの健康情報を用いて、継続的に健康管理をしてくれること |
| 16 | あなたのご家族の病歴や健康状態などもよく知っていること               |
| 17 | 医師の診察技術が優れていること                           |
| 18 | 必要なときに、適切な医師・医療機関・訪問看護ステーション等を紹介してくれること   |
| 19 | 最新の設備が整えられていること                           |
| 20 | 待ち時間が少ないこと                                |
| 21 | プライバシーへの配慮が行き届いていること                      |
| 22 | 居心地のよい雰囲気があること                            |
| 23 | その他 ( )                                   |
| 24 | 特に期待することはない                               |

※「01～23」と、「24」の両方の選択がなされないように設定

Q41 医療機関の受診のあり方として、次のAとBの2つの考え方について議論されています。  
あなたはどちらに賛成しますか。＜単数回答＞

- A. 病気の症状の程度に関わらず、医療機関の規模とは関係なしに自分の選んだ医療機関を受診する  
B. 最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する

- 01 Aの意見に賛成である ⇒Q41-1へ  
02 Aの意見にどちらかといえば賛成である ⇒Q41-1へ  
03 Bの意見にどちらかといえば賛成である ⇒Q41-2～Q41-3へ  
04 Bの意見に賛成である ⇒Q41-2～Q41-3へ  
05 どちらともいえない

Q41-1【Q41で01・02を選択した人のみ】前問で、「A」の意見に（どちらかといえば）賛成である、とお答えになった理由は何ですか。【複数回答】

- A. 病気の症状の程度に関わらず、医療機関の規模とは関係なしに自分の選んだ医療機関を受診する  
B. 最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する

- 01 いつも高度な医療機能をもつ大病院を受診したいから  
02 いつも同じ医師の診断ばかり受けていては不安だから  
03 その都度、そのときの症状に応じた専門医に診察をしてほしいから  
04 その他（ ）  
05 特に理由はない

※「01～04」と、「05」の両方の選択がなされないように設定

Q41-2【Q41で03・04を選択した人のみ】全問で、「B」の意見に（どちらかといえば）賛成である、とお答えになった理由は何ですか。【複数回答】

- A. 病気の症状の程度に関わらず、医療機関の規模とは関係なしに自分の選んだ医療機関を受診する  
B. 最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する

- 01 まずは、自分のことをよく知っている医師を受診した方が安心だから  
02 医師によって診断結果が異なるのが不安だから  
03 自分だけで、そのときの症状に応じて適切な医療機関を選ぶことが難しいから  
04 その他（ ）  
05 特に理由はない

※「01～04」と、「05」の両方の選択がなされないように設定

Q41-3【Q41 で 03・04 を選択した人のみ】例えば、診療所の医師を事前に選んで登録しておき、体に何か不調を感じたときには、最初にその医師を必ず受診するというきまりが導入され、その医師からの紹介状があるか、救急時以外には病院を自由に受診できないとしたら、どのようにお感じですか。＜単数回答＞

01 全く不安を感じない

02 それほど不安を感じない

03 やや不安を感じる

04 非常に不安を感じる

05 どちらともいえない

## ⑧ 薬局の利用状況や考え方についてお尋ねします。

Q42 あなたは、病院や診療所を受診した際の薬の受け取りを、主にどこで行っていますか。最もよくあてはまるものを選択してください<単数回答>

- 01 受診した医療機関で薬を受け取っている（院内調剤を利用）
- 02 受診した医療機関の近くの薬局に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている
- 03 受診した医療機関がどこであっても、いつも決まった薬局かつ決まった薬剤師に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている ⇒Q42-1 へ
- 04 受診した医療機関がどこであっても、いつも決まった薬局（ただし、薬剤師は決まっていない）に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている ⇒Q42-1 へ
- 05 薬を処方されることがほとんどない

Q42-1【Q42で03・04を選択した人のみ】前問で「いつも決まった薬局に処方箋を持ち込んで、薬を受け取っている」とお答えの方にお伺いします。その薬局をいつも利用している主な理由は何ですか。【複数回答】

- 01 以前からよく利用している薬局だから
- 02 自宅から近いから
- 03 勤務地から近いから
- 04 オンラインでの服薬指導に対応してくれるから
- 05 薬剤の自宅配送に対応してくれるから
- 06 受診している病院・診療所から近いから
- 07 医療機関や知人等から評判を聞いたから
- 08 患者のことを最優先に考えてくれるから
- 09 信頼できる薬剤師がいるから
- 10 人柄の良い薬剤師がいるから
- 11 早く薬を渡してくれるから
- 12 必要な場合、処方した医師に薬の相談をしてもらえるから
- 13 服用方法や副作用、注意事項など、薬について丁寧に説明してくれるから
- 14 服用方法を変更するなど、薬を飲みやすくする相談に応じてくれるから
- 15 服用する薬の種類を減らす相談に応じてくれるから
- 16 ジェネリック医薬品（後発医薬品）について説明してくれるなど、あなたの薬代を安くする方法について相談に応じてくれるから
- 17 処方された薬以外の医薬品や介護用品について、様々な相談に応じてくれるから
- 18 いつでも電話相談等の連絡が可能だから
- 19 深夜や休日などの緊急時にも対応してくれるから
- 20 必要な場合、自宅を訪問して薬の管理・指導をしてくれるから
- 21 プライバシーへの配慮が行き届いているから
- 22 居心地が良い雰囲気があるから
- 23 その他（ )
- 24 特に理由はない

※「01～23」と、「24」の両方の選択がなされないように設定

Q43 あなたが、薬局・薬剤師に期待することをお選びください。【複数回答】

- 01 自宅や勤務地に近いなど、立ち寄りやすい場所にあること
- 02 受診している病院・診療所から近く、処方された薬をすぐ受け取れる場所にあること
- 03 オンラインでの服薬指導に対応してくれること
- 04 薬剤の自宅配送に対応してくれること
- 05 早く薬を渡してくれること
- 06 必要な場合、処方した医師に薬の相談をしてしてくれること
- 07 服用方法や副作用、注意事項など、薬について説明してくれること
- 08 服用方法を変更するなど、薬を飲みやすくする相談に応じてくれること
- 09 服用する薬の種類を減らす相談に応じてくれること
- 10 ジェネリック医薬品（後発医薬品）について説明してくれるなど、あなたの薬代を安くする方法について相談に応じてくれること
- 11 処方された薬以外の医薬品や介護用品について、様々な相談に応じてくれること
- 12 薬の服用履歴などの、あなたの薬に関する情報を一元的にまとめ、継続的に管理をしてくれること
- 13 いつでも電話相談等の連絡が可能であること
- 14 土日や夜間の開局時間が長く、自分の生活スタイルに合っていること
- 15 必要な場合、自宅を訪問して薬の管理・指導をしてくれること
- 16 その他（）
- 17 特に期待することはない

※「01～16」と、「17」の両方の選択がなされないように設定

質問は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症拡大期における  
受診意識調査

報告書

令和3年2月

健康保険組合連合会

〒107-8558 東京都港区南青山1丁目24番4号

TEL : 03-3403-0928

禁無断転載